

横須賀市教育アンケート報告書

（学校教育編）

平成29年（2017年）3月

横須賀市教育委員会

目次

I	調査目的及び実施方法等	1
II	集計結果 ※（ ）内は、設問の対象	
1	基本的属性	
(1)	学年・年齢	3
①	学年（児童生徒）	3
②	年齢（保護者、市民、教員）	5
(2)	勤続年数（教員）	6
(3)	勤務する学校（教員）	7
(4)	子どもが通う学校（保護者）	7
2	子ども自身	
(1)	子どもの長所（児童生徒）	8
(2)	子どもの将来（児童生徒）	8
(3)	子どもの努力（児童生徒）	9
3	家庭生活など	
(1)	子どものことについて意識して取り組んでいること（保護者）	10
(2)	保護者の学校行事や活動への参加状況（保護者）	11
(3)	学校外での勉強の有無（児童生徒）	12
(4)	学校外での勉強時間（児童生徒）	12
(5)	学校外での読書時間（児童生徒）	13
(6)	問題解決（児童生徒）	14
(7)	平日の就寝時間（児童生徒）	14
(8)	健康や体力に関する問題（児童生徒）	15
(9)	運動（児童生徒）	16
(10)	家族との交流（児童生徒）	17
4	地域との関わり	
(1)	地域との交流（児童生徒）	19
(2)	公共の場での行動（児童生徒）	23
(3)	自分の町について（児童生徒）	23
(4)	異国文化への興味・関心（児童生徒）	24

- (5) 地域に開かれた学校への取り組み（保護者、市民、教員）・・・25
- (6) 学校への関わり方（保護者、市民、教員）・・・26
- (7) 学校の教育活動を支援するボランティア活動（保護者、市民、教員）・・・27

5 学校教育など

- (1) 授業理解度（児童生徒、教員）・・・29
- (2) 授業に取り組む姿勢（児童生徒）・・・31
- (3) わかりやすい授業（児童生徒、教員）・・・32
- (4) 園児や他学年、地域との交流（児童生徒）・・・35
- (5) 学校のきまり（児童生徒）・・・35
- (6) 通信簿を渡される時期（児童生徒）・・・36
- (7) 望まれる学校像（児童生徒）・・・37
- (8) クラス活動や学校行事への協力（児童生徒）・・・38
- (9) 担当クラスで困ったこと（教員）・・・39
- (10) 望まれる教師像（児童生徒、保護者、市民、教員）・・・41
- (11) 教員が希望する研修（教員）・・・43
- (12) 教員の仕事の現状（教員）・・・44
- (13) 子どもの教育に必要なだと思うこと（保護者、市民、教員）・・・48
- (14) 基礎的学力向上への取り組み（保護者、教員）・・・50
- (15) いじめ・不登校を未然に防ぐ取り組み（保護者、教員）・・・52
- (16) 教育に関する取り組みへの評価（保護者、市民、教員）・・・54

6 悩みなど

- (1) 悩みなどの有無（教員）・・・57
- (2) 悩みや困ったことの内容（児童生徒、保護者、教員）・・・58
- (3) 落ち込んだ時の対処方法（児童生徒）・・・61
- (4) 相談相手（児童生徒、保護者、教員）・・・62
- (5) いじめはしてはいけないことか（児童生徒）・・・65

7 全体的なこと

- (1) 子どもを取り巻く環境(昔の環境との比較)（保護者、市民、教員）・・・66
- (2) 横須賀市教育振興基本計画について（保護者、市民）・・・70

8 自由意見（一部抜粋）

- (1) 五つの重点課題について（保護者、市民、教員）・・・71
 - (2) 学校のことについて（児童生徒）・・・85
-

I 調査目的及び実施方法等

1 調査目的

本調査は、市民、市内の市立学校に通う児童生徒及びその保護者、並びに教職員が教育に対して何を望んでいるのか、また、どのような考えを持っているのかを把握し、横須賀市教育委員会が平成23年3月に策定した横須賀市教育振興基本計画（計画期間：平成23年度～平成33年度）における次期実施計画期間（平成30年度～平成33年度）の計画策定や今後の教育行政施策の参考とするために実施しました。

2 調査対象及び回収数

(1) 調査の対象

① 児童生徒

地域ごとに学校を選定し、小学校4～6年生と中学校の各学年1クラスずつ、高等学校の全日制各年次2クラスずつ、定時制2年次3クラス、ろう学校（中等部・高等部）の全児童生徒に学校を通して配布・回収しました。

小学校			中学校			高等学校	ろう学校
4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生		
夏島	船越	逸見	鷹取	田浦	不入斗	横須賀総合 全日制 (1～3年次生) 定時制 (2年次生)	中等部 高等部
諏訪	豊島	池上	常葉	池上	衣笠		
大矢部	根岸	望洋	大津	馬堀	鴨居		
小原台	岩戸	神明	岩戸	神明	野比		
野比東	長井	荻野	長沢	長井	大楠		

② 教員

地域ごとに学校を選定し、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教員に配布・回収しました。

小学校			中学校			高等学校	特別支援学校
浦郷	沢山	田戸	追浜	坂本	池上		
城北	森崎	走水	大津	神明	大楠	養護	
鴨居	久里浜	粟田					
大楠							

③ 保護者

地域ごとに学校を選定し、小学校、中学校の各学年1クラスずつ、高等学校の1年次生及び特別支援学校の保護者に学校を通して配布・回収しました。

小学校			中学校			高等学校	特別支援 学 校
1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	横須賀総合	
鷹取	汐入	衣笠	田浦	常葉	大矢部	全日制・定時制 (1年次生)	
4年生	5年生	6年生	鴨居	野比	武山		
大塚台	明浜	富士見					

④ 市民

住民基本台帳から抽出し、郵送にて配布・回収しました。

(2) 調査期間

平成28年(2016年)年10月中旬～12月上旬

(3) アンケート調査票の配布数と回収結果

対 象	配布数	回収数	回収率
	(人) A	(人) B	(%) B/A
児 童 生 徒	1,291	1,276	98.8
教 員	565	534	94.5
保 護 者	529	464	87.7
市 民	994	321	32.3

3 集計結果の表記方法

- (1) 「有効回答数 (n)」は、回答資格者総数から未回答・無効を除いた数値です。
- (2) 「回答率 (%)」は、小数点以下第2位を四捨五入したため、各選択肢の割合の合計が100%とならない場合があります。
- (3) 一人の回答者が二つ以上の回答をすることができる設問は、各選択肢の割合の合計は100%を超えています。
- (4) コメント欄に記載してある前回の結果は、平成24年度に実施した調査結果です。

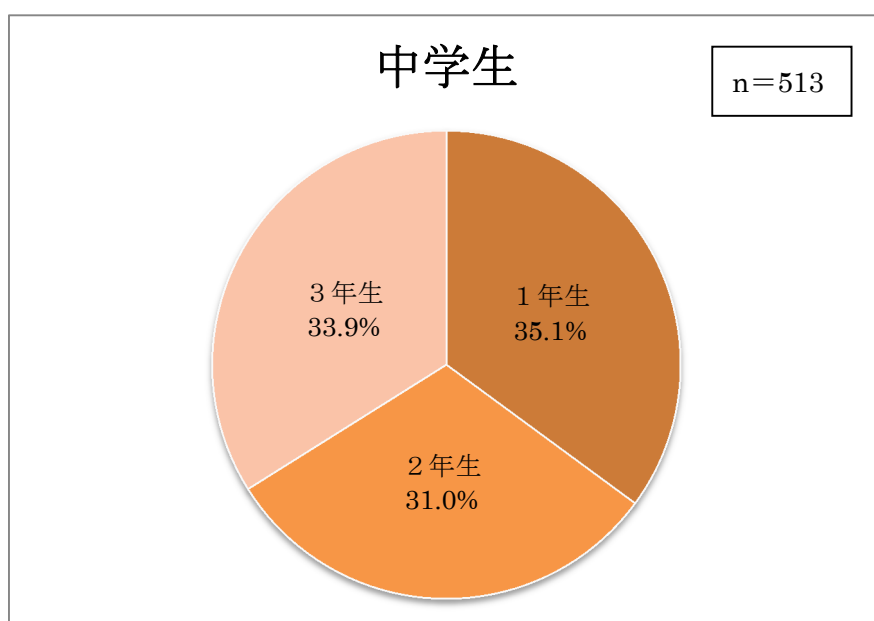
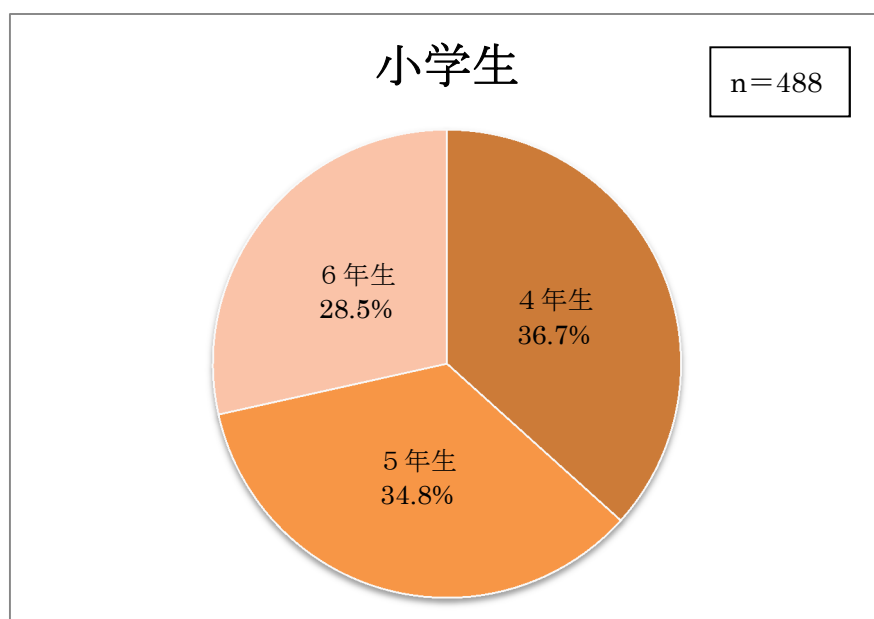
Ⅱ 集計結果

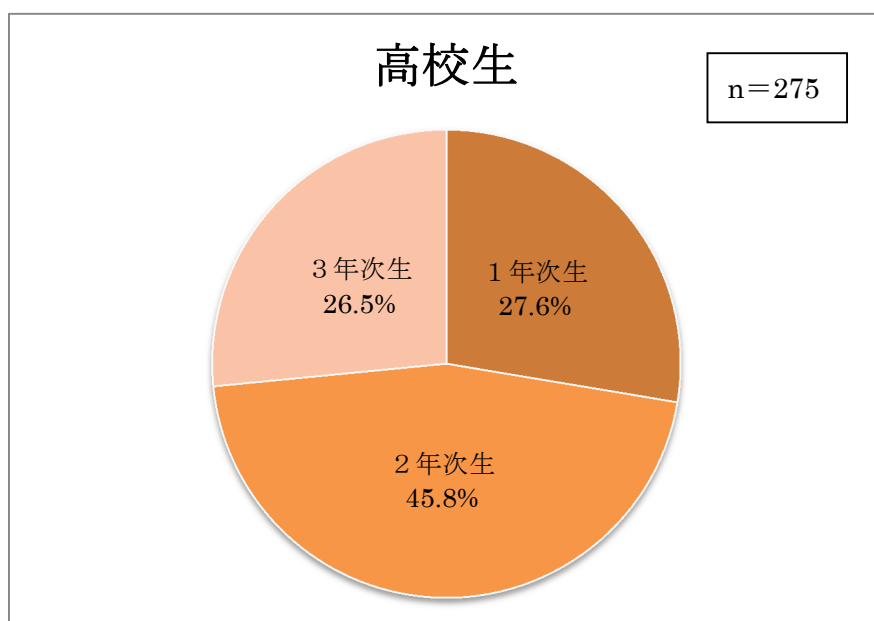
1 基本的属性

(1) 学年・年齢

① 学年

(児童生徒) 問1 あなたは、何年生ですか。(一つに○)



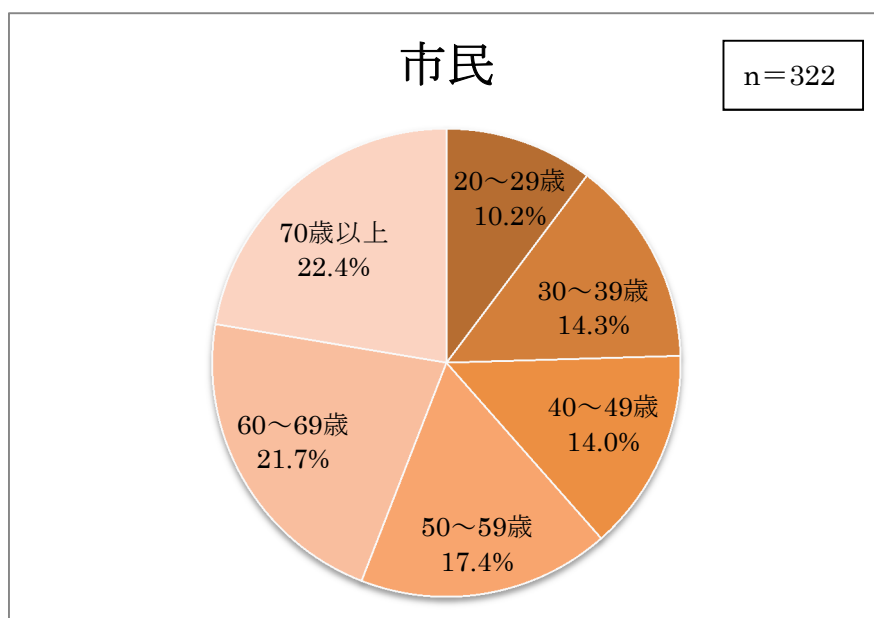
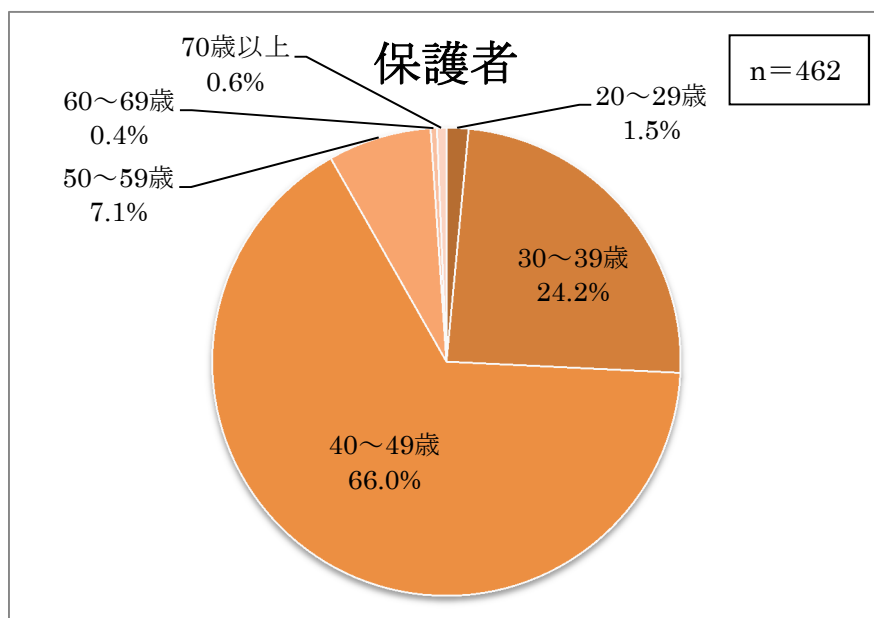


※定時制（高校生）は、2年次生のみ配布

② 年齢

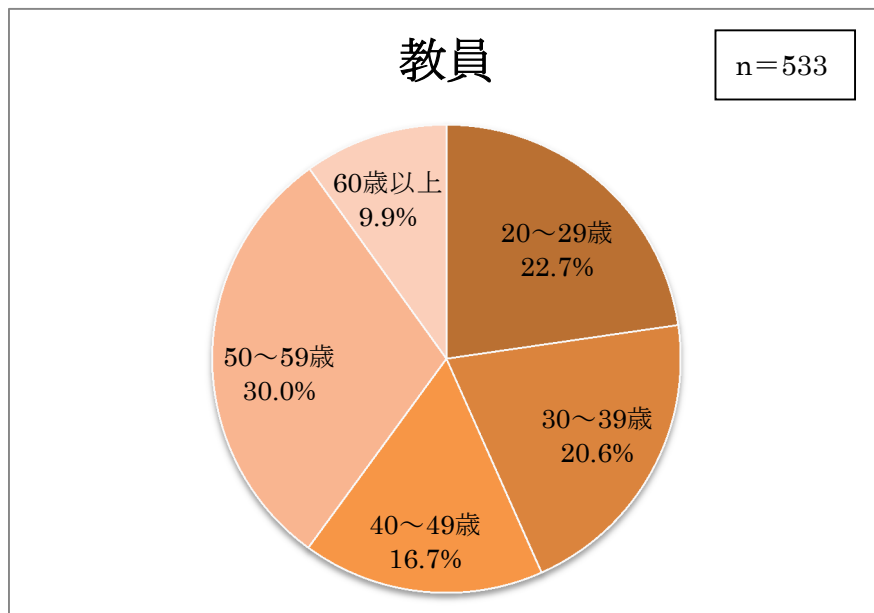
ア 保護者・市民

(保護者・市民) 問1 あなたの年齢を教えてください。



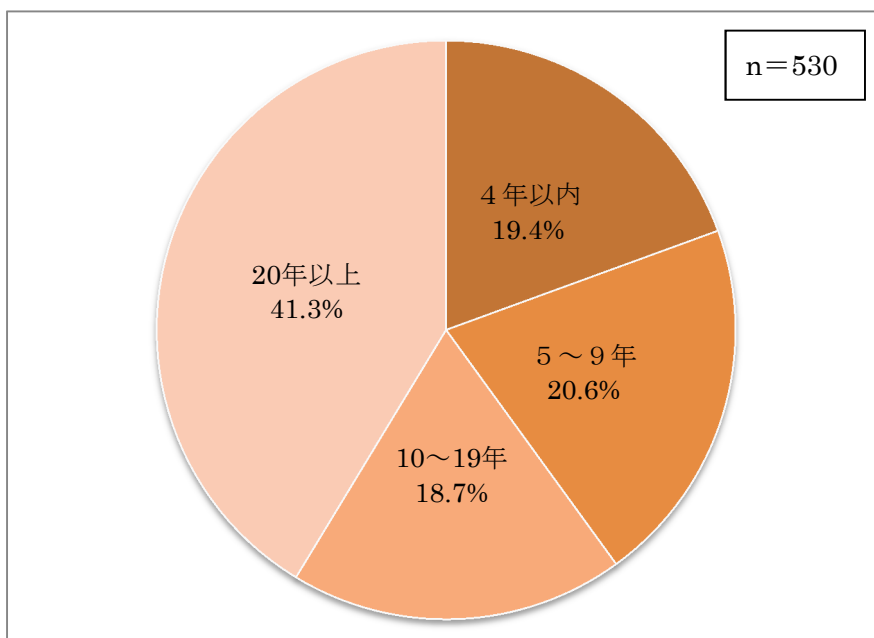
イ 教員

（教員）問1 あなたの年齢は、何歳ですか。



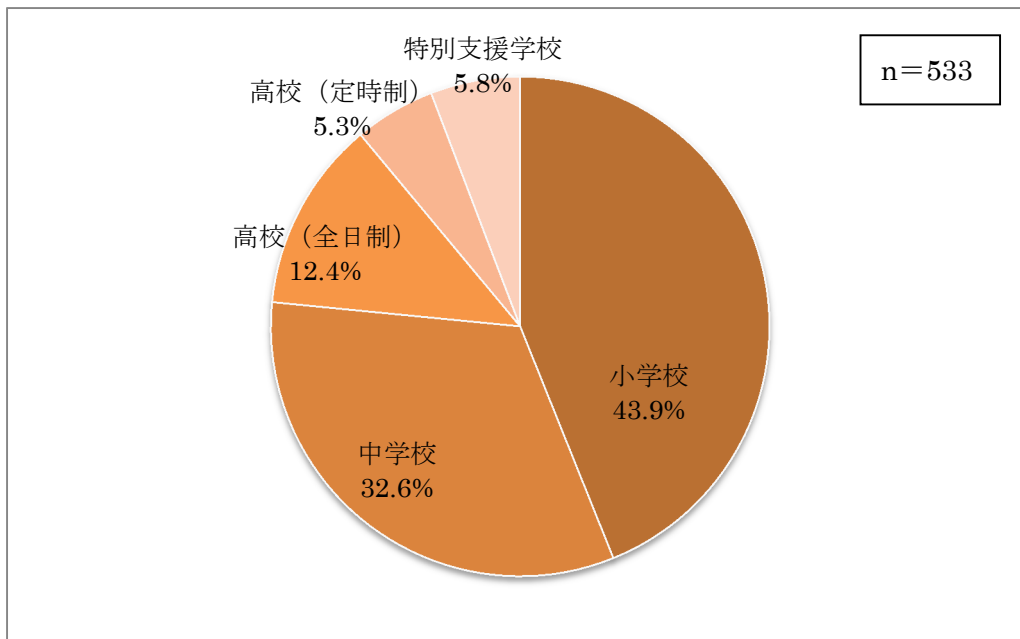
（2）勤続年数

（教員）問2 あなたの教員としての勤続年数は、何年ですか。（一つに○）



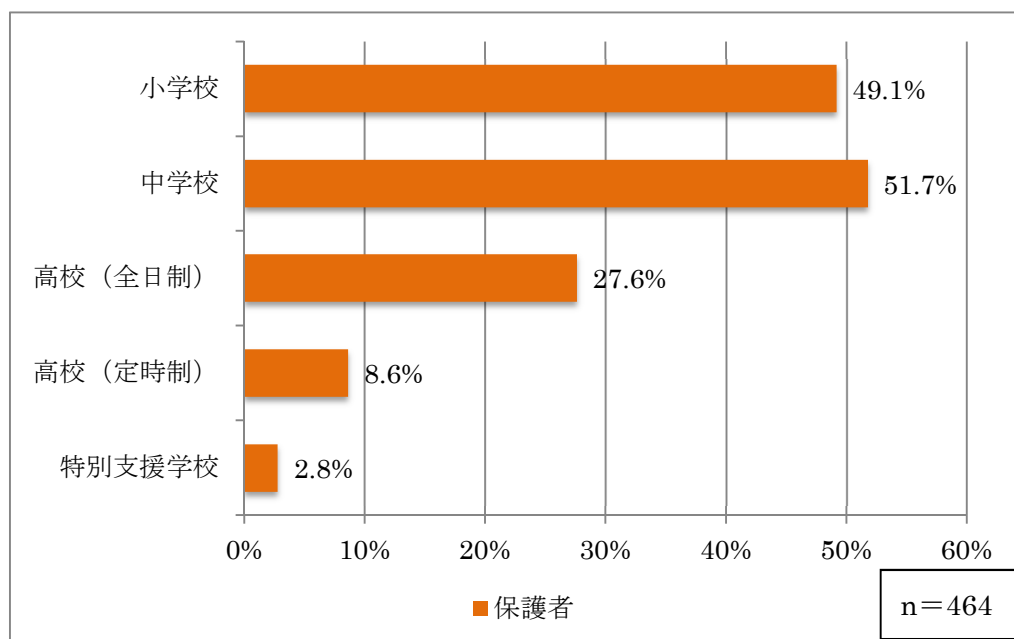
（３）勤務する学校

（教員）問３ あなたの勤務する学校種別をお答えください。（一つに○）



（４）子どもが通う学校

（保護者）問２ お子様は、どの学校に通われていますか。（あてはまるものすべてに○）



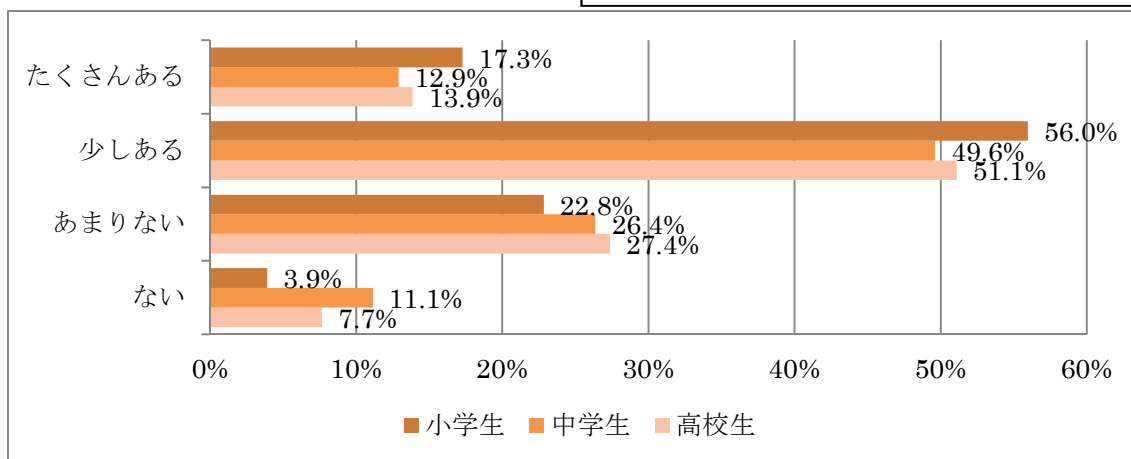
2 子ども自身

(1) 子どもの長所

(児童生徒) 問2 自分には、良いところがあると思いますか。(一つに○)

※小学生、中学生、高校生ともに、「たくさんある」「少しある」の割合が6割を超えている。

小 n=486 中 n=512 高 n=274



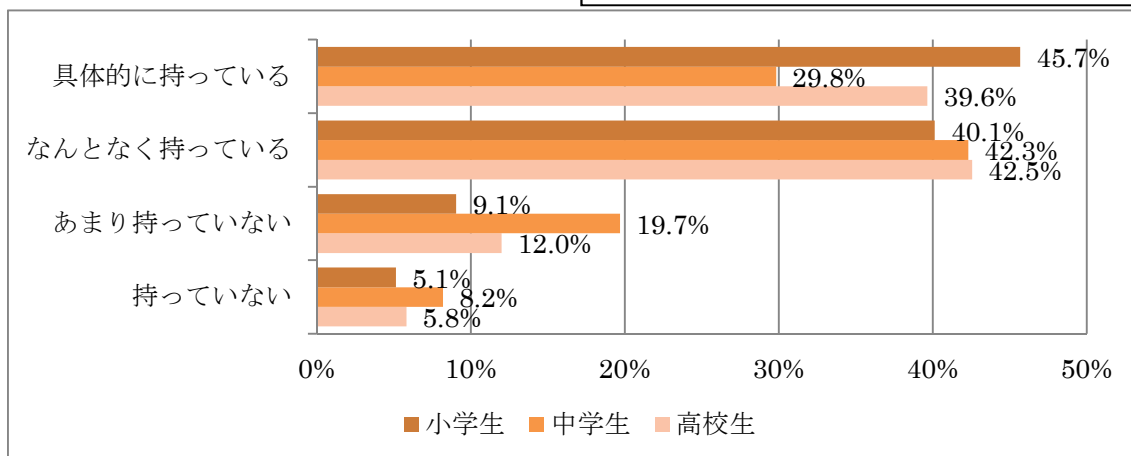
(2) 子どもの将来

(児童生徒) 問3 自分の将来に夢や目標を持っていますか。(一つに○)

※小学生、中学生、高校生ともに、7割以上が「具体的に持っている」「なんとなく持っている」を選んでいる。

※中学生では「具体的に持っている」の割合が29.8%と、小学生、高校生と比べて低くなっている。

小 n=486 中 n=513 高 n=275

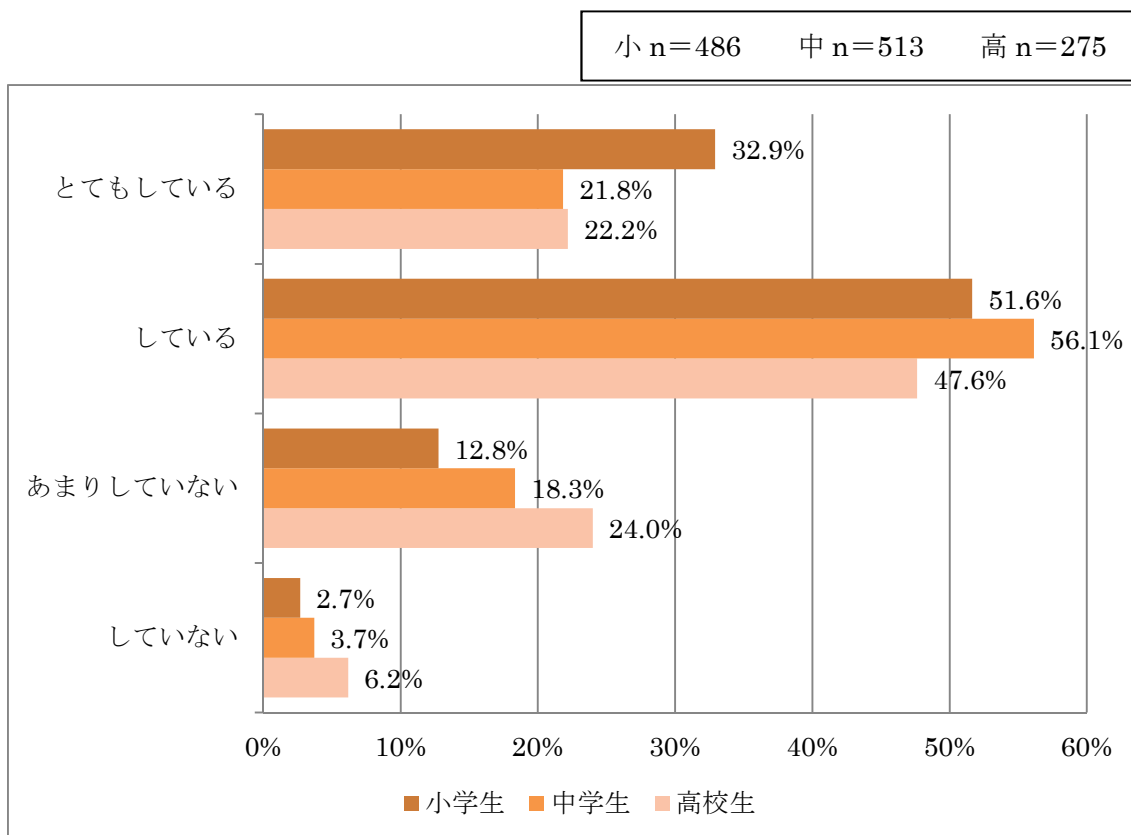


（3）子どもの努力

（児童生徒）問4 自分の力を伸ばそうと、努力していますか。（一つに○）

※小学生、中学生の約8割が「とてもしている」「している」を選んでいる。

※高校生は3割以上が「あまりしていない」「していない」を選んでおり、小→中→高と年齢があがるにつれて、その割合は高くなっている。



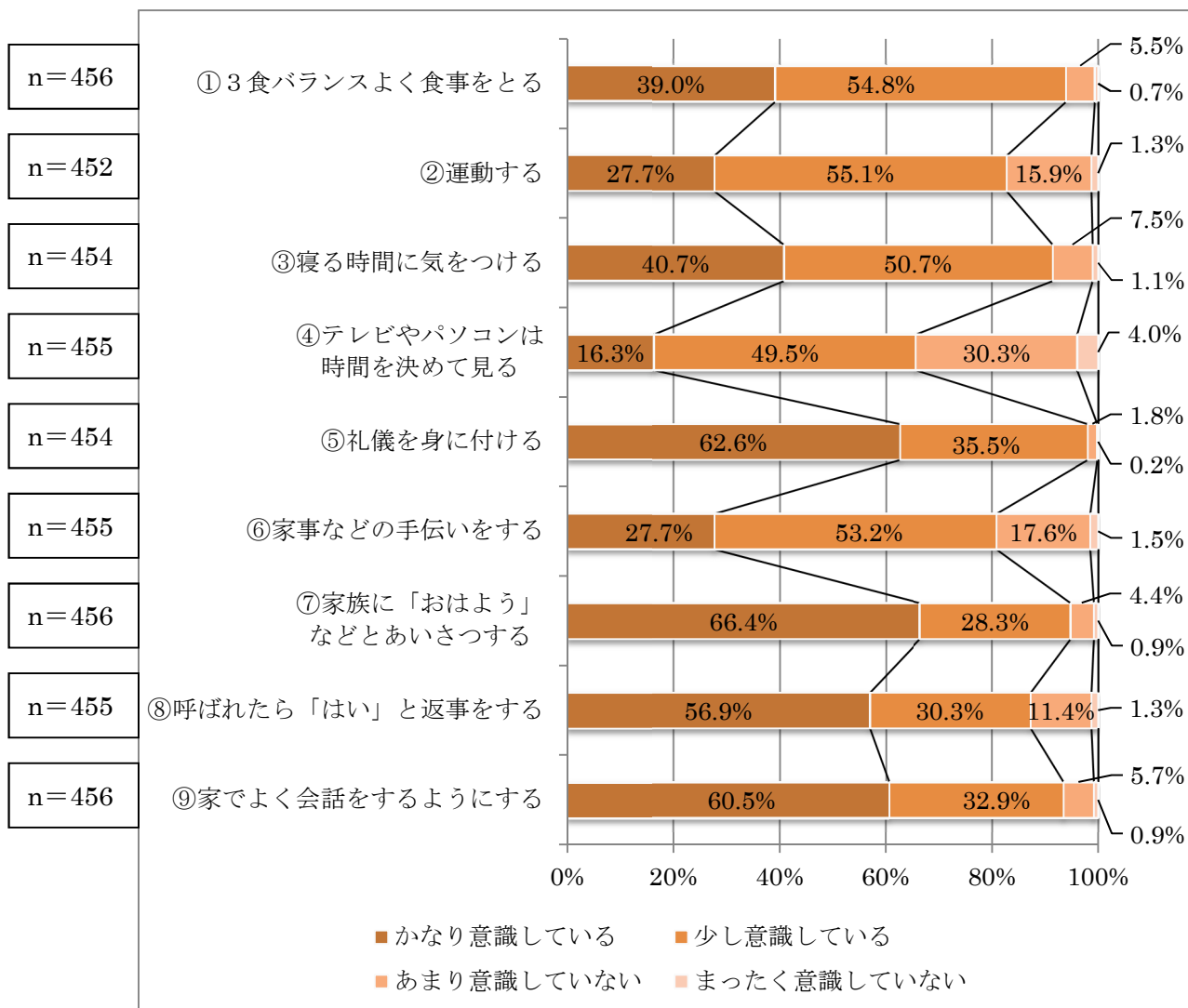
3 家庭生活など

(1) 子どものことについて意識して取り組んでいること

(保護者) 問 10 お子様のことについて、どのくらい意識して取り組まれてきたかをお答えください。(①～⑨のそれぞれ一つに○)

※①、③、⑤、⑦、⑨の内容については「かなり意識している」「少し意識している」を選んだ割合が9割を超えている。

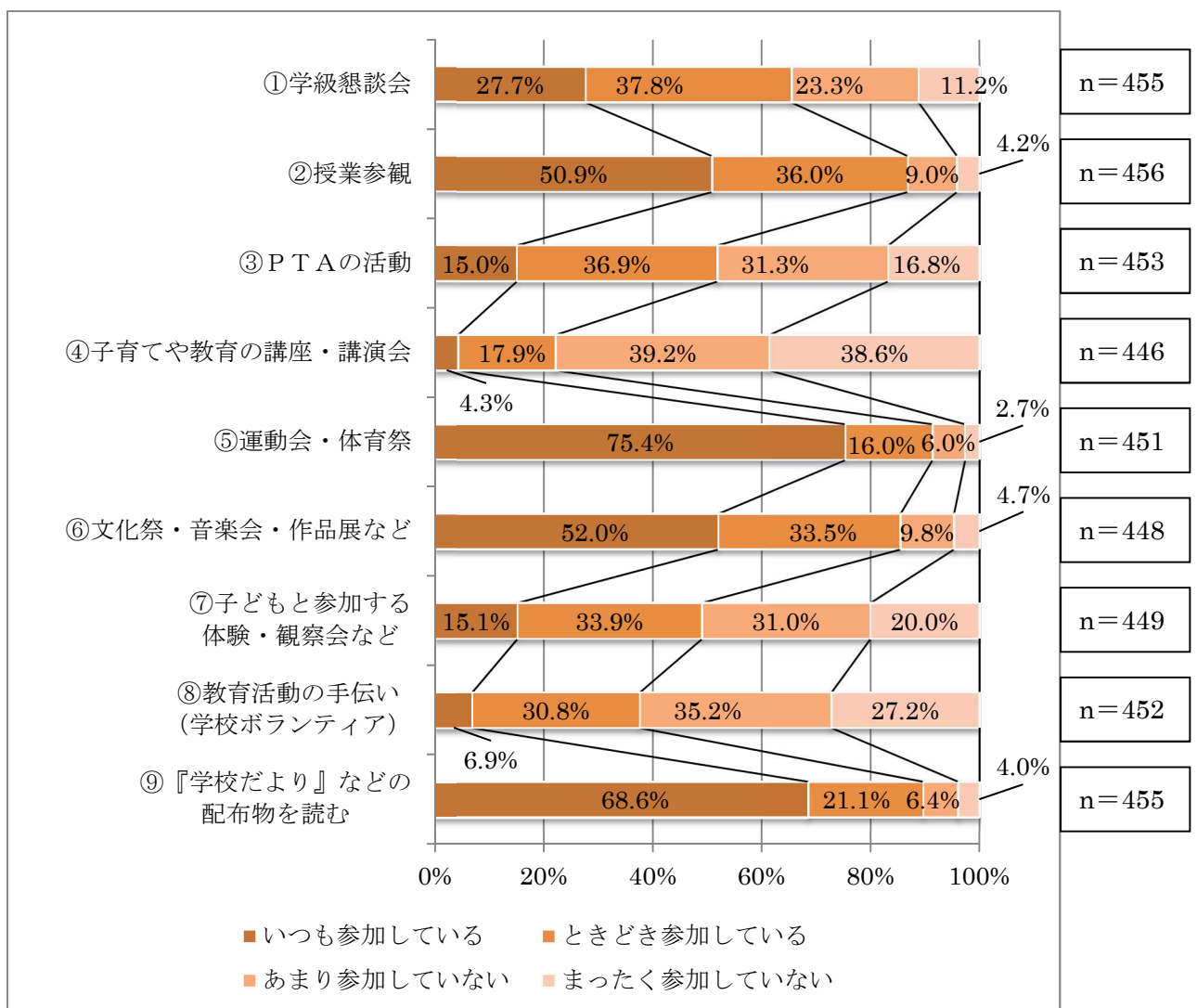
※④の「テレビやパソコンは時間を決めて見る」については、「あまり意識していない」「まったく意識していない」が3割を超え、高くなっている。



（２）保護者の学校行事や活動への参加状況

（保護者）問 11 あなたは、次のような学校行事や活動に参加していますか。
 (①から⑨のそれぞれ一つに○)

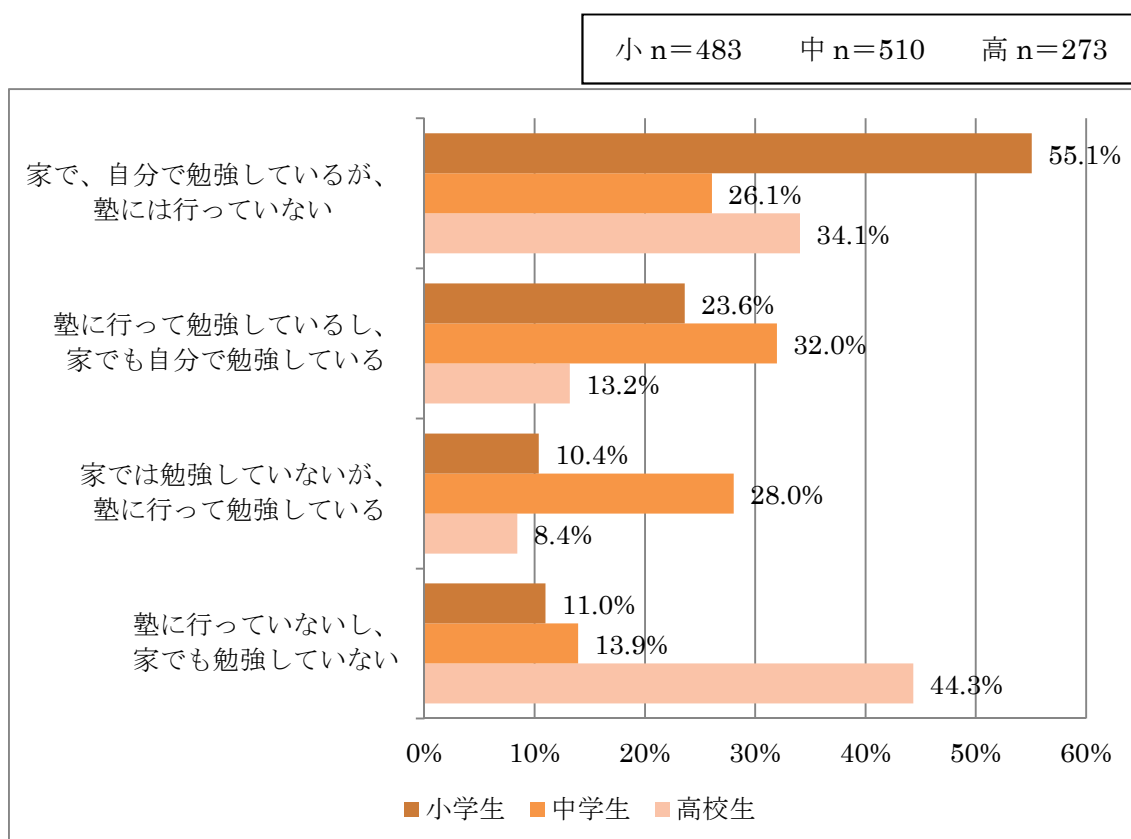
※「いつも参加している」「ときどき参加している」の割合が、①では65.5%（前回67.6%）、②では86.9%（前回87.2%）、③では51.9%（前回53.6%）、④では22.2%（前回22.1%）、⑤では91.4%（前回94.9%）、⑥では85.5%（前回87.1%）、⑦では49.0%（前回51.9%）、⑧では37.7%（前回39.5%）、⑨では89.7%（前回92.8%）となっており、④以外は前回より低くなっている。



（３）学校外での勉強の有無

（小・中学生）問 21 （高校生）問 20 学校から帰って、勉強していますか。
 ※塾には家庭教師も含まれます。（一つに○）

※小学生では「家で、自分で勉強しているが、塾には行っていない」を選んだ割合が 55.1%で最も高くなっているが、高校生では「塾にも行っていないし、家でも勉強しない」の割合が 44.3%と最も高くなっている。

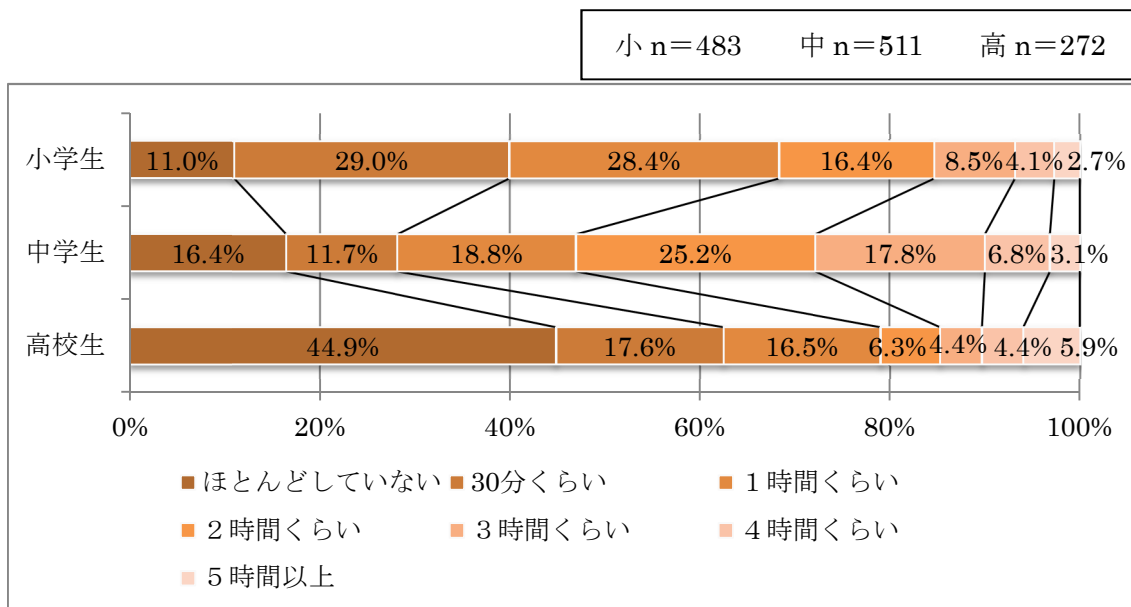


（４）学校外での勉強時間

（小・中学生）問 22 （高校生）問 21 あなたは、ふだん（平日）、学校以外で、1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾に行っている人は、そこでの勉強時間も入れてください。（一つに○）

※「ほとんどしていない」を選んだ割合が、小学生 11.0%（前回 15.5%）、中学生 16.4%（前回 18.0%）、高校生 44.9%（前回 50.4%）で、全体的に前回と比べて改善傾向がみられる。

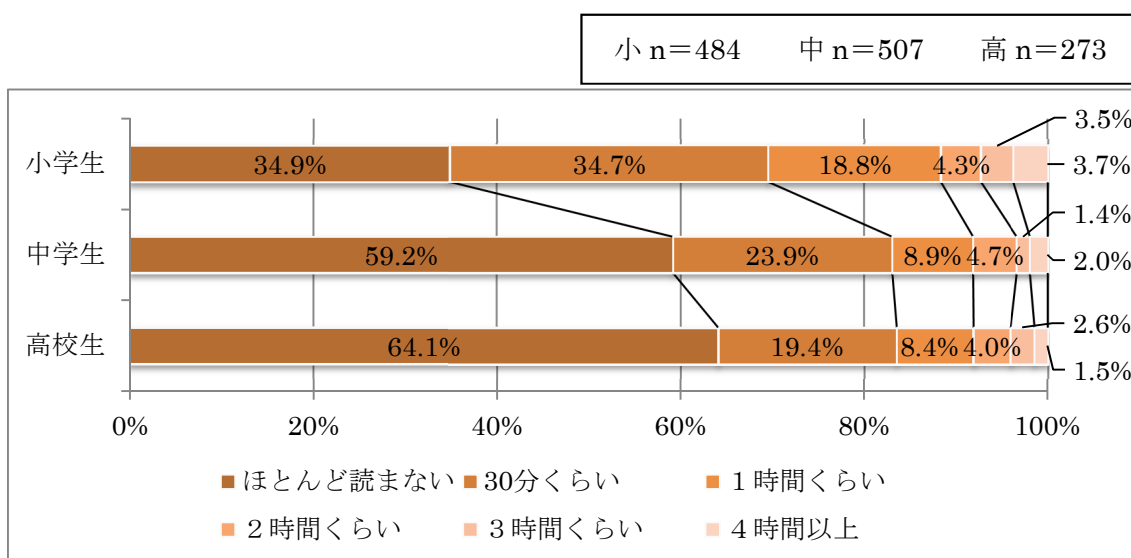
※1時間以上勉強している割合は、小学生 60.0%（前回 55.3%）、中学生 71.9%（前回 67.5%）、高校生 37.5%（前回 36.6%）と前回より高くなっている。



（５）学校外での読書時間

（小・中学生）問 23 （高校生）問 22 あなたは、ふだん（平日）、学校以外で、一日に何時間くらい本や新聞を読みますか。（一つに○）

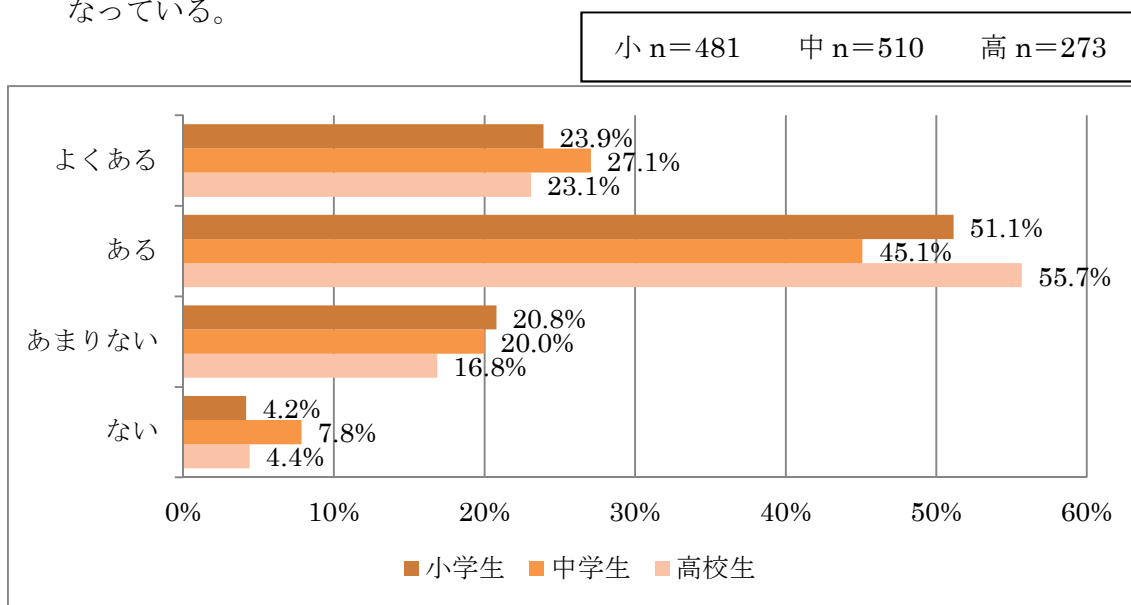
※「ほとんど読まない」を選んだ割合は、小学生 34.9%（前回 41.7%）、中学生 59.2%（前回 47.1%）、高校生 64.1%（前回 54.2%）で、小→中→高と上がるにつれ、割合が高くなっている。また、「ほとんど読まない」の割合が、小学生では、前回より低くなっており、中学生と高校生では、前回より高くなっている。



（６）問題解決

（小・中学生）問 24 （高校生）問 23 自分で調べたり考えたりして、問題を解決することの楽しさややりがいなどを感じたことはありますか。（一つに○）

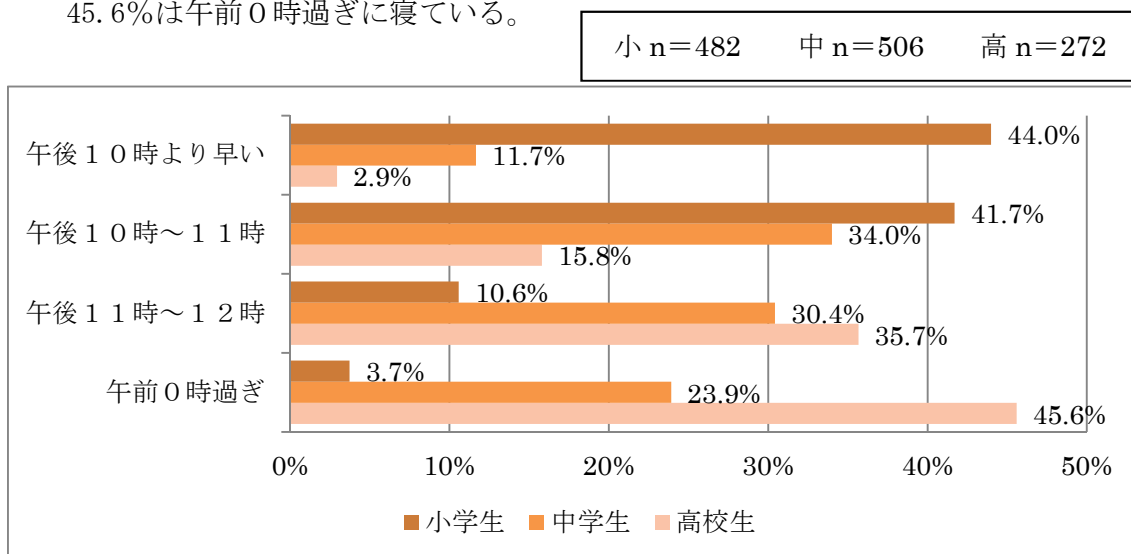
※小学生、中学生、高校生ともに「よくある」「ある」を選んだ割合が、7割以上となっている。



（７）平日の就寝時間

（小・中学生）問 25 （高校生）問 24 ふだん（平日）、寝るのは何時ごろが多いですか。（一つに○）

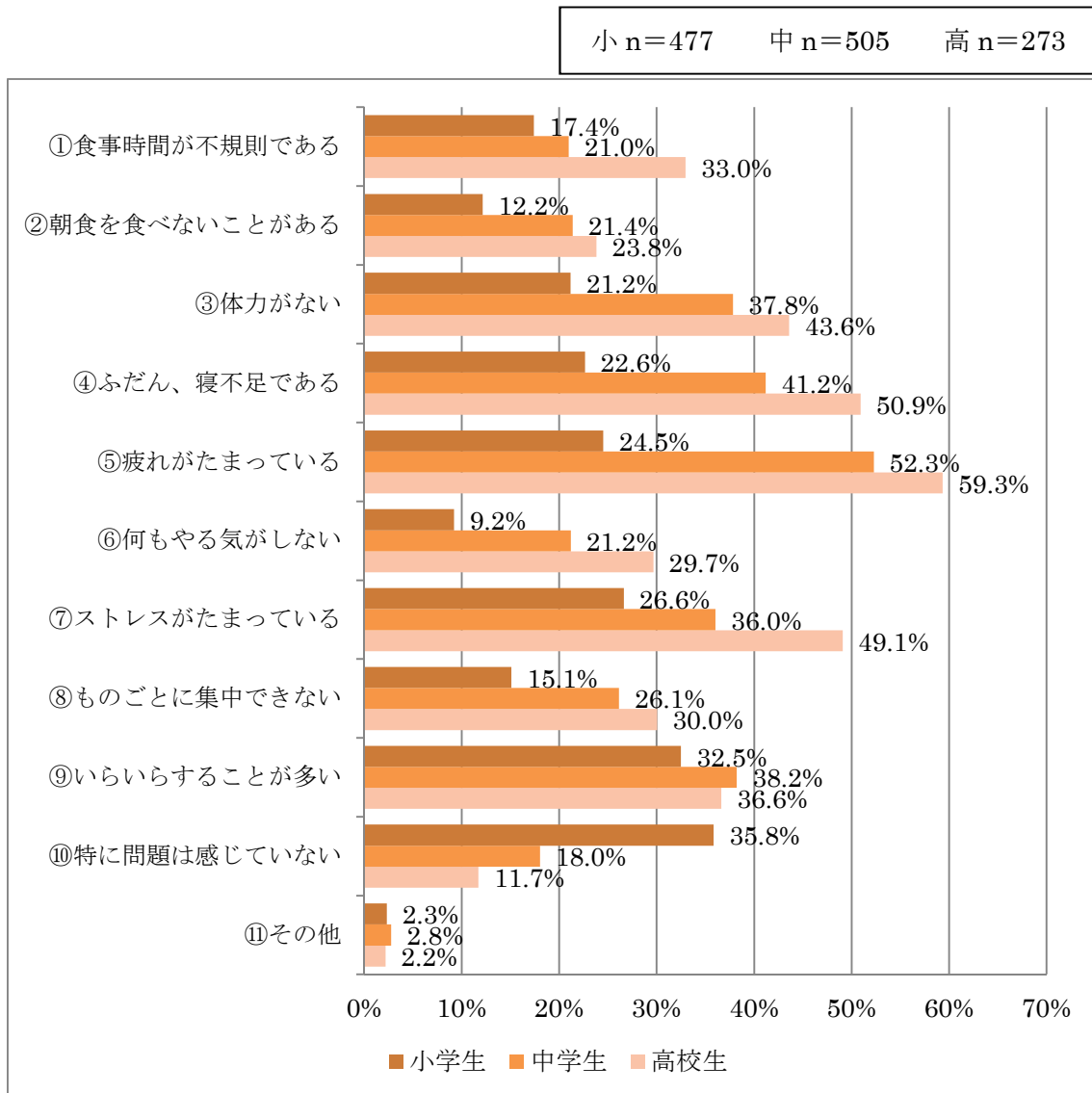
※小学生は8割以上が午後11時までには寝ているが、中学生の23.9%、高校生の45.6%は午前0時過ぎに寝ている。



（８）健康や体力に関する問題

（児童生徒）問５ 自分の健康や体力について、あてはまるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- ※小学生では「⑩特に問題は感じていない」を選んだ割合が一番高くなっている。
- ※中学生、高校生では「④ふだん、寝不足である」「⑤疲れがたまっている」を選んだ割合が高くなっている。また、高校生で「⑦ストレスがたまっている」を選んだ割合は前回（36.4%）と比べて大幅に高くなっている。
- ※全体的には、小→中→高と上がるにつれて、あてはまるものの割合が増える（逆に、「⑩特に問題は感じていない」は減っていく）傾向がある。



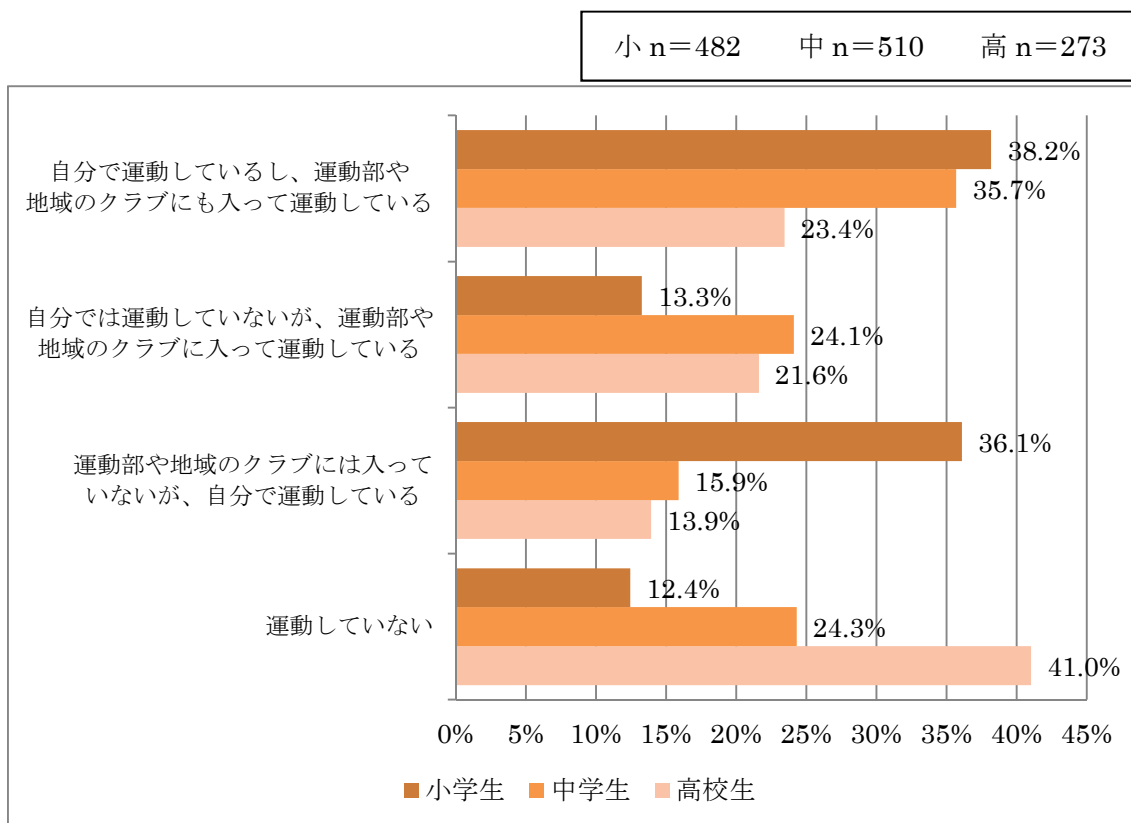
※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

- ・一晩寝たら元気になれる。
- ・無性に涙が出てくる。
- ・腰が痛い、肩こりがひどい。
- ・平日と休日の起床時間に大きな差がある。
- ・免疫力があまりない気がする（風邪をひきやすい）。
- ・パソコンを11時間くらい見ている。
- ・昼夜逆転している時がある。
- ・すぐにお腹が痛くなる。

（9）運動

（児童生徒）問6 積極的に運動していますか。（一つに○）

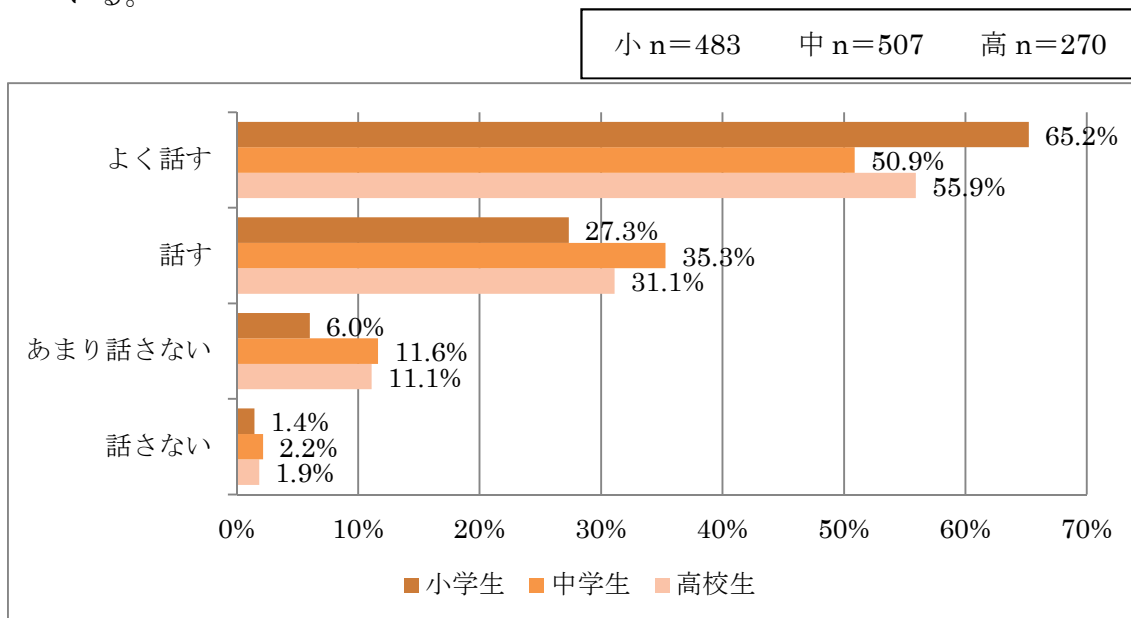
※「自分で運動している」を選んだ割合は、小学生が最も高くなっている。
 ※高校生の4割以上が「運動していない」を選んでいる。



(10) 家族との交流

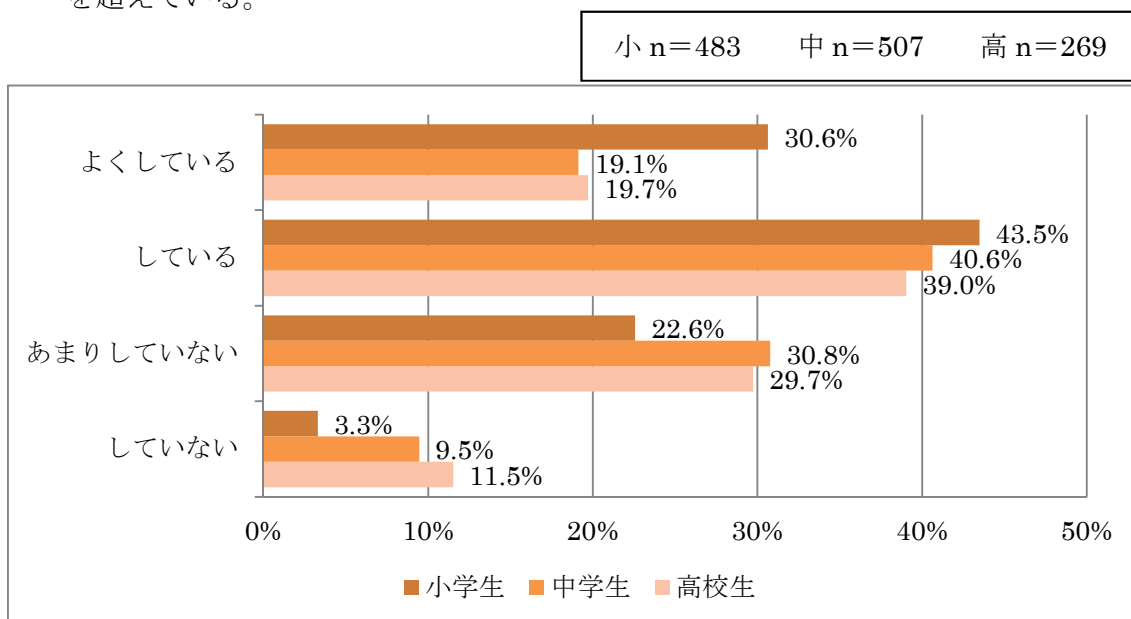
（小・中学生）問 26 （高校生）問 25 家族と話をしますか。（一つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「よく話す」「話す」を選んだ割合が8割を超えている。



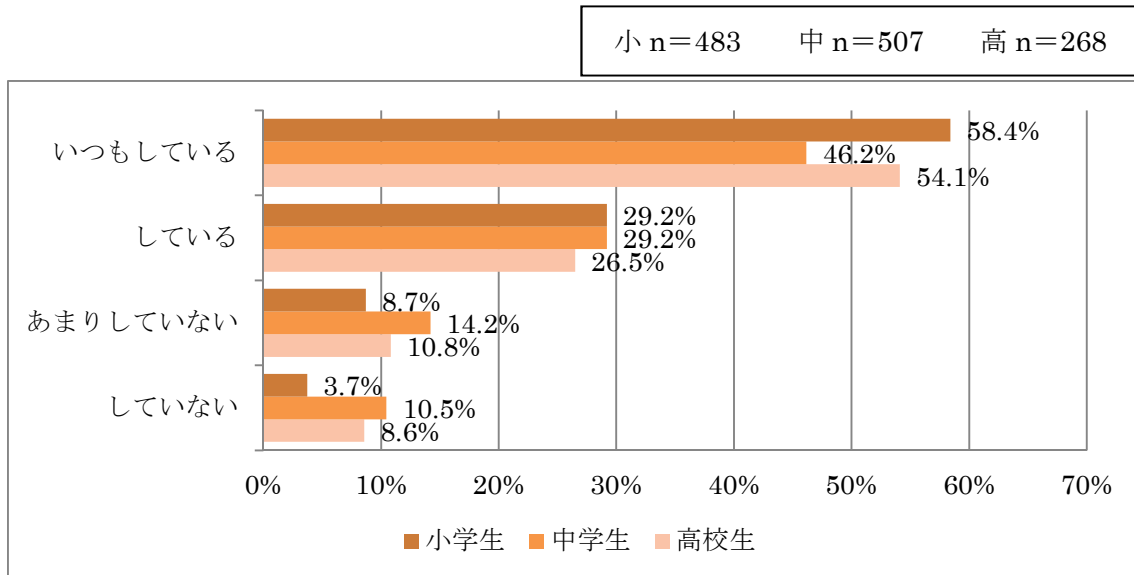
（小・中学生）問 27 （高校生）問 26 家で、手伝いをしていますか。（一つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「よくしている」「している」を選んだ割合が5割を超えている。



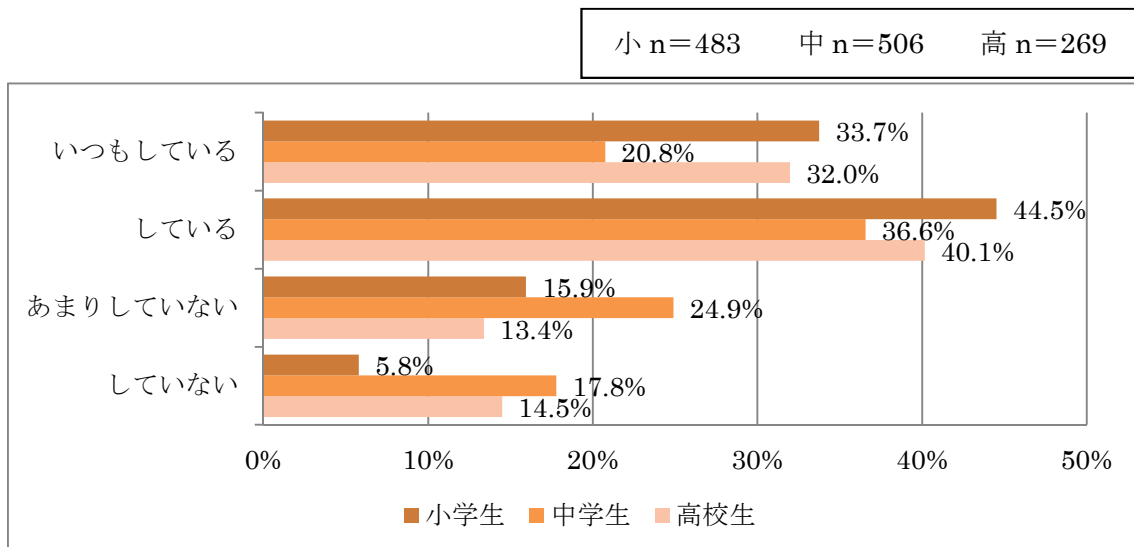
(小・中学生) 問 28 (高校生) 問 27 家で、「おはよう」などとあいさつをしていますか。(一つに○)

※小学生、高校生で「いつもしている」を選んだ割合が5割を超えている。一方、中学生は2割以上が「あまりしていない」「していない」を選んでいる。



(小・中学生) 問 29 (高校生) 問 28 家で、呼ばれたら「はい」と返事をしていますか。(一つに○)

※小学生、高校生で「いつもしている」「している」を選んだ割合が7割を超えている。一方、中学生の4割以上が「あまりしていない」「していない」を選んでいる。



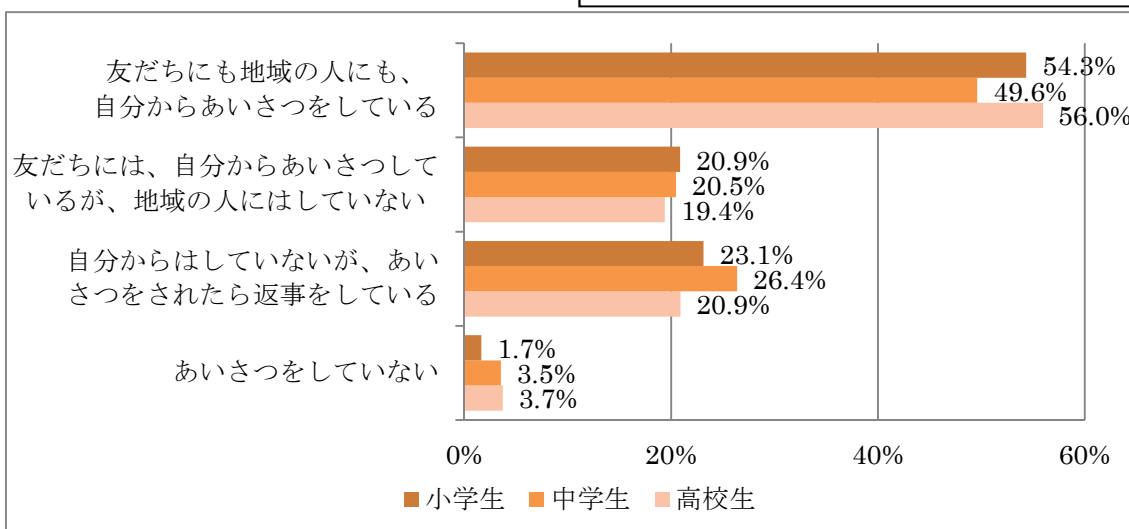
4 地域との関わり

(1) 地域との交流

(小・中学生) 問 30 (高校生) 問 29 友だちや地域の人などに、自分からあいさつをしていますか。(一つに○)

※小学生、中学生、高校生ともに約5割が「友だちにも地域の人にも、自分からあいさつをしている」を選んでいる。

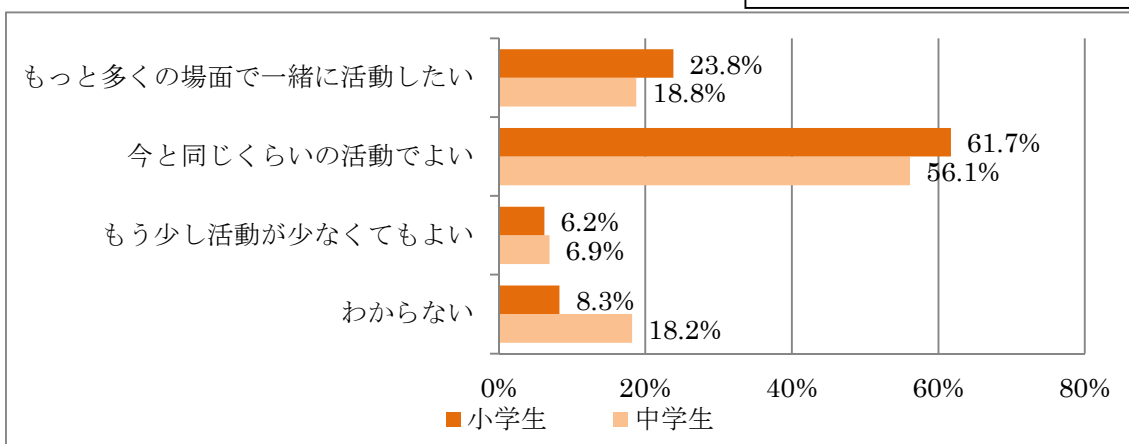
小 n=484 中 n=508 高 n=268



(小・中学生) 問 31 学校の行事や学習の手伝いなどをしてきている地域の方との活動についてどう思いますか。(一つに○)

※小学生、中学生ともに約6割が「今と同じくらいの活動でよい」を選んでいる。

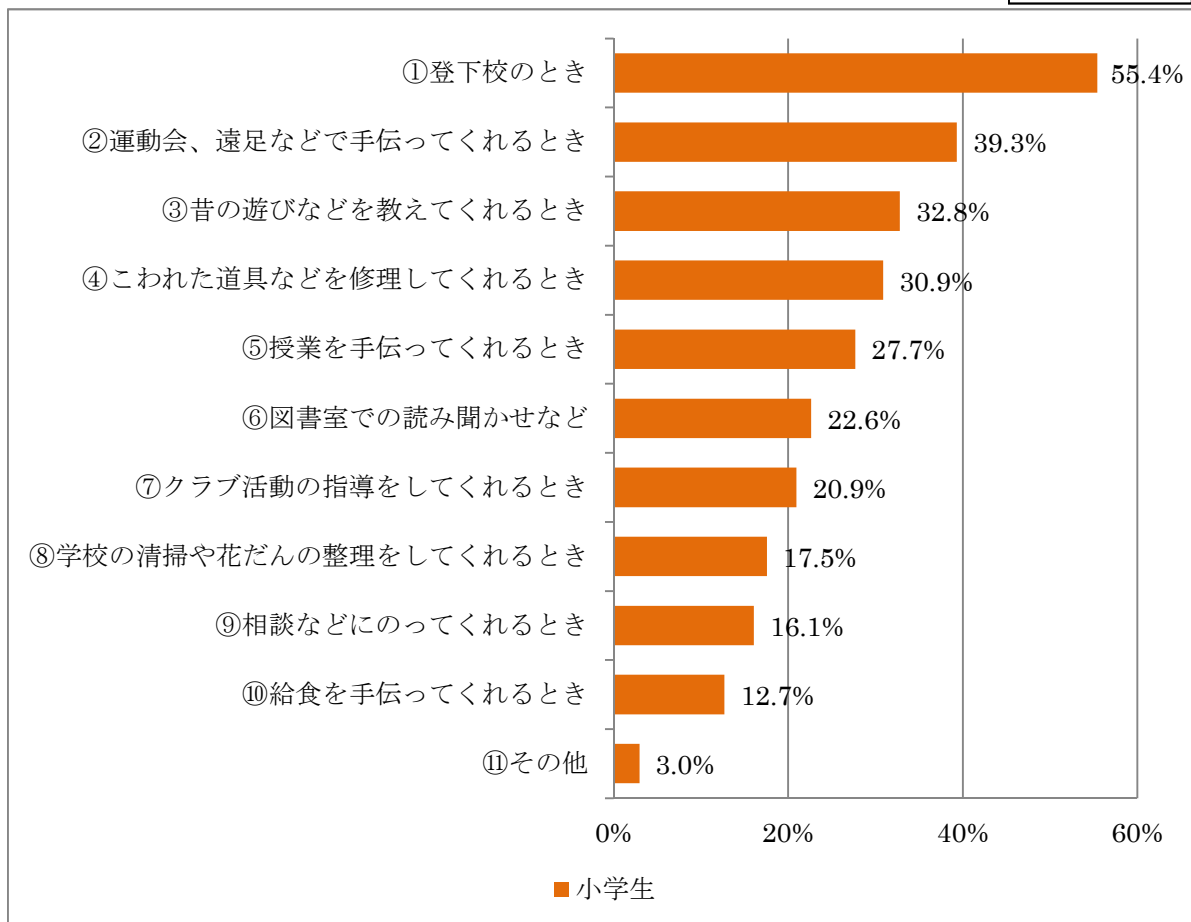
小 n=483 中 n=506



(小学生) 問 32 学校の行事や学習の手伝いなどをしてきている地域の方と、どのような場面で接することができるとうれしいですか。(あてはまるものすべてに○)

※前回の割合と比べると、①が 55.4% (前回 55.0%)、②が 39.3% (前回 37.9%)、③が 32.8% (前回 29.7%)、④が 30.9% (前回 22.9%)、⑤が 27.7% (前回 27.1%)、⑥が 22.6% (前回 20.6%)、⑦が 20.9% (前回 24.0%)、⑧が 17.5% (前回 16.2%)、⑨が 16.1% (前回 16.5%)、⑩が 12.7% (前回 12.1%) と、⑦と⑨以外は前回よりも高くなっている。

小 n=473

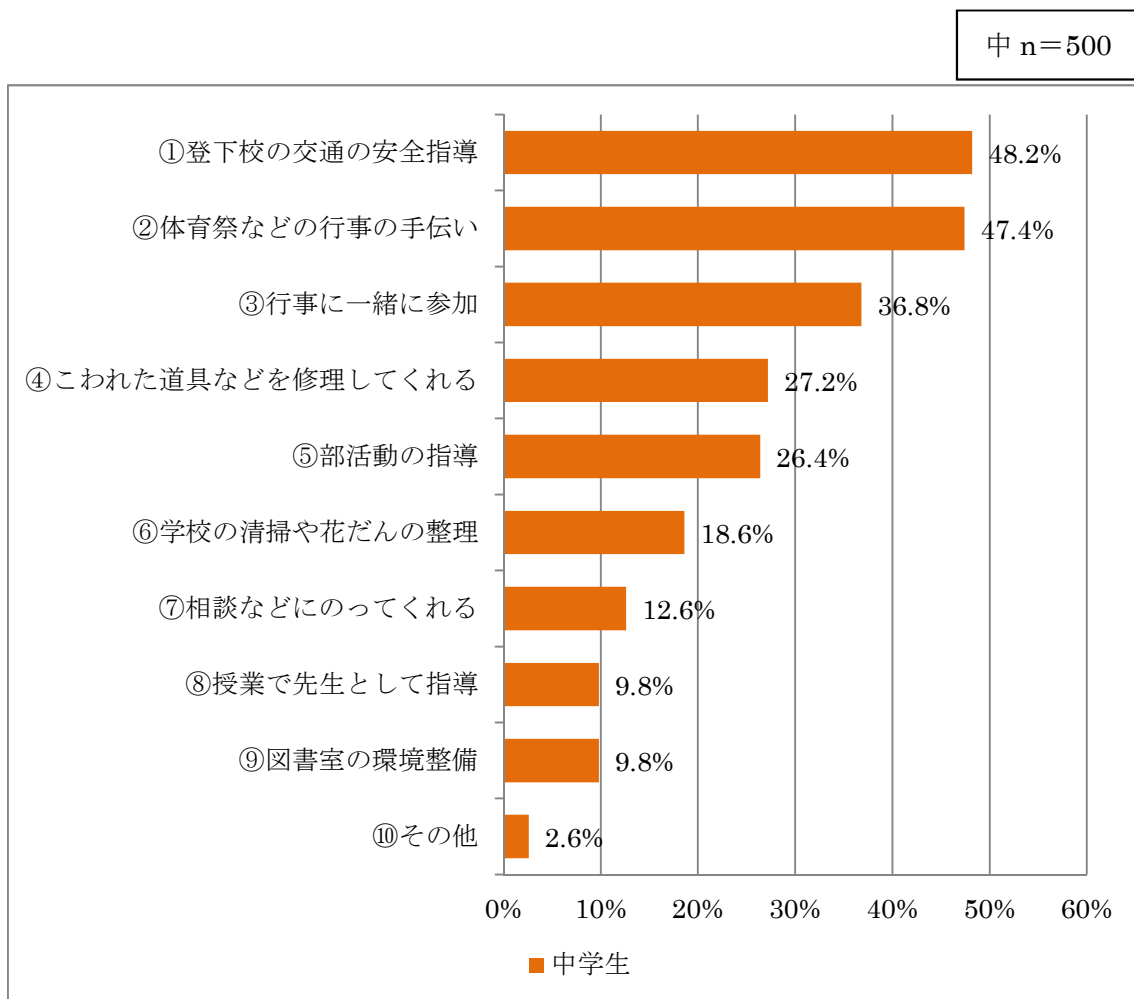


※「⑪その他」の意見（一部抜粋）

- ・学校のキッズフェスティバルなど
- ・話し相手になってくれるとき
- ・ふれあい給食
- ・公共施設で工作をしていてるとき
- ・手伝いなどあまりしていないと思う。

（中学生）問 32 どのような場面で、地域の方が、学校の行事などに関わってくれ
るとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

※前回の割合と比べると、①が 48.2%（前回 48.9%）、②が 47.4%（前回 46.3%）、
③が 36.8%（前回 36.7%）、④が 27.2%（前回 34.3%）、⑤が 26.4%（前回 28.3%）、
⑥が 18.6%（前回 24.6%）、⑦が 12.6%（前回 13.0%）、⑧が 9.8%（前回 12.4%）、
⑨が 9.8%（前回 12.8%）と、②と③以外は前回よりも低くなっている。



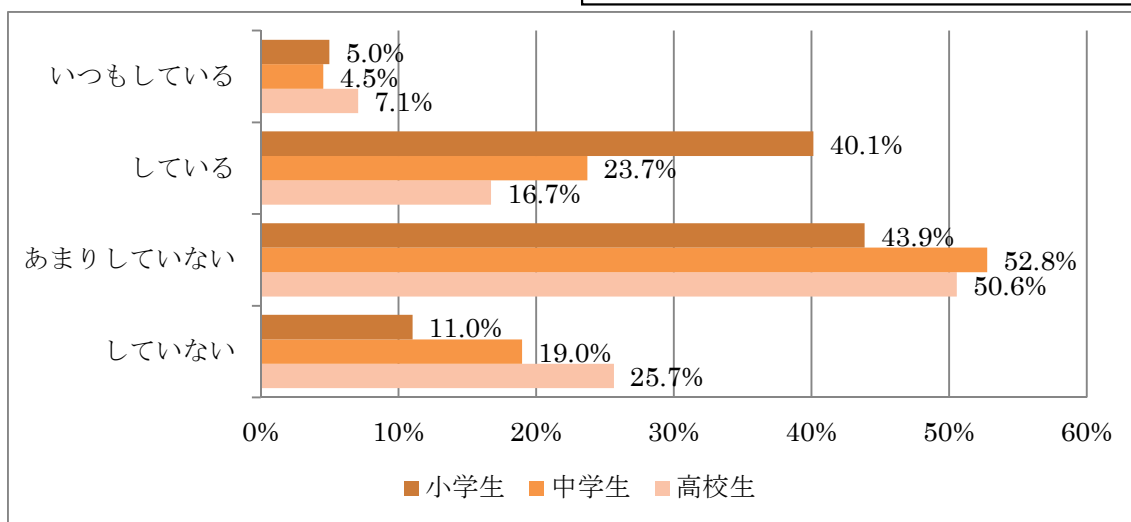
※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

- ・収穫祭の手伝い
- ・地域の方には迷惑をかけない方がよい。

（小・中学生）問 33 （高校生）問 30 地域のために、何か役に立つことをしていますか。（一つに○）

※中学生、高校生ともに「あまりしていない」「していない」を選んだ割合が7割を超えている。

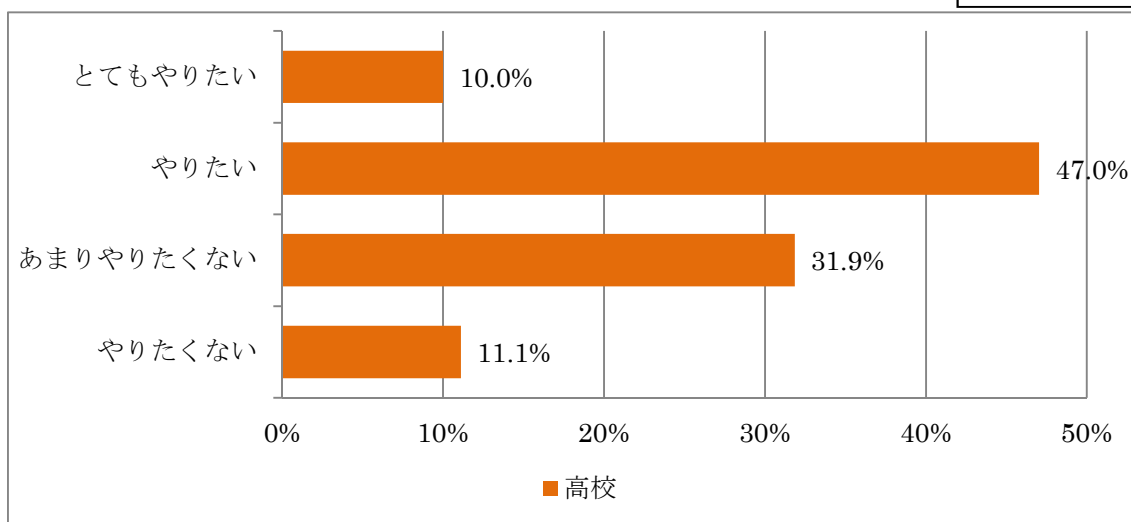
小 n=481 中 n=506 高 n=269



（高校生）問 31 自分の住む地域のために、これから、役に立つ活動を何かやりたいと思いますか。（一つに○）

※「あまりやりたくない」を選んだ割合が31.9%（前回19.1%）と、前回より大幅に高くなっている。

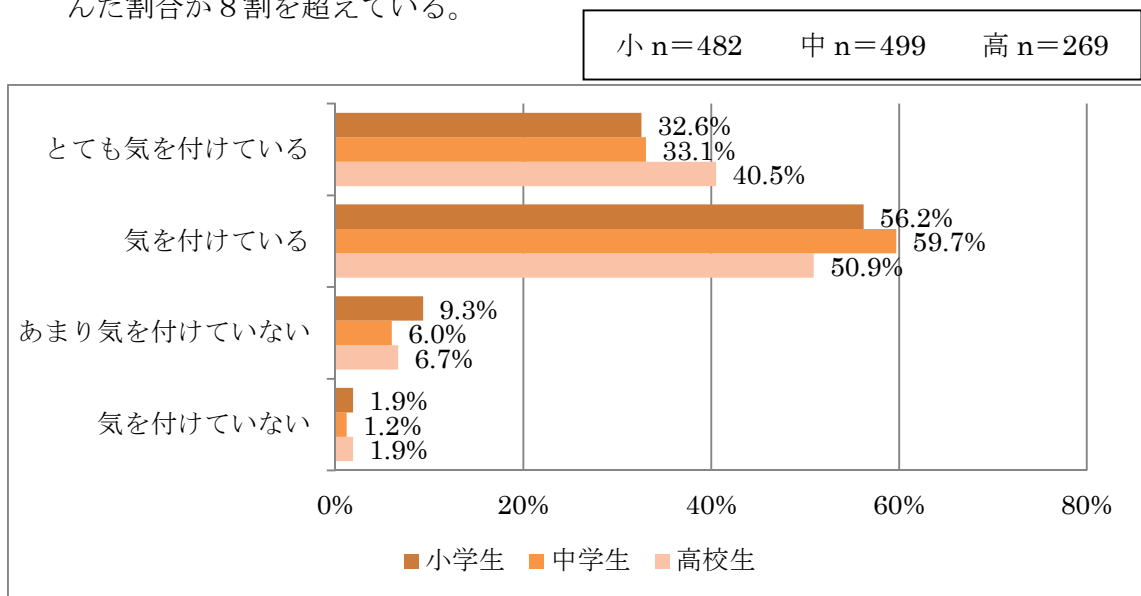
高 n=270



（２） 公共の場での行動

（小・中学生）問 34 （高校生）問 32 公共の場では、周りの人に迷惑にならないよう、気を付けて行動していますか。（一つに○）

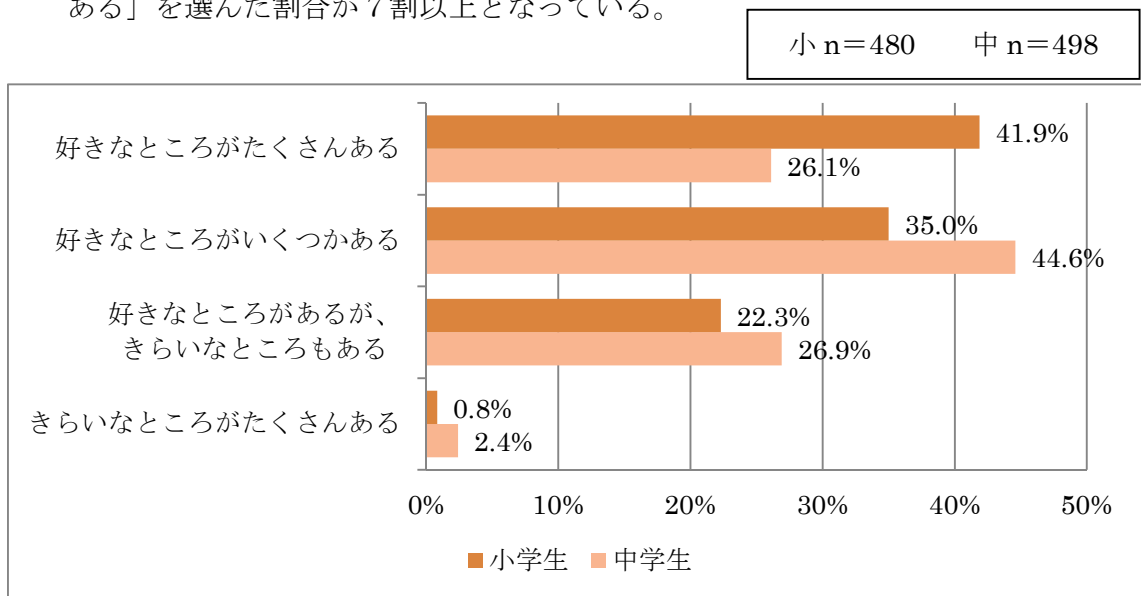
※小学生、中学生、高校生ともに「とても気を付けている」「気を付けている」を選んだ割合が8割を超えている。



（３） 自分の町について

（小・中学生）問 35 自分の町は好きですか。（一つに○）

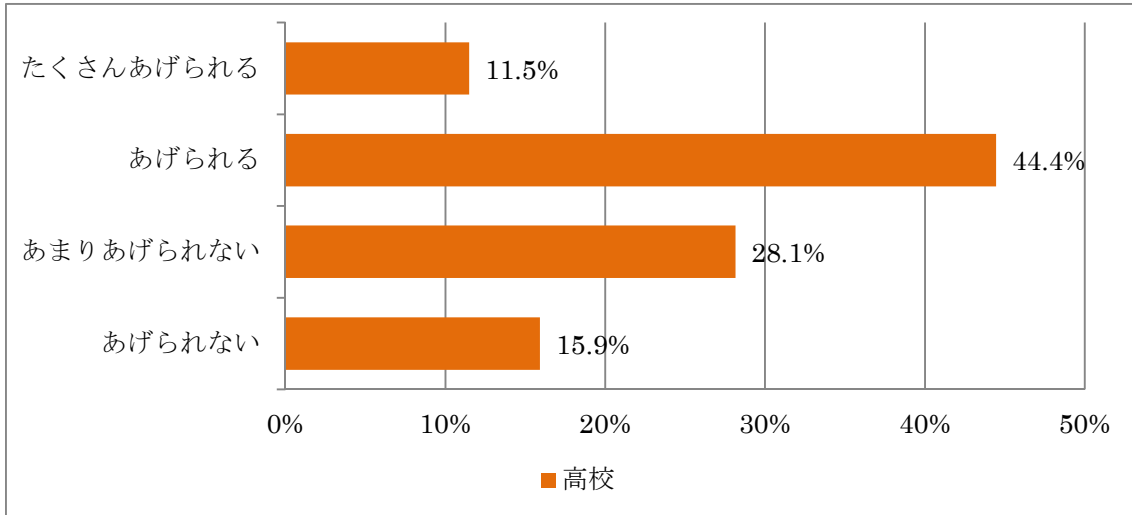
※小学生、中学生ともに「好きなところがたくさんある」「好きなところがいくつかある」を選んだ割合が7割以上となっている。



（高校生）問 33 横須賀のよさをあげられますか。（一つに○）

※「たくさんあげられる」「あげられる」を選んだ割合が5割を超えている。

高 n=270

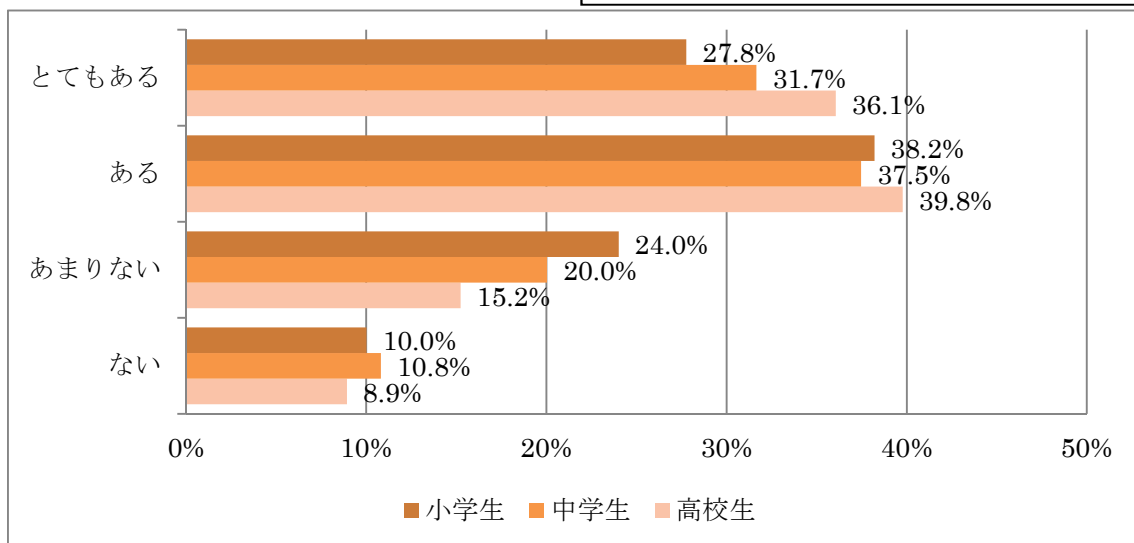


（４） 異国文化への興味・関心

（小・中学生）問 36 （高校生）問 34 外国の文化などに、興味・関心がありますか。（一つに○）

※「とてもある」を選んだ割合が小→中→高と上がるにつれ、高くなっている。

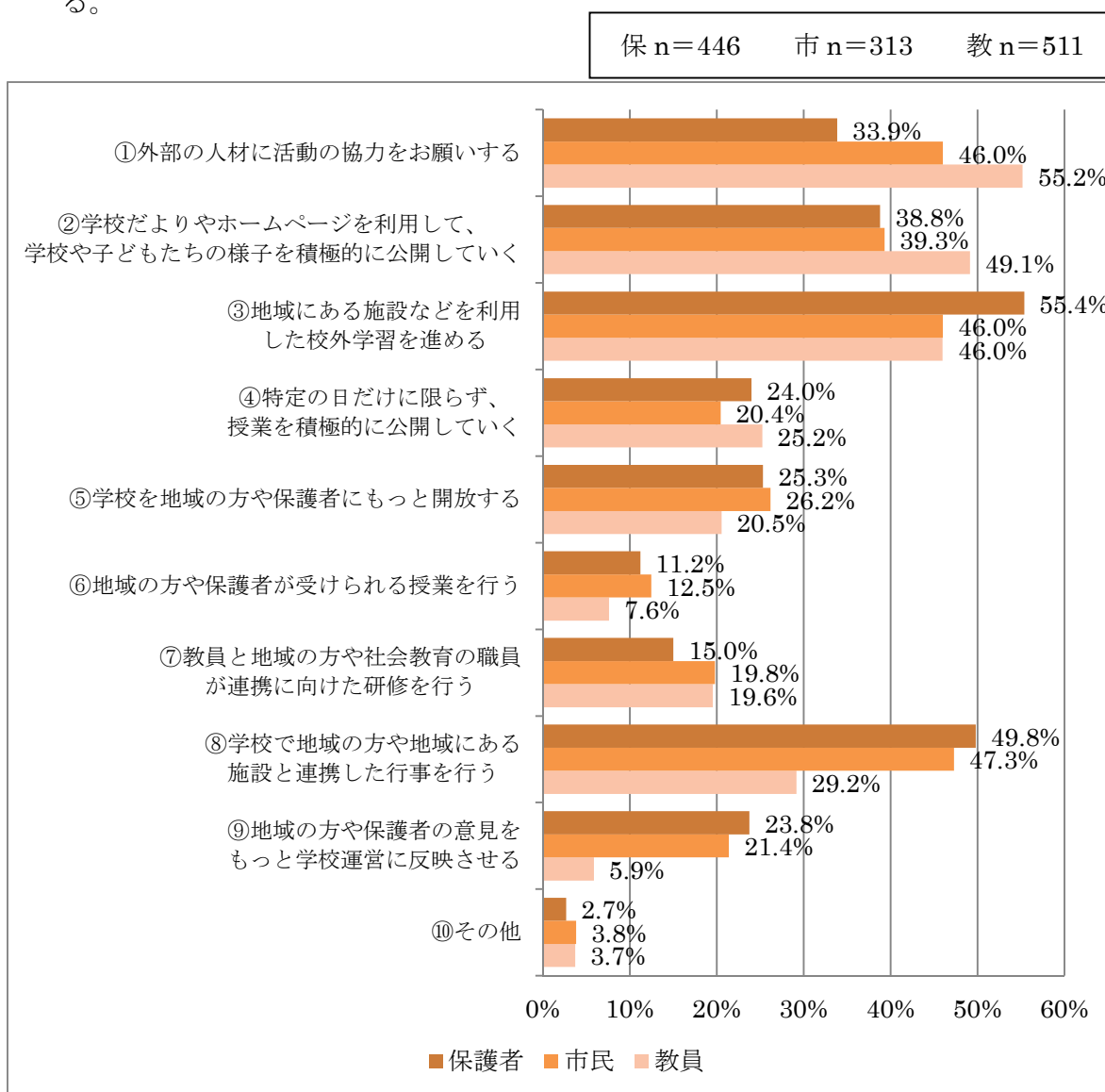
小 n=479 中 n=499 高 n=269



（５） 地域に開かれた学校への取り組み

（保護者）問 7 （市民）問 4 （教員）問 22 学校が、地域に開かれ、支えられ、共に育っていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。（おもなものを三つに○）

※①と⑧では、保護者と教員との差が20%以上となっており、大きな差が出ている。
また、⑨でも、保護者23.8%、市民21.4%に対し、教員5.9%と大きな差が出ている。



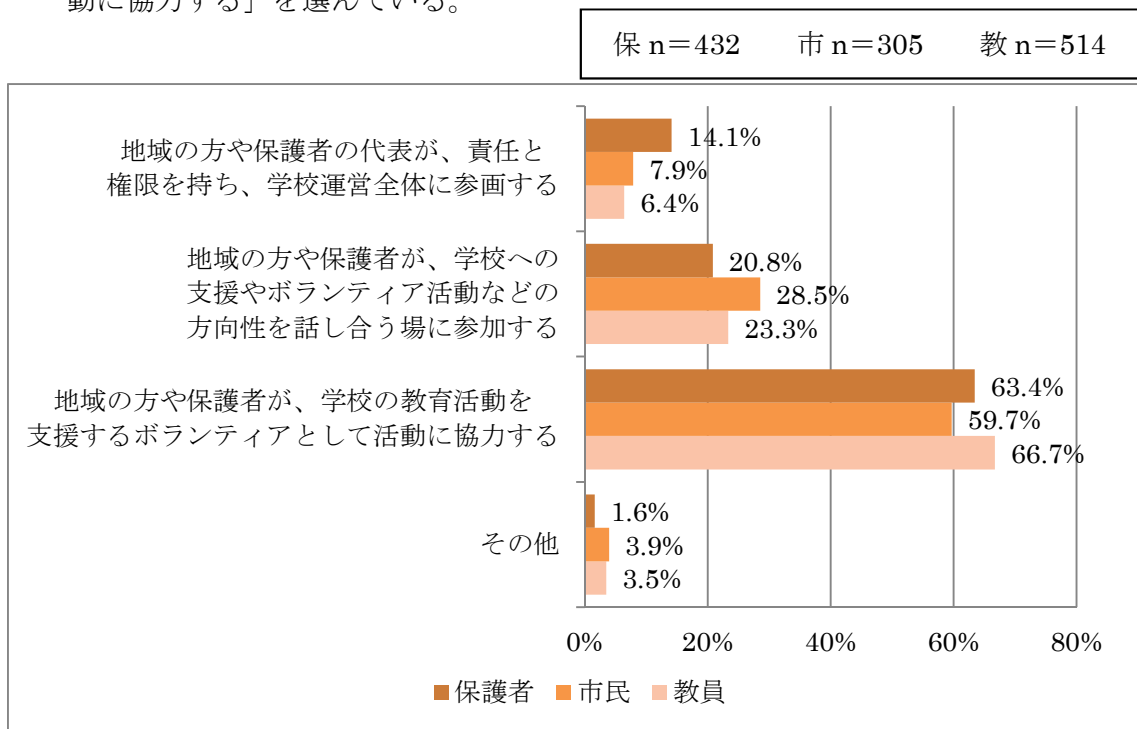
※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

- （保護者）・どこかにだけ責任を負わせるのではなく、皆で見守り・協力できる体系作り。
- （市民）・学校が地域に開かれる必要性を感じない。保護者だけでいい。
- （教員）・現状でもやりすぎで多忙。これ以上増やさないでください。

（6）学校への関わり方

（保護者）問 8 （市民）問 5 （教員）問 23 地域の方や保護者の学校への関わり方でよいものは、次のうちどれですか。（一つに○）

※保護者、市民、教員の約6割が「学校の教育活動を支援するボランティアとして活動に協力する」を選んでいる。



※「その他」の意見（一部抜粋）

（保護者）

- ・学校は先生と児童生徒の場所だと思えます。学校に親が入りすぎるのはどうかと思えます。
- ・先生方が遠慮せずにもっと保護者を頼ると良いと思う。嫌がる人ももちろんいると思うけど、協力したいと思っている方も多いと思う。

（市民）

- ・保護者が強い関わりを持つべきではない。
- ・働いている親にとっては、学校へ直接赴いて話し合うことは難しいと思うので、アンケート形式が良いと思えます。

（教員）

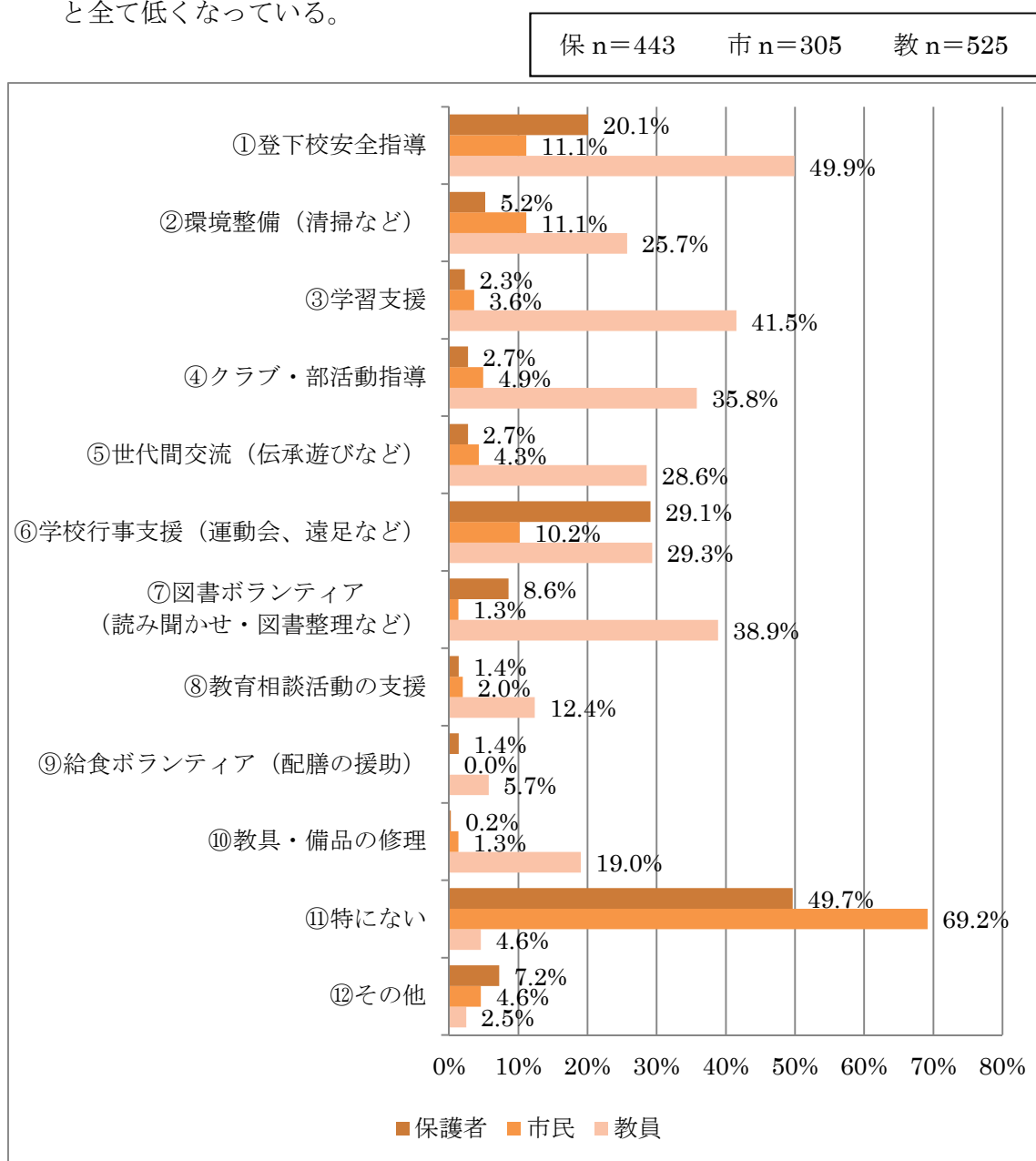
- ・授業参観、運動会に来て頂けたら十分。現状の活動で十分なのでこれ以上、活動を増やす必要はないと思えます。
- ・ボランティアで頼むのではなく、お金を支払って学校教育の中の授業や行事、校外学習等の支援に入っていただく。

（7）学校の教育活動を支援するボランティア活動

（保護者）問9 （市民）問6 学校の教育活動を支援するボランティアとして、あなたが活動しているものは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）
 （教員）問21 外部の方に、学校の教育活動を支援するボランティアとして協力してほしいものは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

※保護者は約5割が、市民は約7割が「⑪特にない」を選んでいる。

※教員は、①登下校安全指導 49.9%（前回 62.0%）、③学習支援 41.5%（前回 49.8%）、⑦図書ボランティア 38.9%（前回 48.1%）を選んだ割合が高いが、前回と比べると全て低くなっている。



※「⑫その他」の意見（一部抜粋）

（保護者）

- ・ベルマーク収集
- ・PTA活動
- ・スポーツテストなどの手伝い
- ・パトロール、水難防止啓発

（市民）

- ・こども110番の家
- ・学校の地域清掃作業へ参加
- ・子どもが学校に通っているときは参加していた。
- ・施設の清掃

（教員）

- ・特別支援学級のボランティア
- ・水泳の授業の陸上監視、運動会（テント設営、あとかたづけ）、スポーツテスト
- ・ICTボランティア
- ・校内パトロール
- ・会計事務
- ・ボランティアではなく予算を計上して人員を配置すべき。

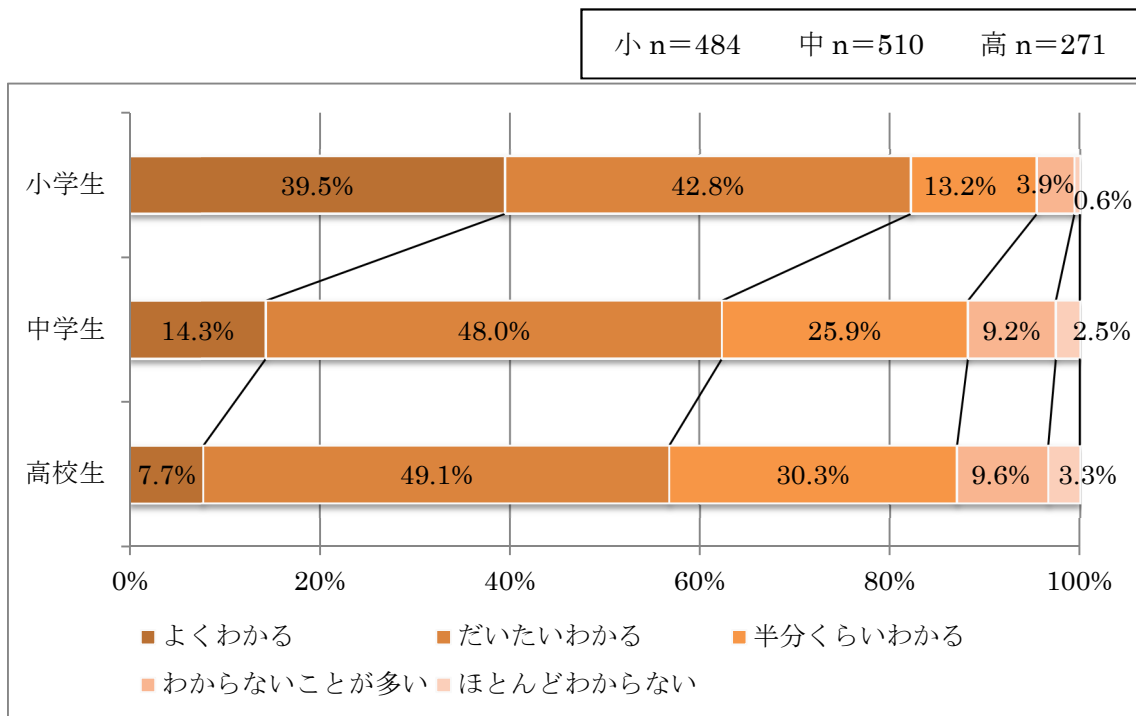
5 学校教育(学校での生活、勉強)

(1) 授業理解度

① 児童生徒

(児童生徒) 問 14 学校の授業の内容は、わかりますか。(一つに○)

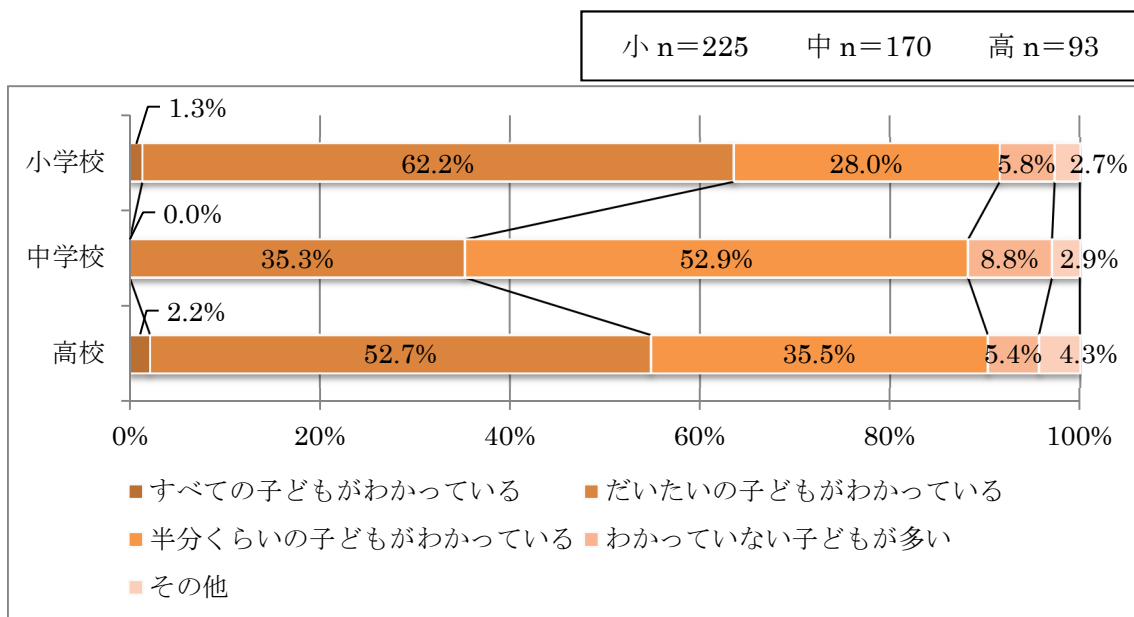
※「よくわかる」、「だいたいわかる」を合わせると、小学生 82.3% (前回 75.7%)、中学生 62.3% (前回 59.5%)、高校生 56.8%(前回 63.8%)となっており、小学生と中学生は前回より割合が高くなっている。



② 教員

（教員）問7 あなたが担任しているクラス（または教えている教科、全学年）で、授業がわかる子どもはおおよそどの程度ですか。（一つに○）

※「だいたいの子どもがわかっている」が、小学校 62.2%（前回 63.5%）、中学校 35.3%（前回 37.7%）、高校 52.7%（前回 73.7%）であり、また、「わかっている子どもが多い」については、小学校 5.8%（前回 2.7%）、中学校 8.8%（前回 5.0%）、高校 5.4%（前回 0.0%）となっている。



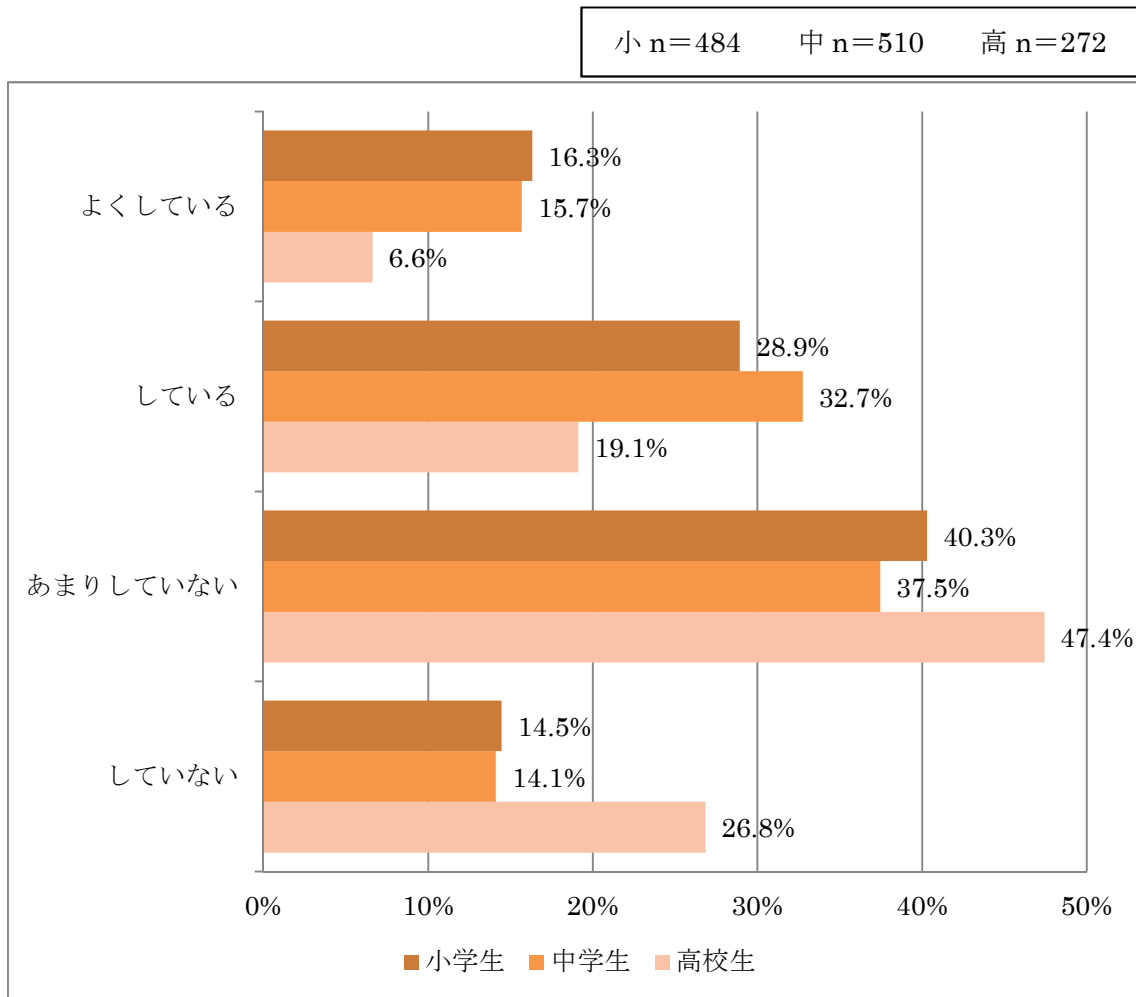
※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・ 個別的にそれぞれに応じた対応をしている。
- ・ 教科による。
- ・ わかっている部分とわかっている部分がない部分がある。
- ・ 学年により割合の差が大きい。
- ・ 個々の実態に合わせて取り組むように努力していますが、時々、実態の押さえが甘く、課題に合わない学習をしてしまうことがあり、子どもに申し訳ないことがあります。

（２）授業に取り組む姿勢

（児童生徒）問 15 授業中には、自分から進んで質問したり意見を述べたりしていますか。（一つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「あまりしていない」を選んだ割合が高くなっていく。高校生では、「あまりしていない」「していない」が7割を超えている。



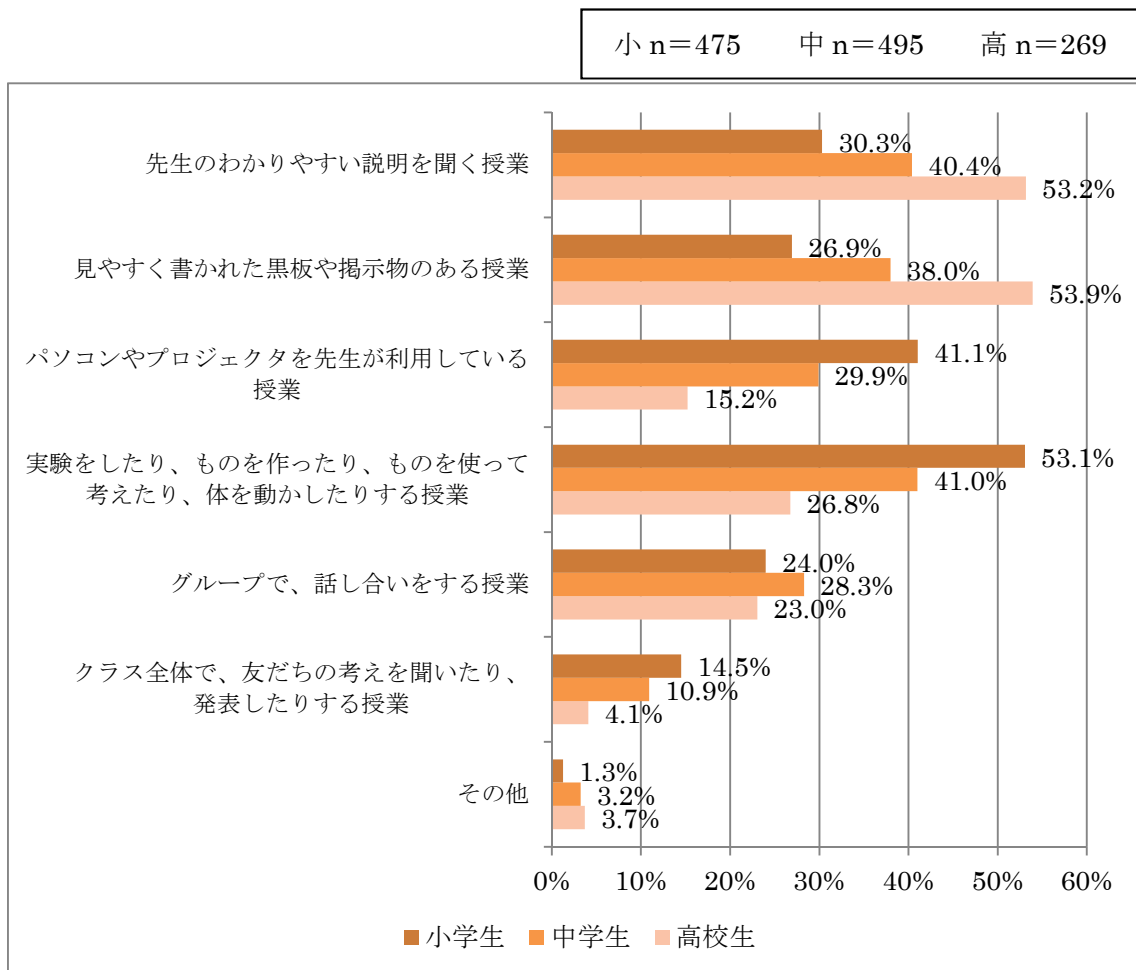
（3）わかりやすい授業

（児童生徒）問 16 学習している内容がわかりやすいのは、どのような形式の授業ですか。（二つに〇）

※小学生は「実験をしたり、ものを作ったり、ものを使って考えたり、体を動かしたりする授業」を選んだ割合が 53.1%と高くなっている。

※高校生では「先生のわかりやすい説明を聞く授業」や「見やすく書かれた黒板や掲示物のある授業」を選んだ割合が、それぞれ5割を超えている。

※「パソコンやプロジェクタを先生が利用している授業」を選んだ割合は、小学生 41.1%（前回 28.3%）、中学生 29.9%（前回 17.6%）、高校生 15.2%（前回 21.0%）となっており、小学生と中学生では、前回より高くなっている。

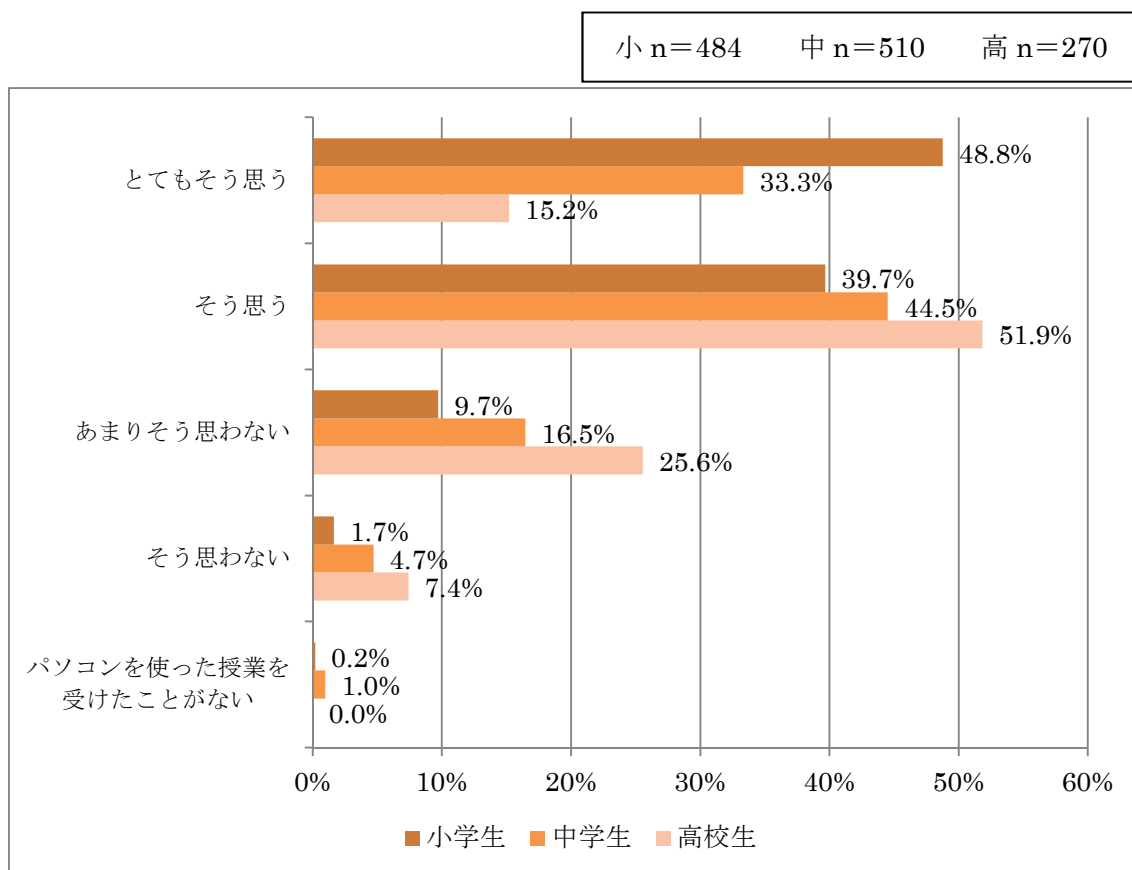


※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・自分たちでパソコンを使う授業
- ・小テストがたくさんある授業
- ・問題演習を主に行う授業
- ・自分が他人に教える、教えてもらう授業
- ・何度も復習する授業

(児童生徒) 問 17 パソコンなどを使った授業は、わかりやすいと思いますか。(一つに○)

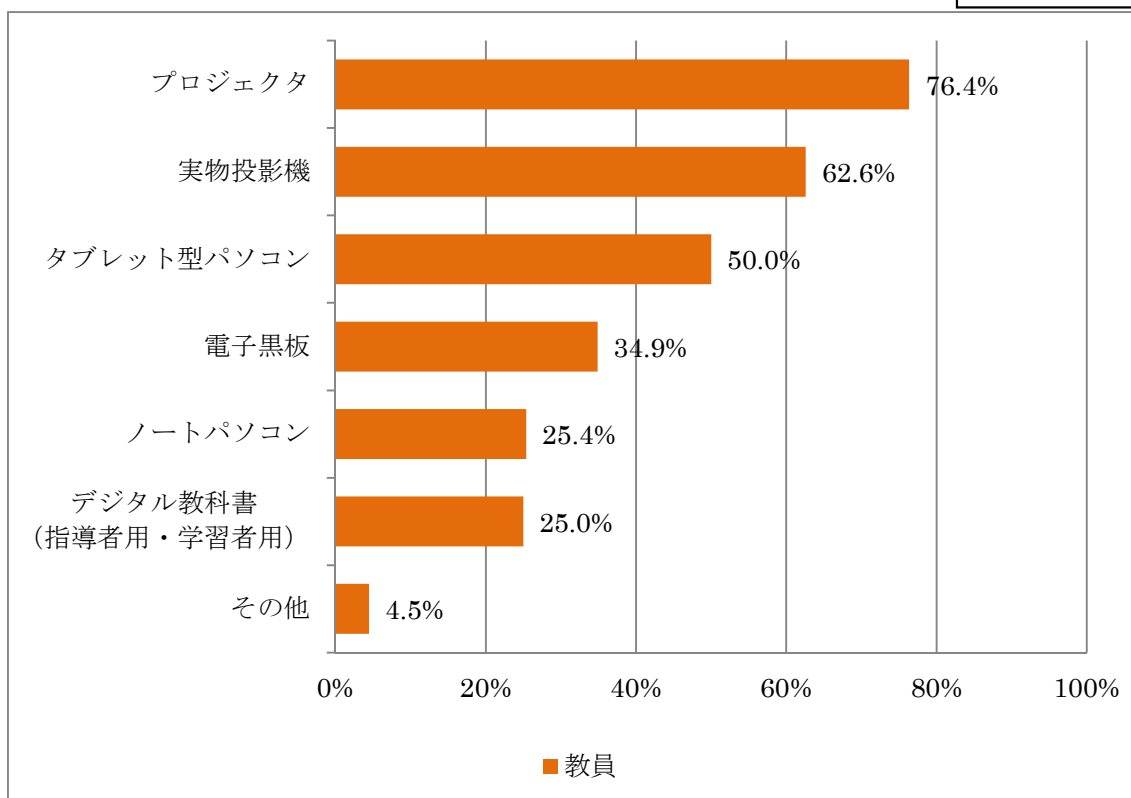
※「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、小学生 88.5%、中学生 77.8%、高校生 67.1%となっており、小→中→高と上がるにつれ、割合が低くなっている。



（教員）問9 わかりやすい授業を行うためには、どのようなICT機器が有効だと考えていますか。（おもなもの三つに○）

※「プロジェクタ」が76.4%、「実物投影機」が62.6%と、その割合が高くなっている。

教 n=516



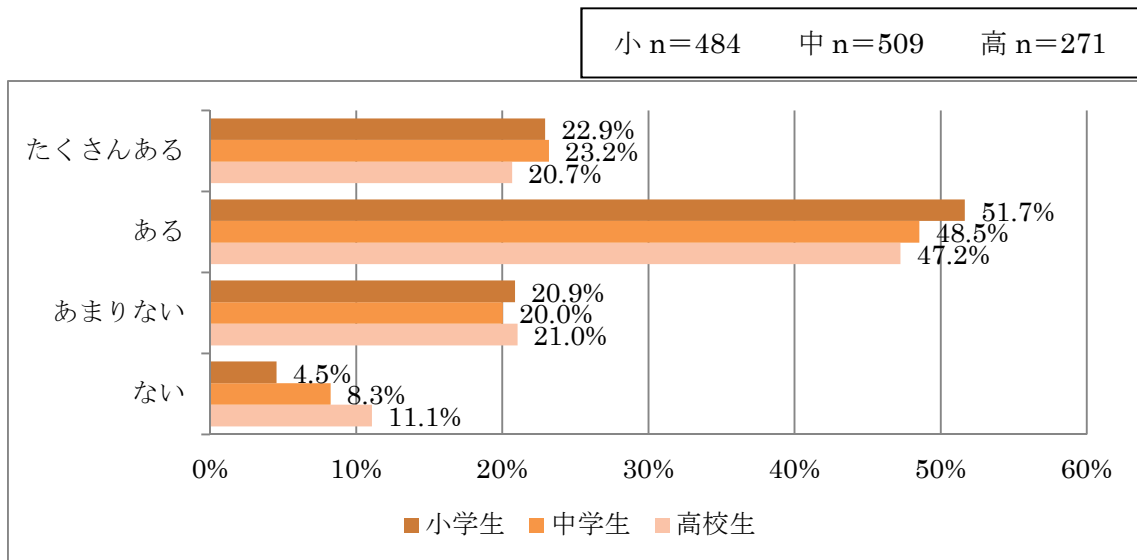
※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・教室にプリンターがあると助かる。
- ・大型テレビ（モニター）
- ・YouTubeが見られる環境
- ・基本、ICTは使いません。

（４）園児や他学年、地域との交流

（児童生徒）問 18 幼稚園・保育園の園児や下（上）級生（小学生、中学生、高校生）など学年の違う子や地域の人などと一緒に活動して、良かったと思うことはありますか。（一つに○）

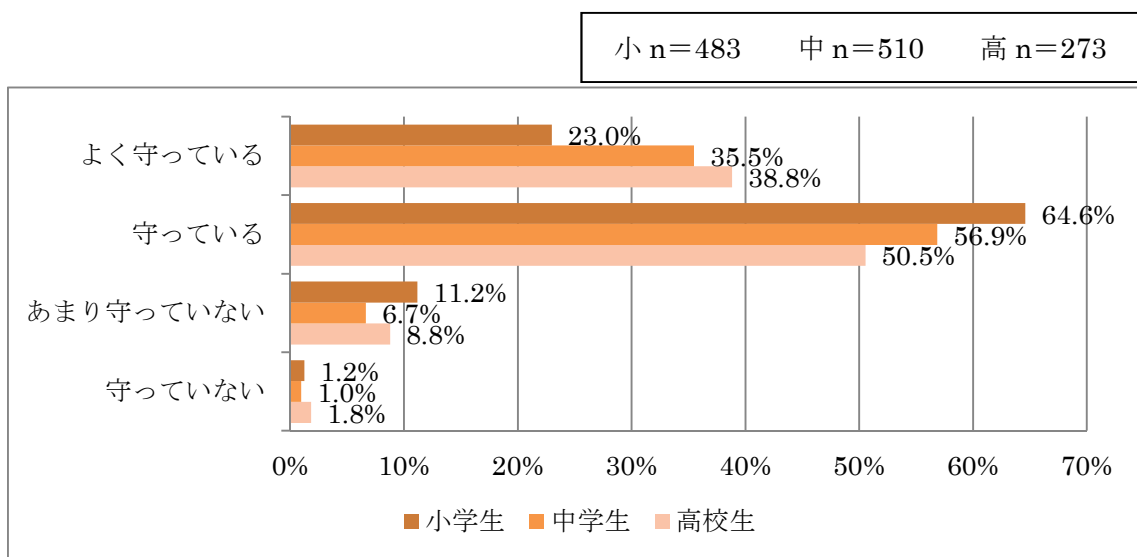
※小学生、中学生、高校生ともに「たくさんある」「ある」が6割を超えた。小学生では「ない」を選んだ割合が4.5%と低くなっている。



（５）学校のきまり

（児童生徒）問 19 学校のきまりを守っていますか。（一つに○）

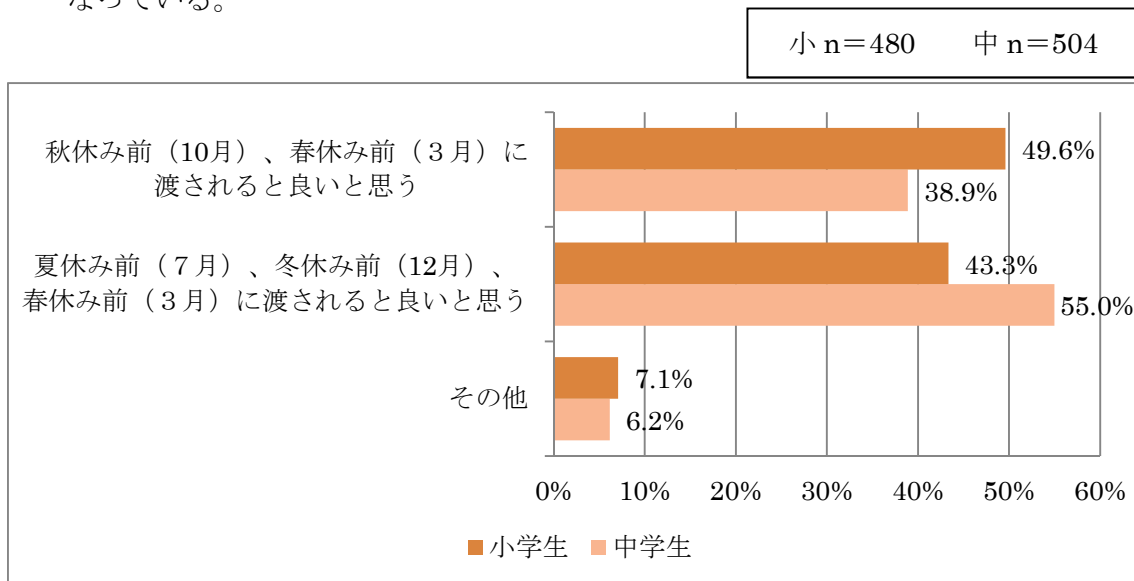
※小学生、中学生、高校生ともに「よく守っている」「守っている」が8割を超え、前回（6～7割）と比べると高くなっている。



（6）通信簿を渡される時期

（小・中学生）問 20 自分の学習の成績などを知るための通信簿は、いつ渡されると良いと思いますか。

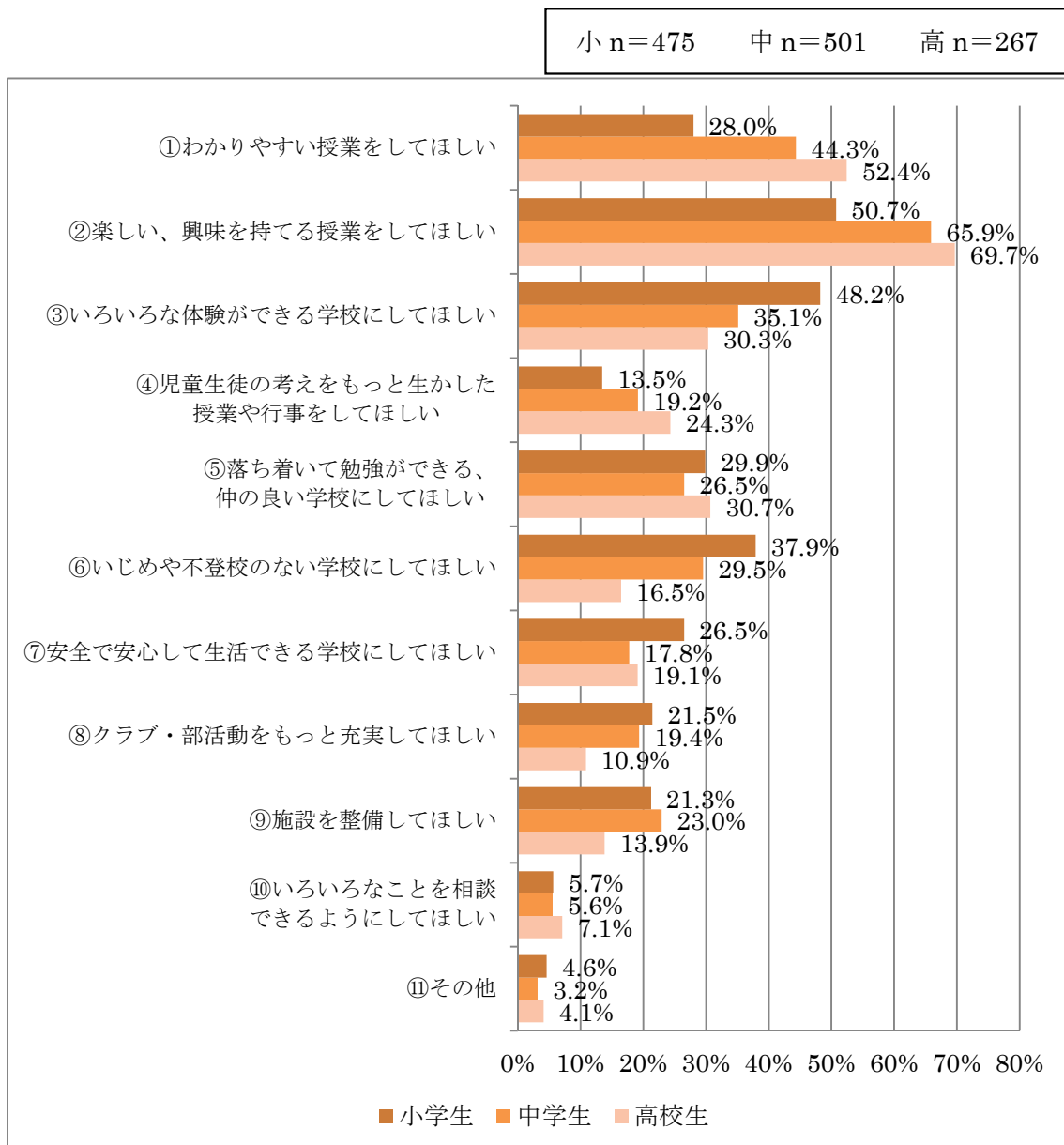
※小学生では、「秋休み前、春休み前に渡されると良い」を選んだ割合が高く、中学生では、「夏休み前、冬休み前、春休み前に渡されると良い」を選んだ割合が高くなっている。



（7）望まれる学校像

（児童生徒）問 11 あなたは、学校をどのような学校にしてほしいですか。（おもなもの三つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「②楽しい、興味を持てる授業をしてほしい」の割合が一番高い。次いで、中学生、高校生は「①わかりやすい授業をしてほしい」の割合が高く、小学生は「③いろいろな体験ができる学校」の割合が高い。



※「⑪その他」の意見（一部抜粋）

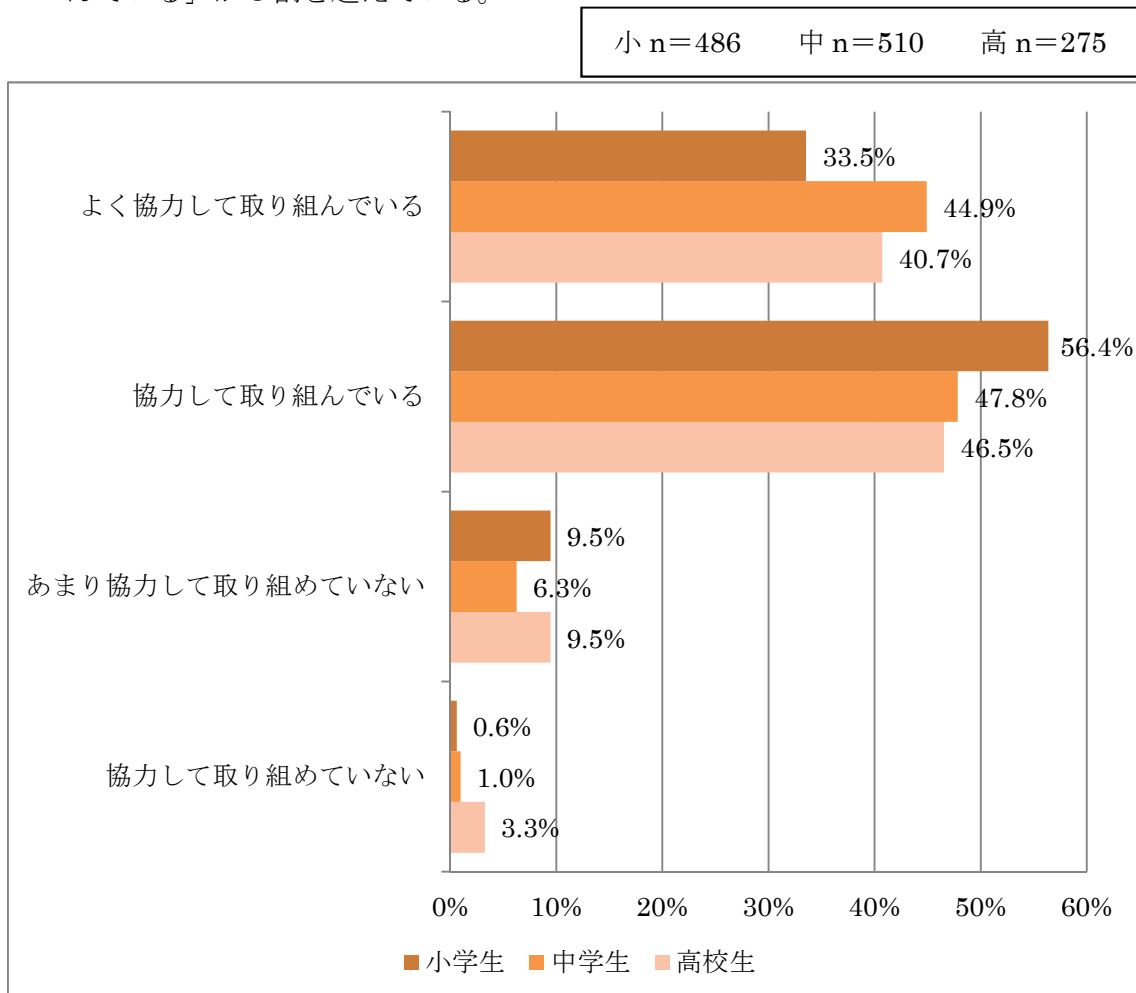
- ・体育を増やしてほしい。
- ・今のままでいい。

- ・頭が良くなれる学校にしてほしい。
- ・動物が飼える学校にしてほしい。
- ・先生が子どもの気持ちをもっと考えてほしい。
- ・休みが少ないので増やしてほしい。
- ・校則をもう少しゆるくしてほしい。
- ・どうしてほしいかなんて言っても意味がない。

（８）クラス活動や学校行事への協力

（児童生徒）問 12 クラスの活動や学校行事には、みんなと協力して取り組んでいますか。（一つに○）

※小学校、中学校、高校生ともに「よく協力して取り組んでいる」「協力して取り組んでいる」が8割を超えている。

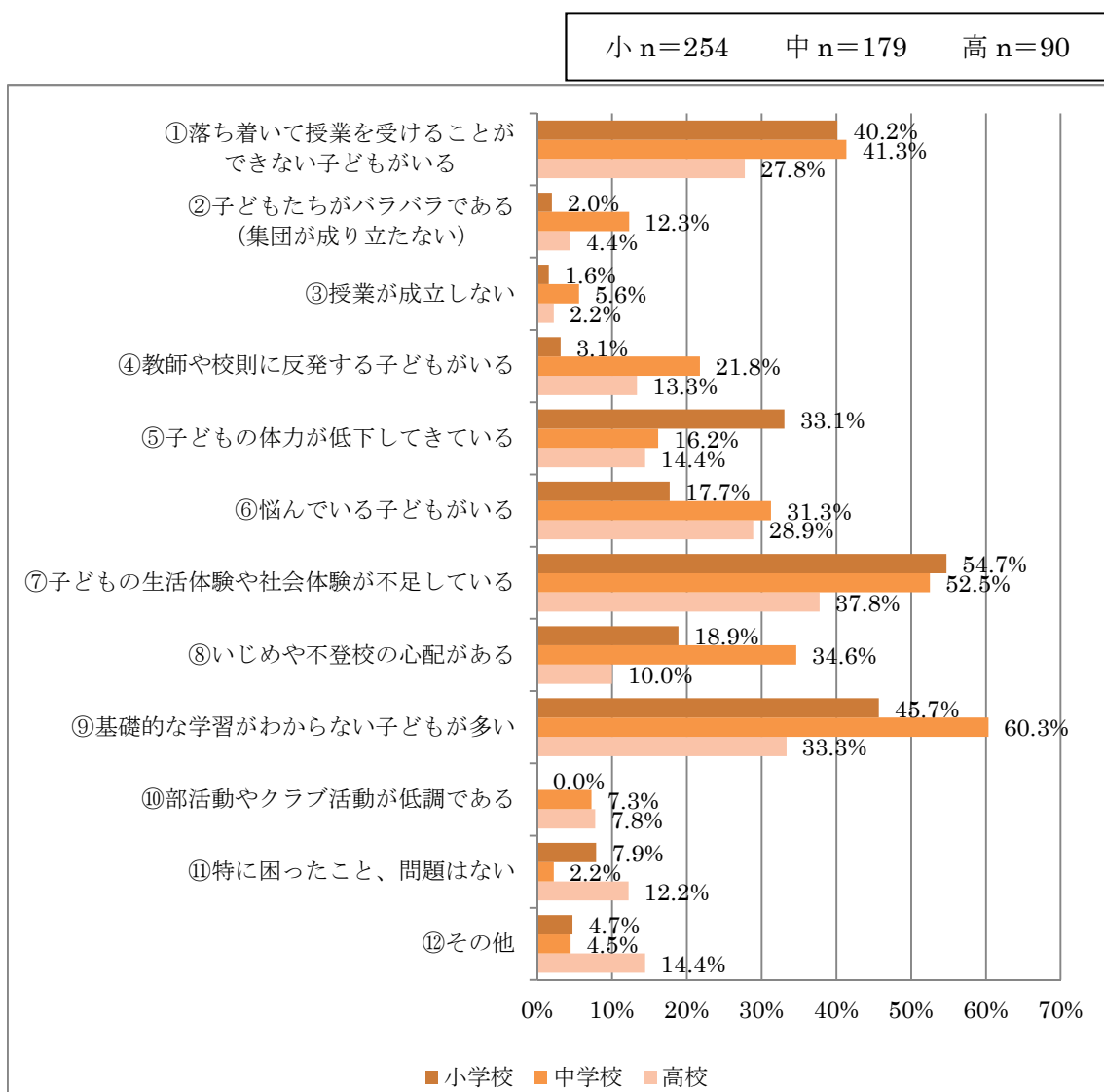


（9）担当クラスで困ったこと

（教員）問6 あなたが担任・担当しているクラス（担任・担当のない人は学校全体）の子どもについて、何か困っていること、問題と感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

※各校種とも、①⑦⑨の割合が高く、前回（① 小 53.5% 中 51.8% 高 36.8%、⑦ 小 53.5% 中 50.3% 高 47.4%、⑨ 小 45.3% 中 56.8% 高 36.8%）と同じ傾向である。①については、各校種とも前回より改善の傾向がみられる。

※中学校では、60.3%（前回 56.8%）の教員が⑨を選んでいる。



※「⑫その他」の意見（一部抜粋）

- ・ 特別支援級の児童への正しい理解がされていない。
- ・ 家庭の問題を抱えている子どもが多い（親としての責任がない方が多い）。

- ・ 保護者の貧困、ネグレクト、養育能力が低い（高収入家庭であっても）。
- ・ 大人に対する信頼感がない。
- ・ 親が子に関心がない（親が協力的でない）。
- ・ 人の気持ちを考えられない（心ない言葉や行動ができてしまう）生徒が多い。
- ・ スマホ・携帯依存
- ・ 応用力が低下している。
- ・ 自ら学ぶ意識が不足している生徒がいる。
- ・ 子どもに対して十分な指導ができる人手が足りない。

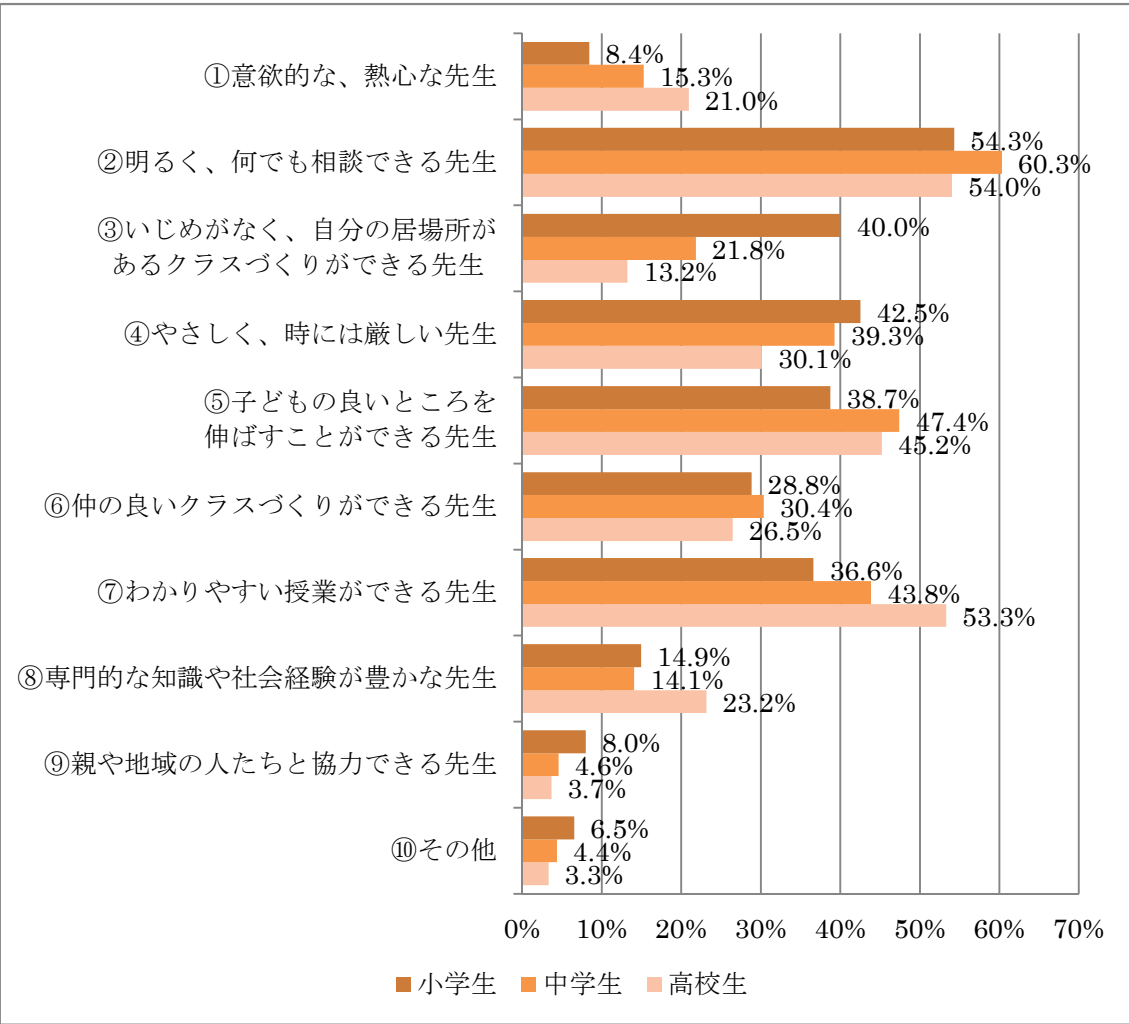
(10) 望まれる教師像

(児童生徒) 問 13 あなたは、どのような先生を望んでいますか。(おもなものを三つに○)
 (保護者) 問 4 (市民) 問 3 (教員) 問 5 あなたが考える望ましい先生(教師)は、どのような先生(教師)ですか。(おもなものを三つに○)

①児童生徒

※児童生徒については、小学生・中学生・高校生ともに5割以上が「②明るく、何でも相談できる先生」を選んでいる。

小 n=475 中 n=504 高 n=272



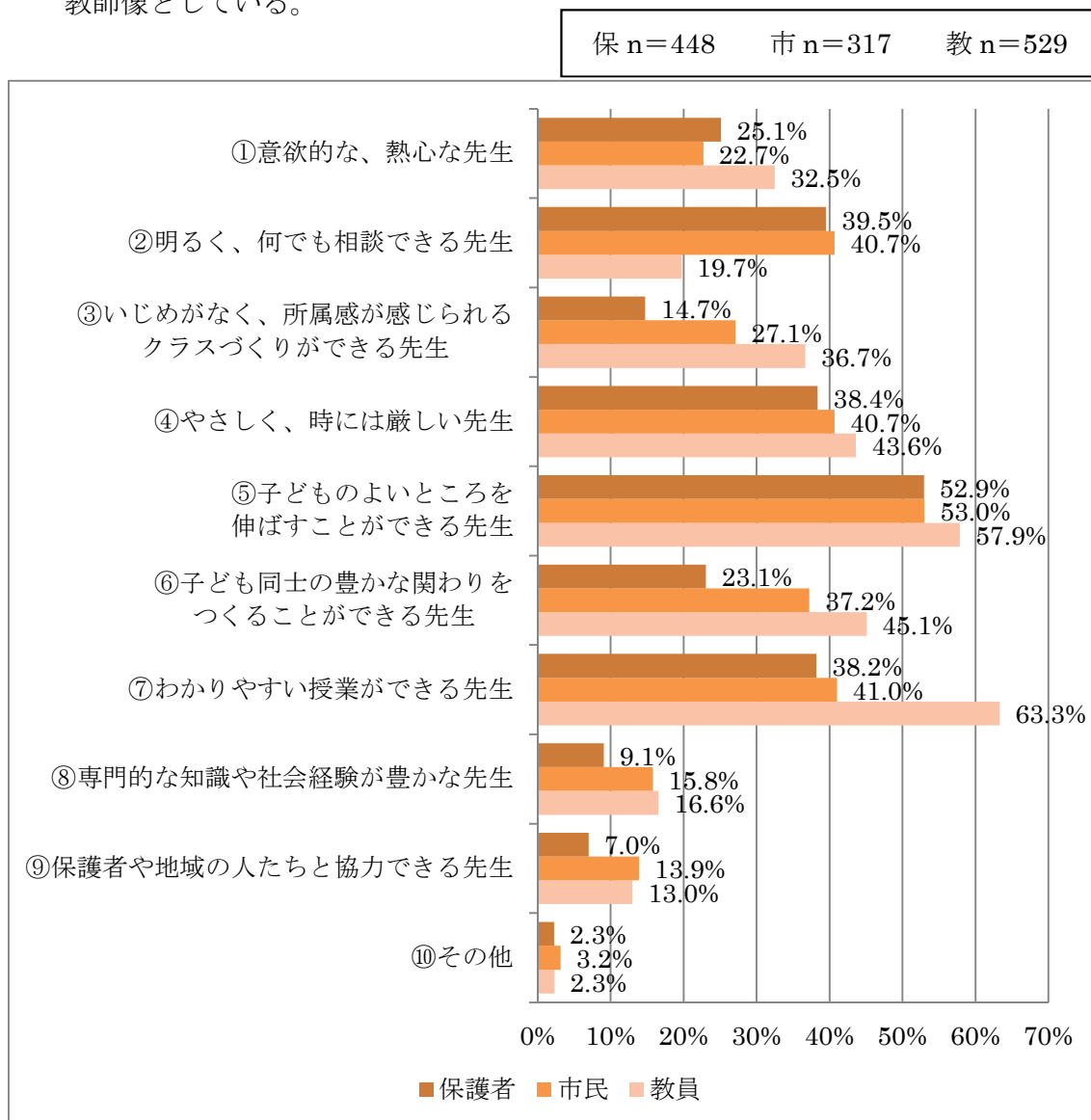
※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

- ・面白い先生 ・字がきれいな先生 ・誰にでも平等な先生
- ・機嫌をコントロールできる先生 ・子どもの目線に立って考えられる先生
- ・一人ひとりに合った教え方ができる先生 ・正しいことを教えられる先生

②保護者・市民・教員

※保護者・市民・教員ともに5割以上が「⑤子どものよいところを伸ばすことができる先生」を選んでいる。

※特に教員は「⑦わかりやすい授業ができる先生」を63.3%が選んでおり、望ましい教師像としている。



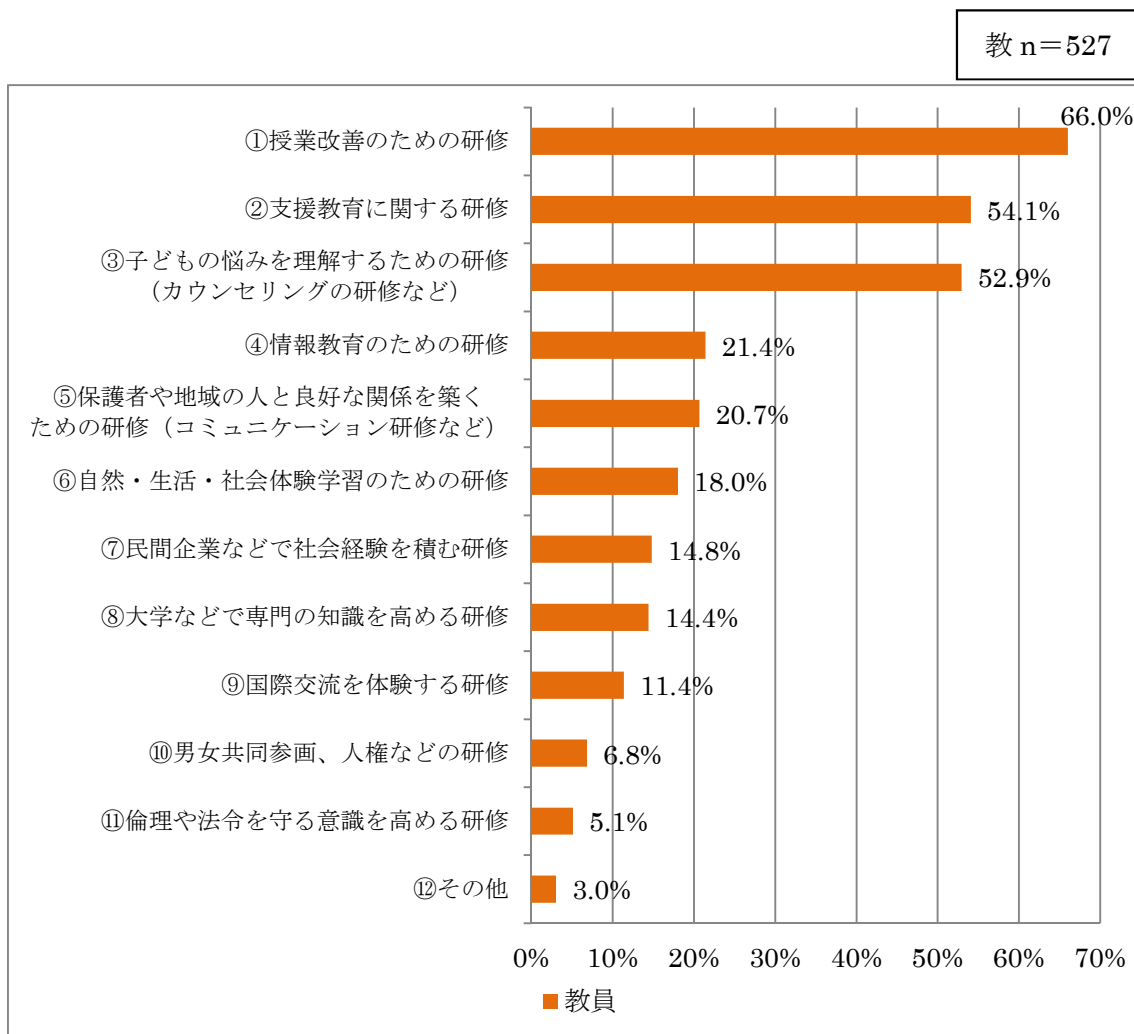
※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

- ・子どもの気持ちを考えられる先生
- ・信賞必罰を徹底できる先生
- ・仕事にやりがいを感じていて、健康な先生
- ・学び続ける教師
- ・個性豊かな教師（一人の教師に全てを望むのは難しい。色々な教師がいて色々な経験が積める。）
- ・最低限の常識を持っている先生
- ・誠実な先生
- ・コミュニケーション能力の高い教師

(11) 教員が希望する研修

（教員）問 11 今後、どのような研修を希望しますか。（おもなものを三つに○）

※「①授業改善のための研修」が 66.0%、「②支援教育に関する研修」が 54.1%、「③子どもの悩みを理解するための研修」が 52.9%と、その割合が高くなっている。



※「⑫その他」の意見（一部抜粋）

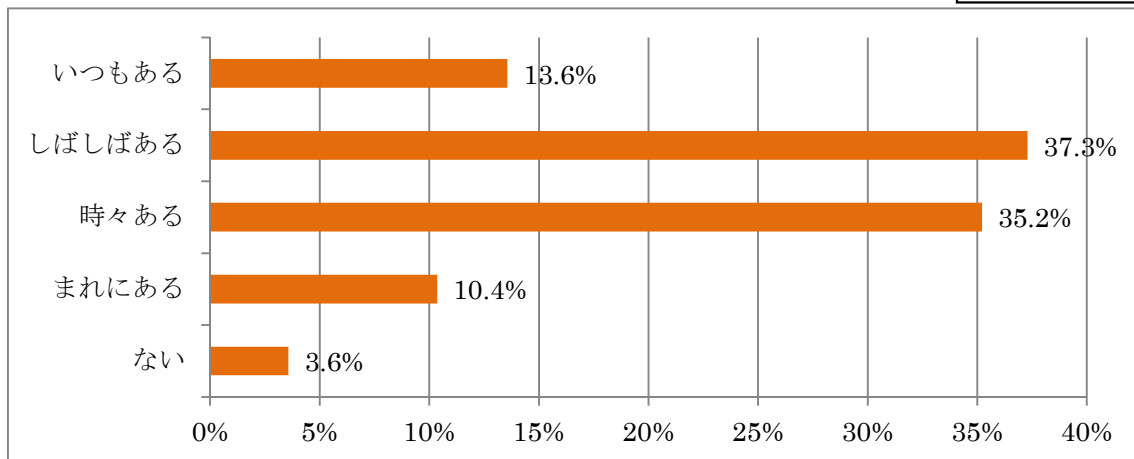
- ・子どもと一緒にいる時間を増やすため研修は不要。
- ・メンタルヘルスなど
- ・部活動における指導に関する研修
- ・STEM・STEAM（科学・技術・工学・芸術・数学）研修
- ・憲法や法律について学ぶ研修
- ・ワークライフバランスの研修
- ・現場で研修できる時間が欲しい。

(12) 教員の仕事の現状

(教員) 問 12 最近6か月くらいの間で、仕事に喜びや充実感を感じることがありましたか。(一つに○)

※「いつもある」「しばしばある」「時々ある」を選んだ割合は、8割以上となっている。

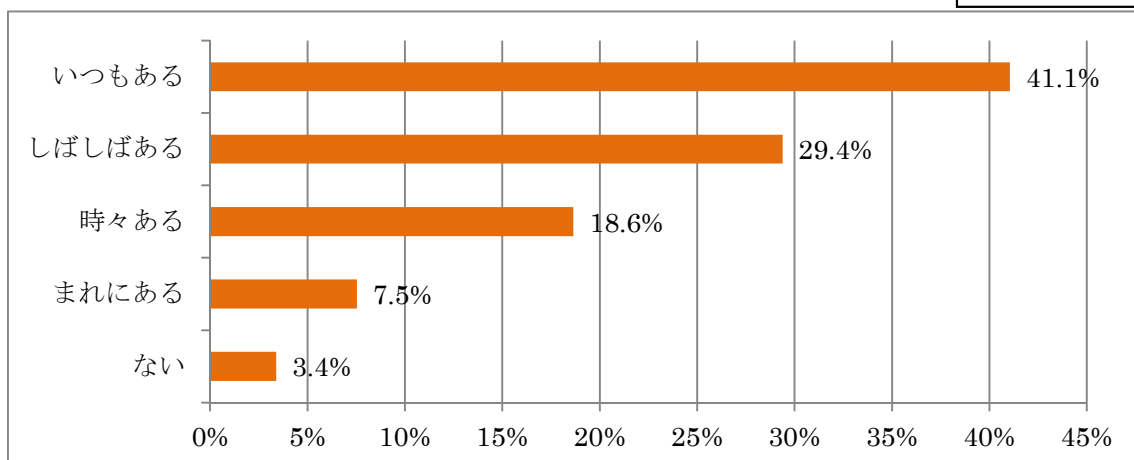
教 n=531



(教員) 問 13 最近6か月くらいの間で、仕事にゆとりがないと感じることがありましたか。(一つに○)

※「いつもある」「しばしばある」が70.5%（前回70.8%）となっている。

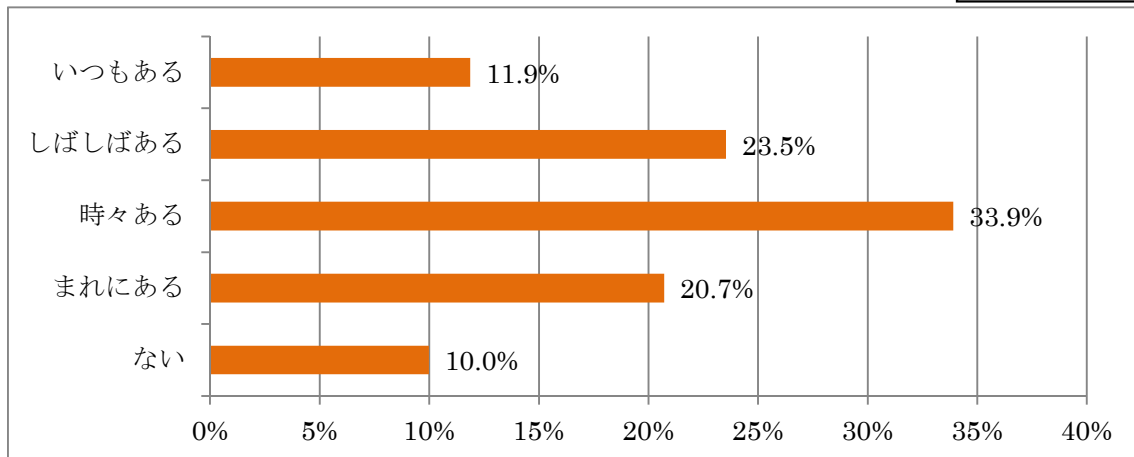
教 n=531



（教員）問 14 最近6か月くらいの間で、仕事について、気持ちが落ち込むことがありましたか。（一つに○）

※「いつもある」「しばしばある」「時々ある」を選んだ割合は、約7割となっている。

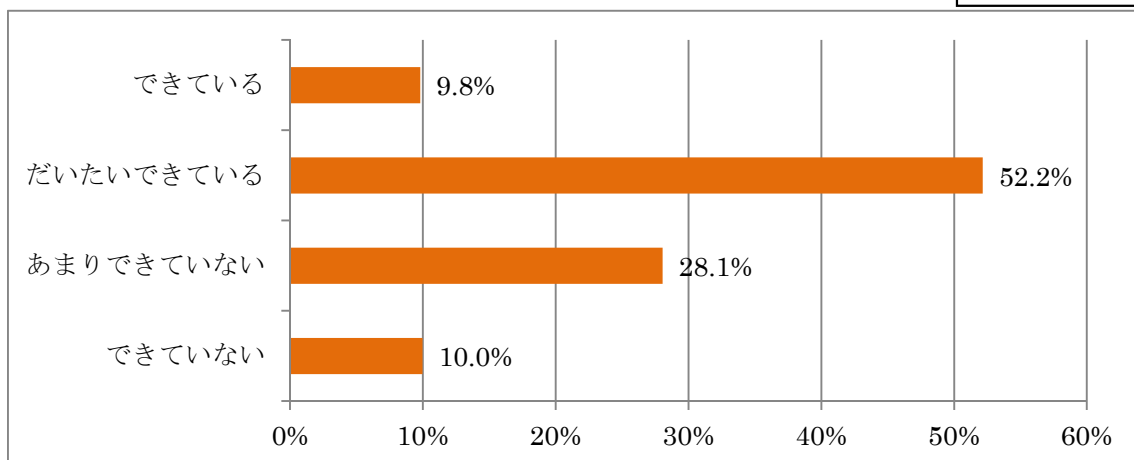
教 n=531



（教員）問 15 自分のペースで、仕事ができますか。（一つに○）

※「あまりできていない」「できていない」を選んだ割合は、38.1%（前回 44.9%）となっている。

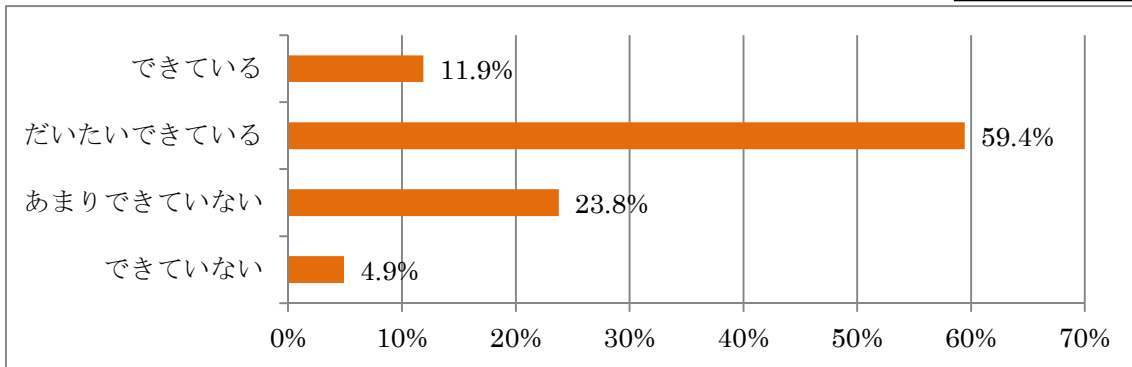
教 n=531



（教員）問 16 仕事に自分の意見を反映できていますか。（一つに○）

※「できている」「だいたいできている」を選んだ割合は7割以上となっている。

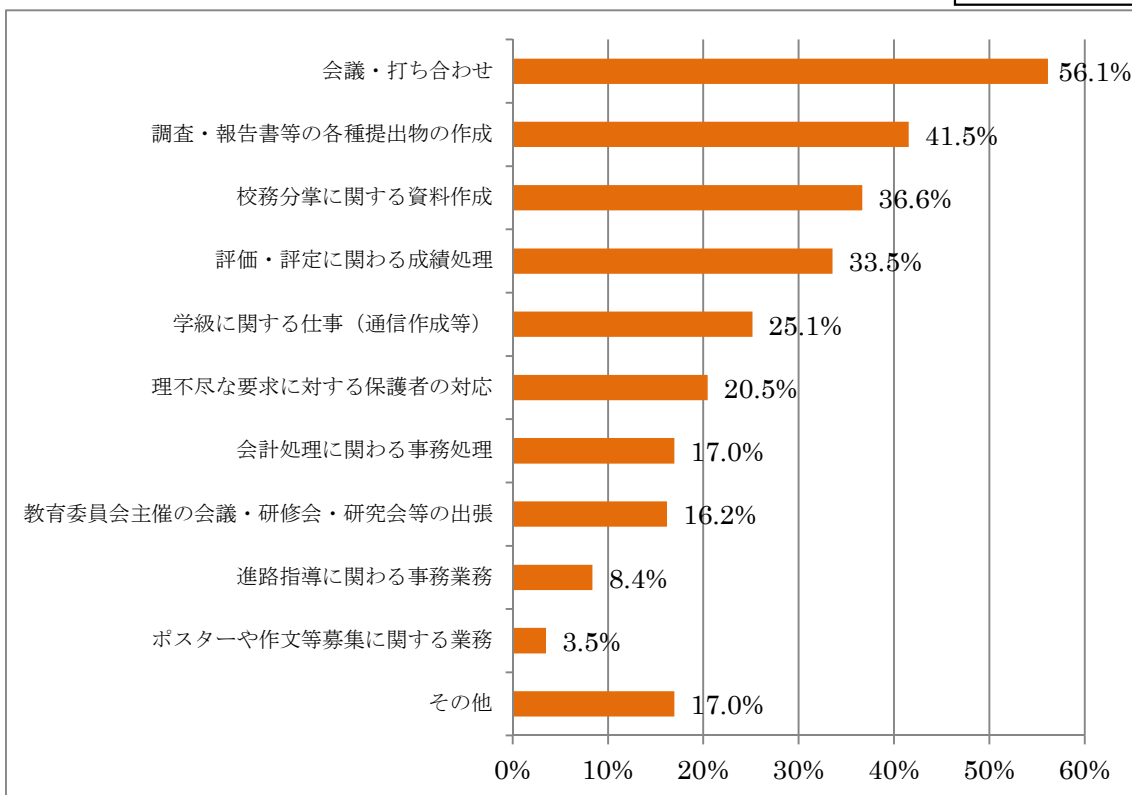
教 n=530



（教員）問 17 何が多忙の原因だと思いますか。（おもなもの三つに○）

※「会議・打ち合わせ」「調査・報告書等の各種提出物の作成」の割合が高くなっている。

教 n=513



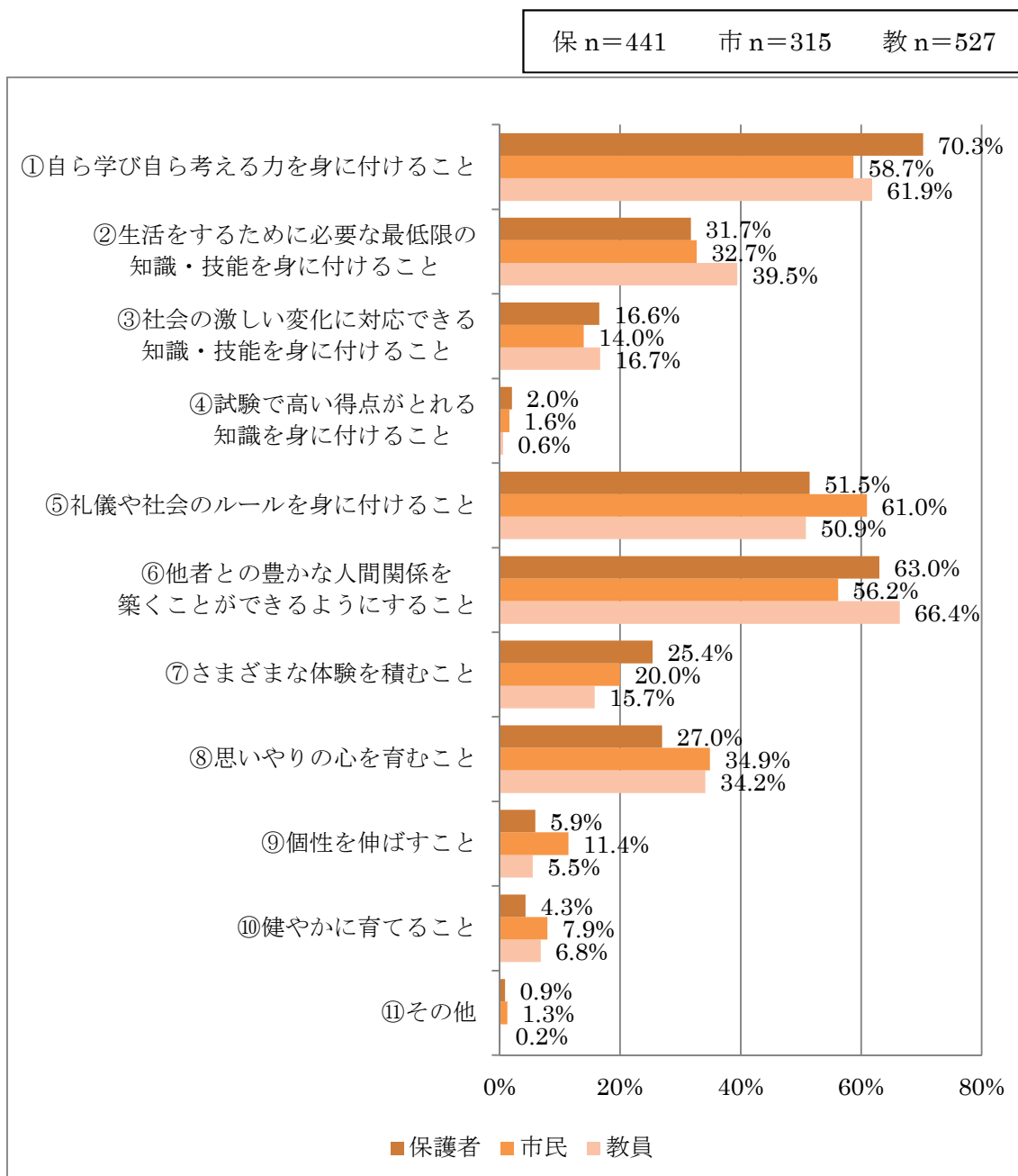
※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・このようなアンケート
- ・児童（生徒）指導
- ・部活動
- ・校内研究
- ・校務分掌の偏った分担
- ・放課後のトラブル処理
- ・授業時間の無意味な増加
- ・仕事に対する意識の違い
- ・教師が、自分でやりたいことを全部完璧にやろうとする気持ち、完成度を上げた
いと思う気持ちが多忙にしている面もある。
- ・校内の組織体制（職場の環境）
- ・力不足
- ・他の職員のフォロー
- ・学校が学習だけでなく、小中連携、地域との連携などやることが多く、授業後、
会議が多く自分の仕事ができるのは5時以降である。
- ・実力やタイムマネジメント能力のなさ
- ・学校外から依頼される仕事
- ・パソコンが苦手なため作業が遅い。

(13) 子どもの教育に必要だと思うこと

(保護者) 問3 (市民) 問2 (教員) 問4 あなたが、学校での子どもの教育に必要だと思うことは何ですか。(おもなものを三つに○)

※保護者、市民、教員ともに、5割以上が「①自ら学び自ら考える力を身につけること」「⑤礼儀や社会のルールを身につけること」「⑥他者との豊かな人間関係を築くことができるようにすること」を選んでいる。



※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

（保護者）

- ・立ち直る力をつける経験
- ・問題を解決する能力を身につけること
- ・他人を認めること

（市民）

- ・学校は学び、躰は親がしなければいけないのに、子どもが悪くなったのは学校のせいと思う親が多い。
- ・地域の歴史を知ること
- ・日本の歴史を正しく教えること
- ・人間の多様性、自分と違うものを異物と認識しないように、広い視野を持つことの楽しさを学ばせること
- ・集中力をつけると同時に、読書習慣をつけること

（教員）

- ・掃除

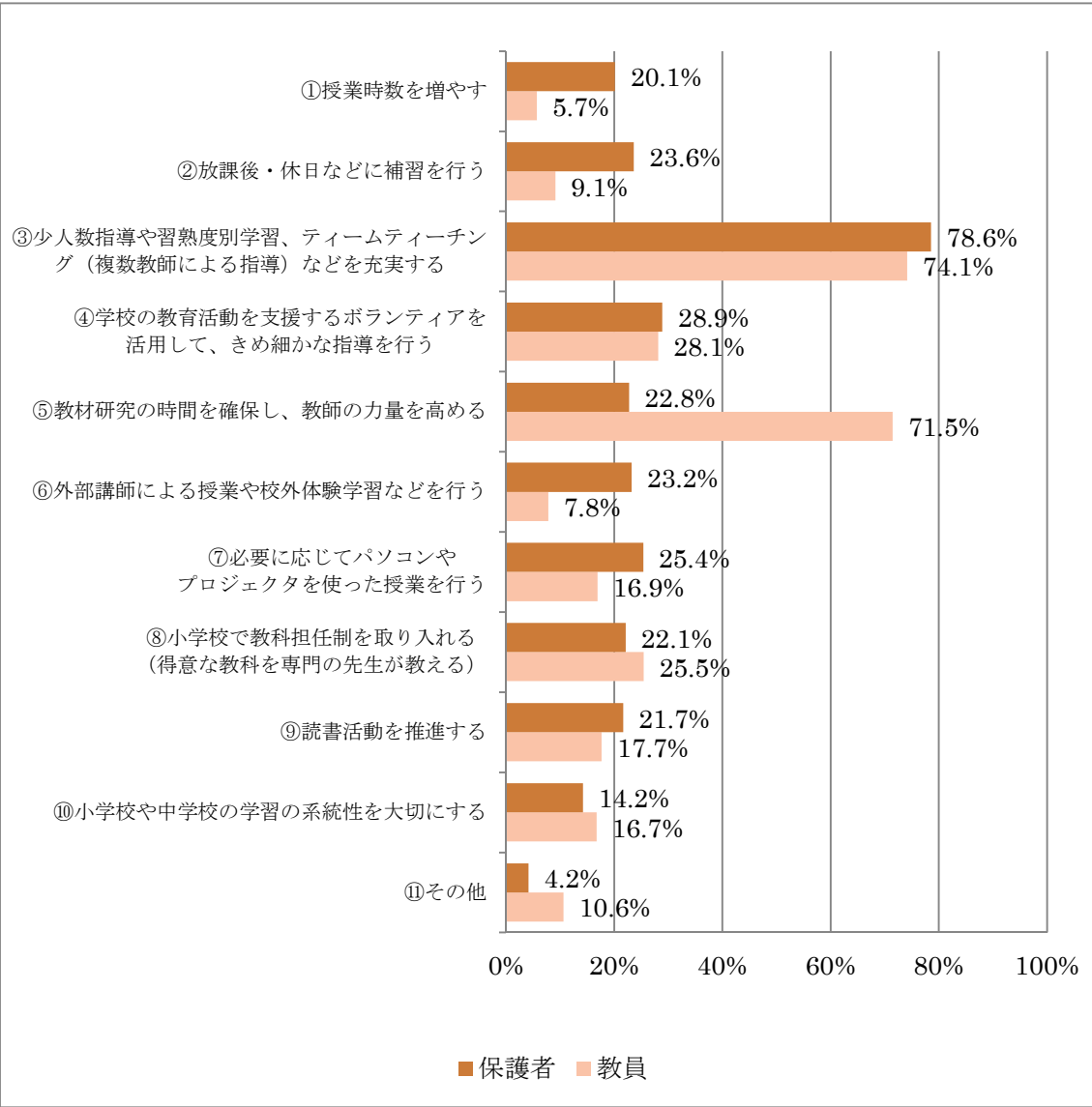
(14) 基礎的学力向上への取り組み

(保護者) 問5 (教員) 問8 「基礎的な学力」を高めるために、学校教育でどのような取り組みの体制が必要とお考えですか。(おもなもの三つに〇)

※「③少人数指導や習熟度別学習、ティームティーチング（複数教師による指導）などを充実する」については、保護者、教員とも割合が高くなっている。

※教員は、「⑤教材研究の時間を確保し、教師の力量を高める」の割合が保護者と比べて高くなっている。

保 n=457 教 n=526



※「⑩その他」の意見（一部抜粋）

（保護者）

- ・事務的な仕事をする人を増やす（担任の先生が子どもたちと過ごす時間を増やせるよう）。
- ・土曜日も通学させる。
- ・興味や意欲を持たせるための努力、分かりやすく、覚えやすい指導。
- ・家庭で自ら学習に取り組む環境を作る。
- ・読書に限らず「国語」で学ぶことは他教科を学ぶ土台だと思うので、読む・書く・読みとる・内容の理解等の時間を多くとれたら良いかと考えます。自分の意見をまとめる力もコミュニケーション力も国語力が影響すると思います。
- ・自己学習を身につけさせる。
- ・幼児教育を取り入れ、小学校1年生での学習レベルを上げる。
- ・授業の質を高める（時間を増やす事は現実的でないので）。
- ・親との連携強化

（教員）

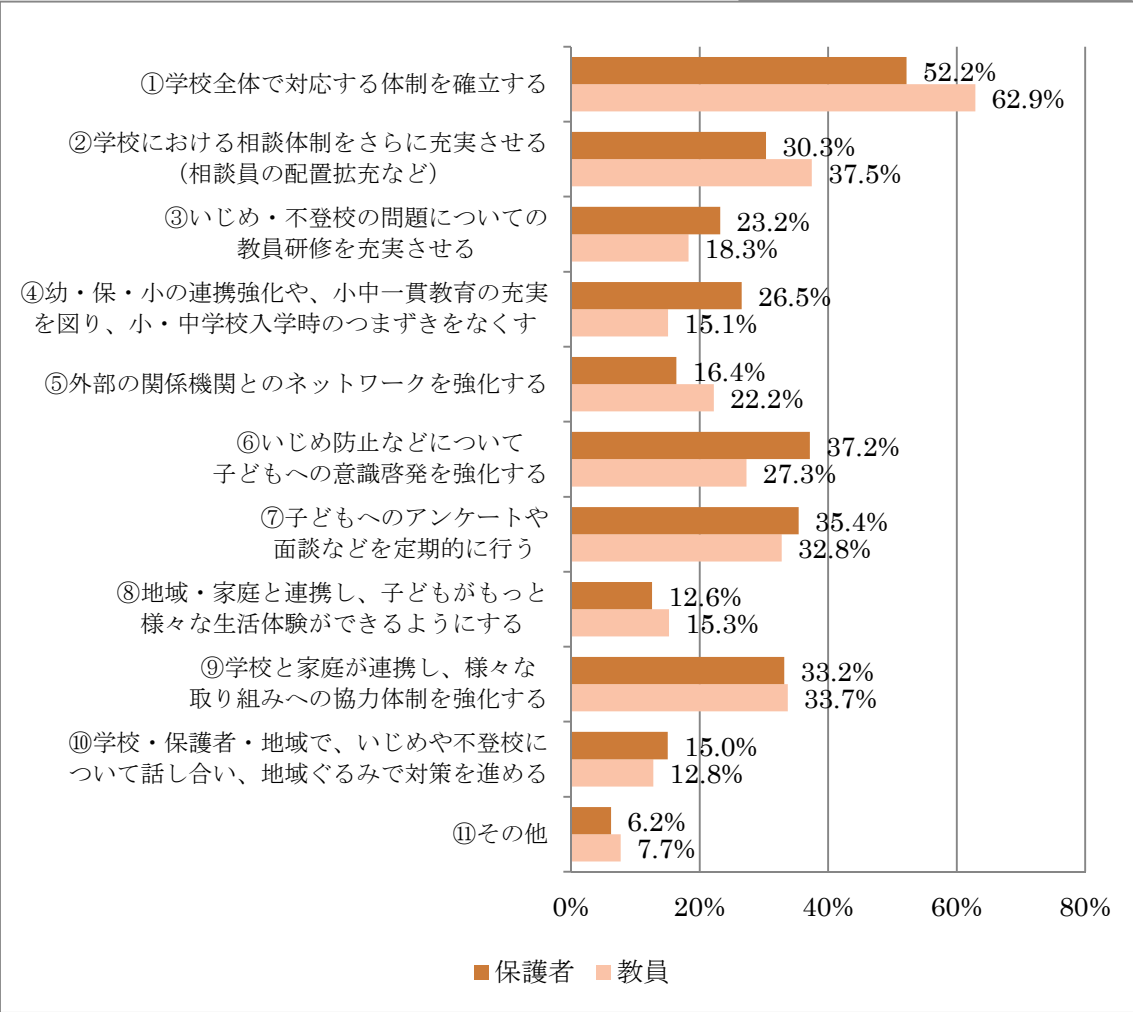
- ・教師同士で教え合う環境を整える。
- ・教育に予算を配分し、質と人材確保に努める。
- ・生活リズムを整える大切さを伝える時間を確保する。
- ・教科・課題を減らす。読書感想画等や集会活動等のイベント的課題を減らし、国・数等にあてる時間を増やす。そぎ落とし、一極集中するべき。
- ・1クラスの定員を減らす。持ち時間を減らす。教員を増員する。
- ・学習内容の精選、学習教科の精選、今の学校教育はあれもこれも大切とって、結局何が大切かわからなくなっている。
- ・家庭への啓蒙（生活習慣をととのえてもらう）
- ・個々の課題に合わせた基礎的な学習を定期的に、繰り返し取り組んでいくこと。この時少しでも子どもたちにとって、楽しいと感じられる学習を提供できることを心がける。
- ・何をやるかではなく、どうやるか？を考えるべき。
- ・家庭での学習の仕方、またはその教え方が分からない保護者がおり、そのフォローが必要だと思う。

(15) いじめ・不登校を未然に防ぐ取り組み

(保護者) 問6 (教員) 問10 いじめや不登校を未然に防止するためには、どのような対策が有効だとお考えですか。(おもなもの三つに○)

※保護者、教員ともに「①学校全体で対応する体制を確立する」を選んだ割合が高くなっている。

保 n=452 教 n=531



※「⑪その他」の意見（一部抜粋）

(保護者)

- ・いじめ・不登校はなくならないと思う。
- ・親子で色々話し合い子どもの気持ちを聞いてあげる。
- ・子ども一人一人に細やかに目を配れるよう担任を二人制にする。
- ・いじめをする子どもにペナルティーを与える。
- ・学校や教員がいじめを認め、些細な事でも気が付く体制。
- ・他者に対する偏見意識を無くさせる教育を小さい時から行う。

- ・平均寿命：男 80 女 87 才。小学校中学校 9 年間。長い人生のたった 1 割の時間、いじめられたり、死にたくなったりしてまで学校に行かなくても、学校という小さな事にこだわらず、多様な世界があると教えたい。「いじめは防止できない」だって昔からある。戦争がなくならないのと同じ。「不登校を防止」すると逃げ道が無くなって自死に至る事も。「いじめてはいけない」と教える事は大切だが「いじめられたら」どうやり過ごすのかを教えたい。
- ・学校だけでなく家庭での親と子の信頼関係、愛情のかけ方が一番大切だと思っています。学校ばかりに頼らない家庭での教育が大事。

（教員）

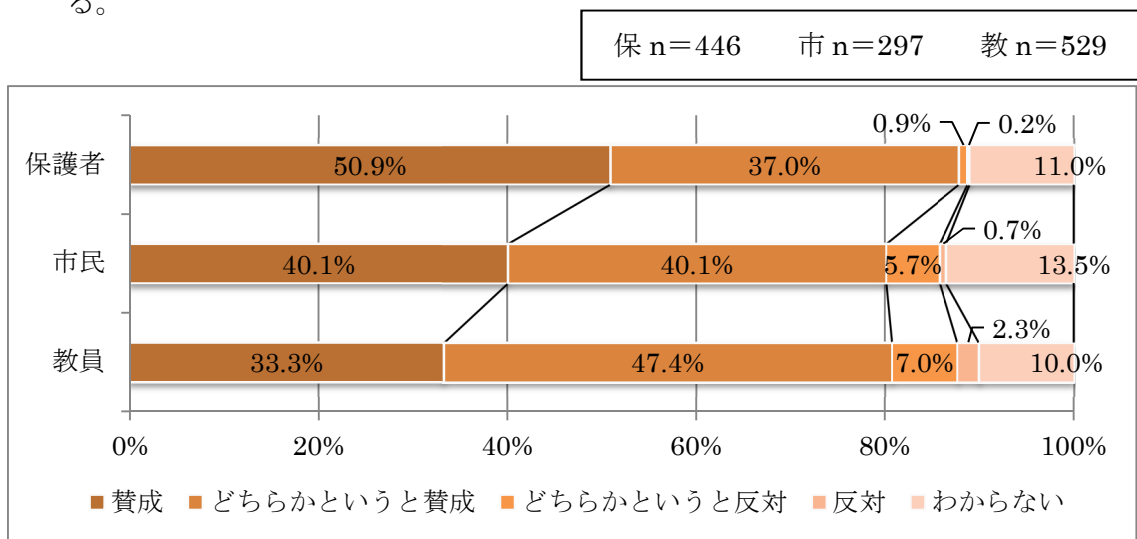
- ・教師が子どもたちの何気ない表情の変化に気付くこと、学級全体が気付き合えるような雰囲気になることが大切だと思います。
- ・多くの教員の目が入るよう、担任以外の先生の授業を増やす。
- ・子どもを縛らず、ある程度寛容な雰囲気づくりをする。
- ・少人数学級にする、もしくは 1 学級複数担任にする。
- ・家庭教育を高めるための取り組みが必要。家庭で認められている子は、いじめや不登校にはならない。
- ・保護者が自分の子どもに責任を持つ。
- ・道徳・総合などで年 3～4 回、生徒がいじめについて考えるワークシート・ディベート講話などのプログラム。
- ・教室に教師がいる時間を増やす。
- ・教師が支えあっている姿を見せる。
- ・報告・連絡・相談
- ・テストなど成績の点数で序列化する価値観を導入しない学校・学級作り
- ・学校生活に余裕や多様性を持たせて、子どもを追い込まないようにする。

(16) 教育に関する取り組みへの評価

(保護者) 問 15 (市民) 問 8 (教員) 問 25 これまでの教育に関する取り組みや、今後、検討する可能性のある取り組みについて、どのようにお考えですか。(①から⑤のそれぞれ一つに○)

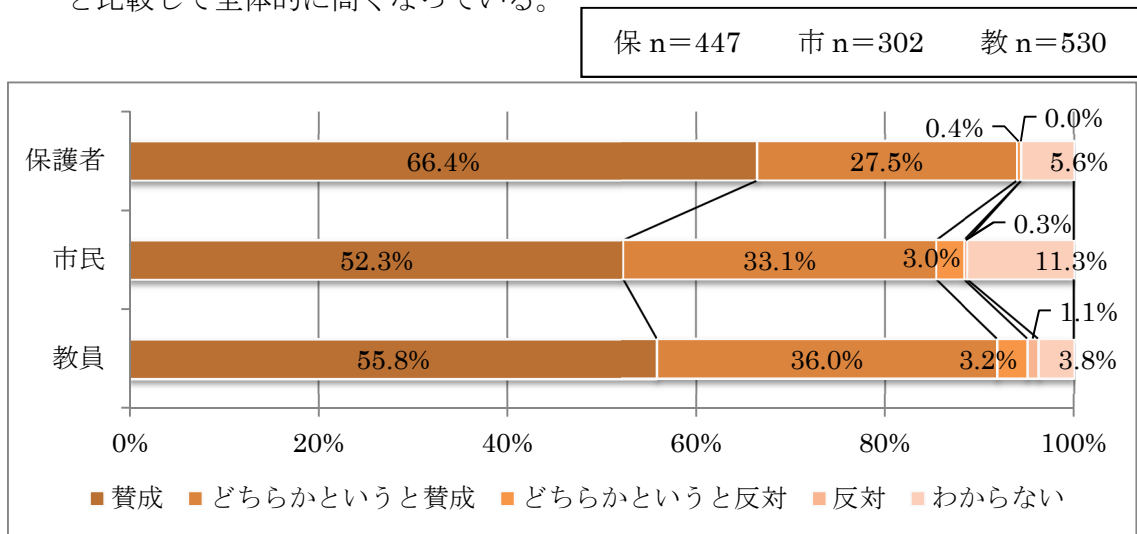
①小・中・高の児童生徒間・教師間交流

※保護者、市民、教員とも8割以上が「賛成」「どちらかという賛成」を選んでい
る。



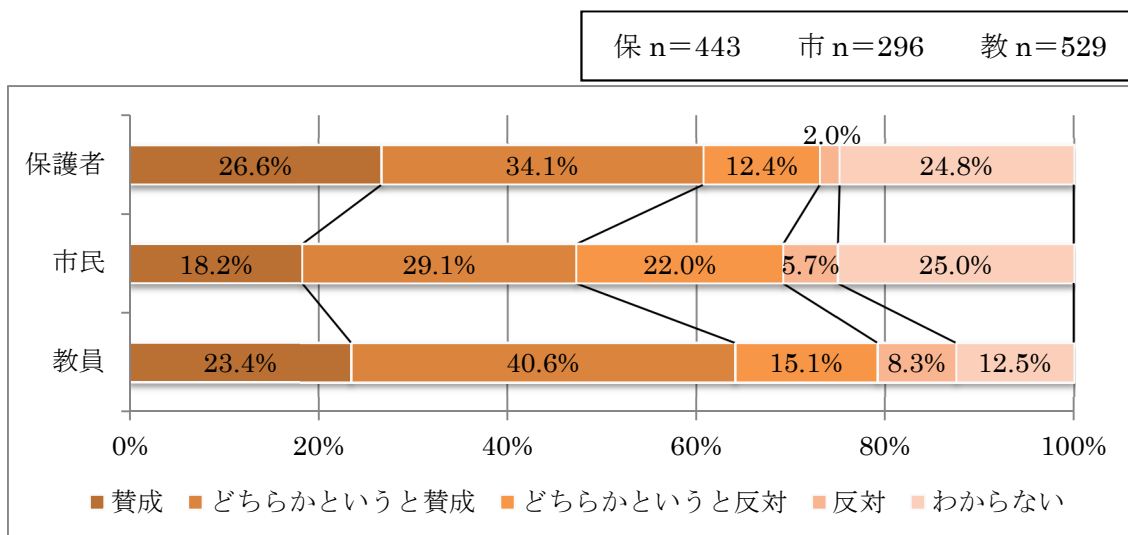
②サポートティーチャー

※保護者、市民、教員とも約9割が「賛成」「どちらかという賛成」を選んでおり、特に「賛成」を選んだ割合は、前回（保護者 63.8%、市民 42.6%、教員 45.6%）と比較して全体的に高くなっている。



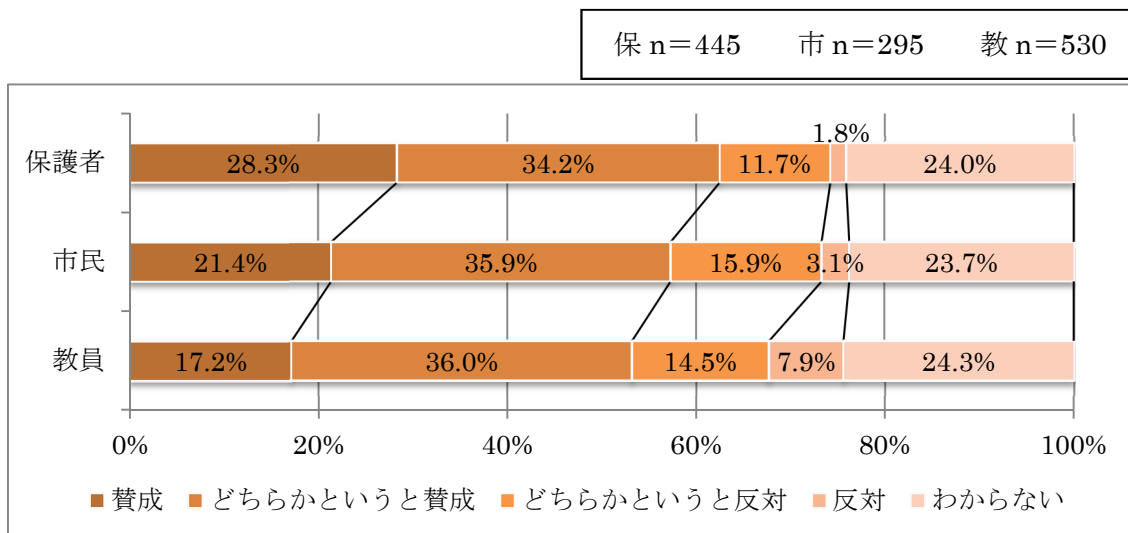
③小中一貫教育

※保護者、市民、教員とも「賛成」「どちらかをいうと賛成」を選んだ割合が、保護者 60.7%、市民 47.3%、教員 64%で、前回と比べて高くなっている（前回：保護者 49.8%、市民 44.3%、教員 43.5%）。特に教員が「賛成」を選んだ割合は、前回（11.0%）と比較して 23.4%と大幅に高くなっている。



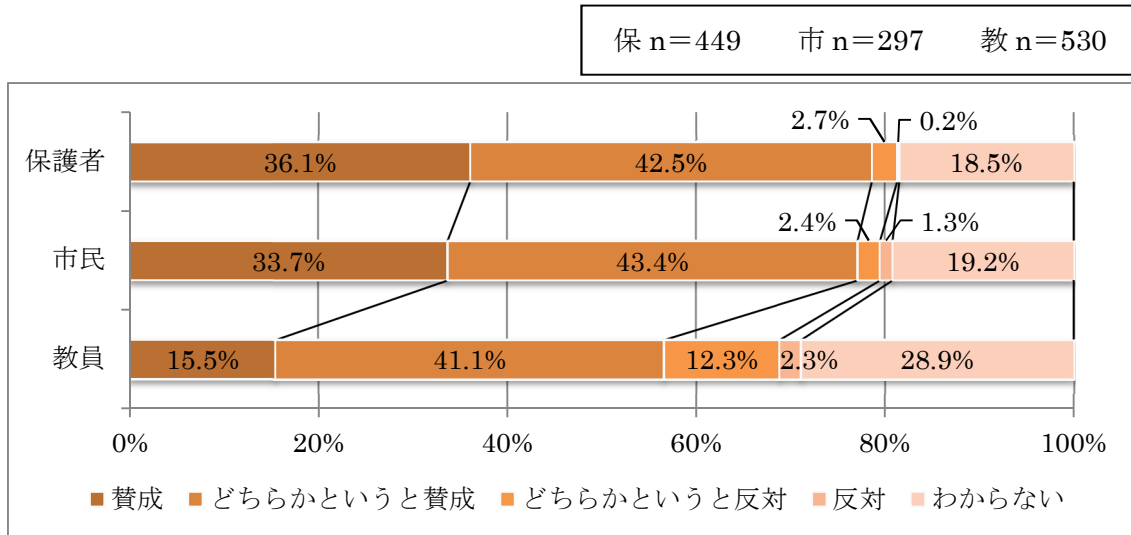
④中高一貫教育

※保護者、市民、教員とも「賛成」「どちらかをいうと賛成」を選んだ割合が、保護者 62.5%、市民 57.3%、教員 53.2%で、前回と比べて高くなっている（前回：保護者 53.5%、市民 50%、教員 45.5%）。特に教員が「賛成」を選んだ割合は、小中一貫教育と同じく、前回（9.6%）と比較して 17.2%と高くなっている。



⑤コミュニティ・スクール

※保護者、市民、教員とも「賛成」を選んだ割合が、保護者 36.1%、市民 33.7%、教員 15.5%で、前回と比べて高くなっている（前回：保護者 24.6%、市民 22.6%、教員 9.6%）。



※コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは

保護者や地域住民の声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会
が一体となって、よりよい学校をつくり上げていくことを目指す制度

6 悩みなど

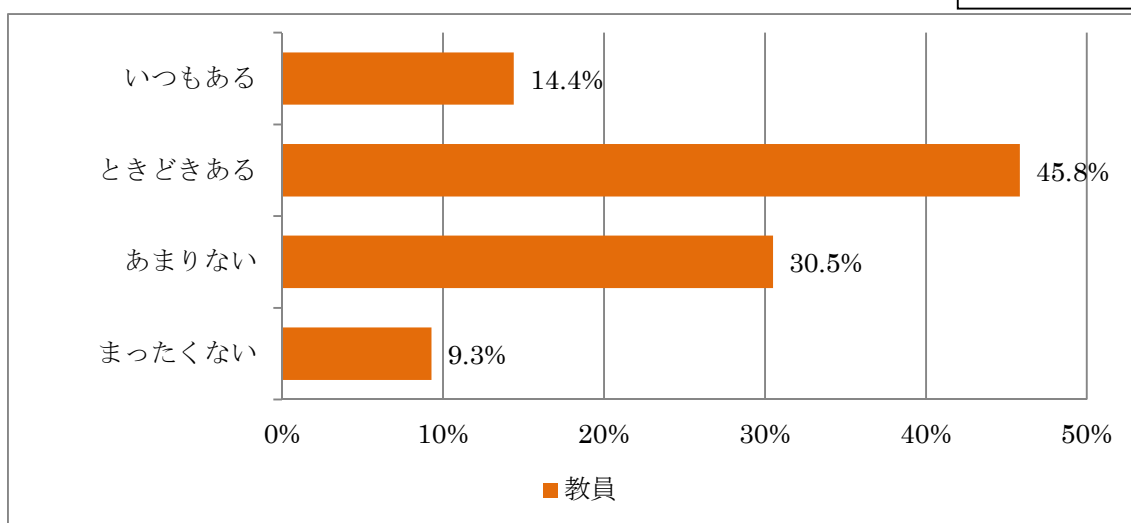
(1) 悩みなどの有無

(教員) 問 18 最近、特に悩んだり困ったりしたことがありますか。(一つに○)

※約6割の教員が「いつもある」「ときどきある」を選んでいる。

※前回と比べると、「いつもある14.4%」「ときどきある45.8%」「あまりない30.5%」の割合が若干低くなってきており、「まったくない9.3%」の割合がその分高くなっている。(前回:「いつもある14.6%」「ときどきある48.2%」「あまりない34.0%」「まったくない3.1%」)

教 n=528

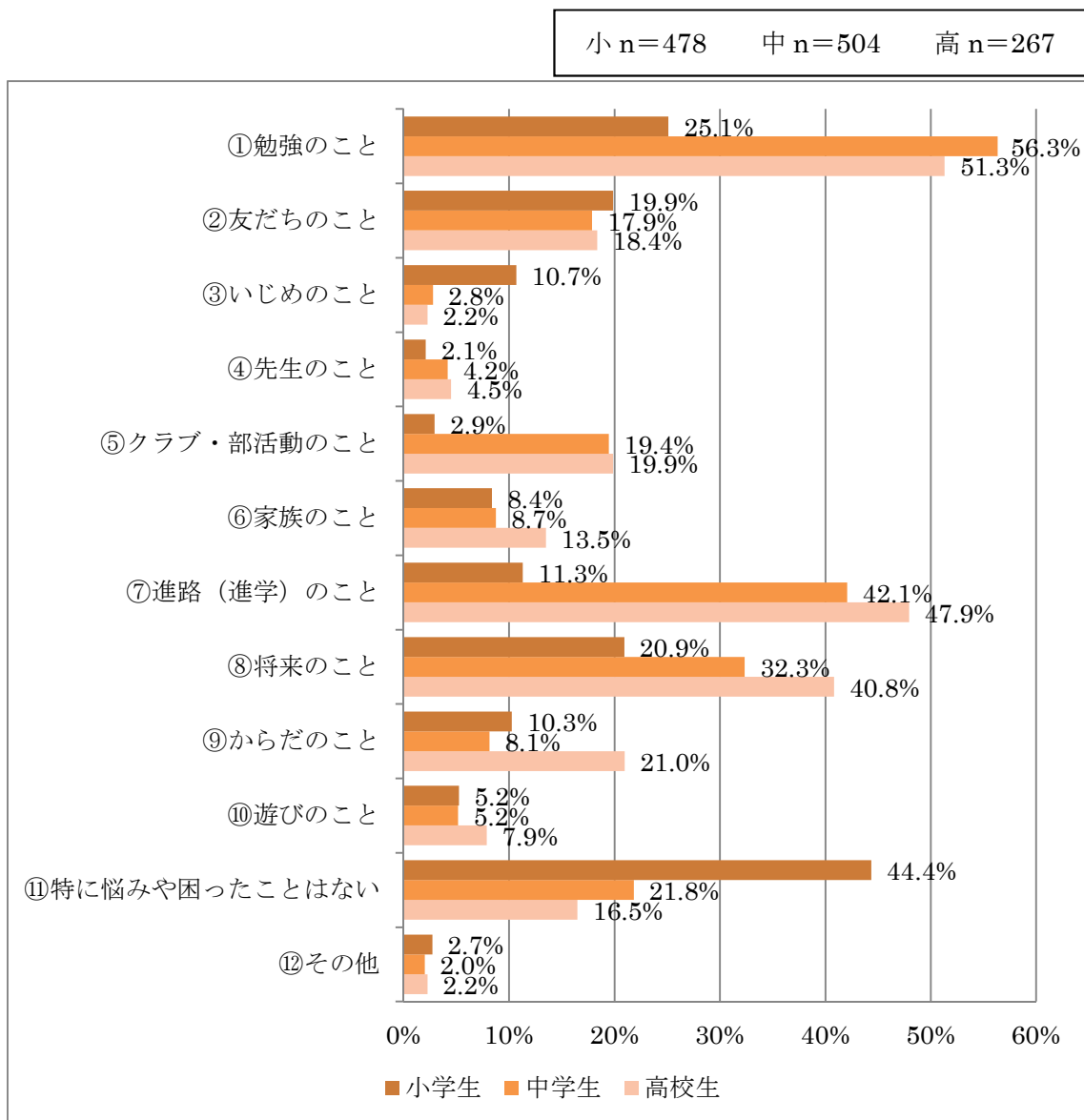


（２）悩みや困ったことの内容

①児童生徒

（児童生徒）問 7 何か悩みや困ったことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

※小学生、中学生、高校生とも「①勉強のこと」の割合が高く、中学生と高校生については、「⑦進路（進学）のこと」「⑧将来のこと」の割合も高くなっている。一方、小学生は、「⑪特に悩みや困ったことはない」の割合が高くなっている。



※「⑫その他」の意見（一部抜粋）

- ・差別のこと
- ・好きな人のこと
- ・人間関係
- ・学校の授業環境
- ・お金のこと

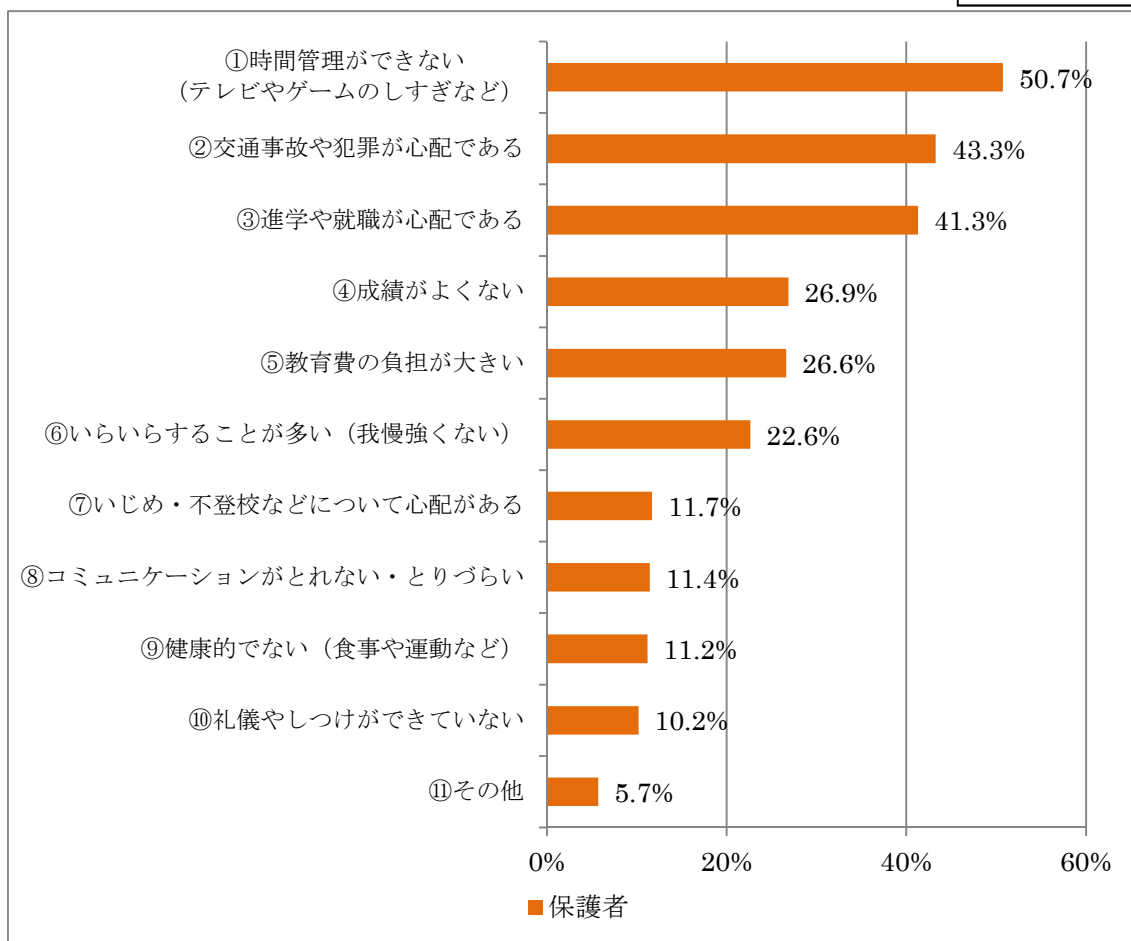
②保護者

（保護者）問 12 お子様の生活や教育について、悩んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

※「①時間管理ができない（テレビやゲームのしすぎなど）」の割合が5割を超えており、前回（42.4%）と比べて高くなっている。また、「②交通事故や犯罪が心配である」の割合も前回（38.5%）より高くなっている。

※前回もっとも割合が高かった「③進学や就職が心配である」は前回（48.9%）と比べて低くなっている。

保 n=402



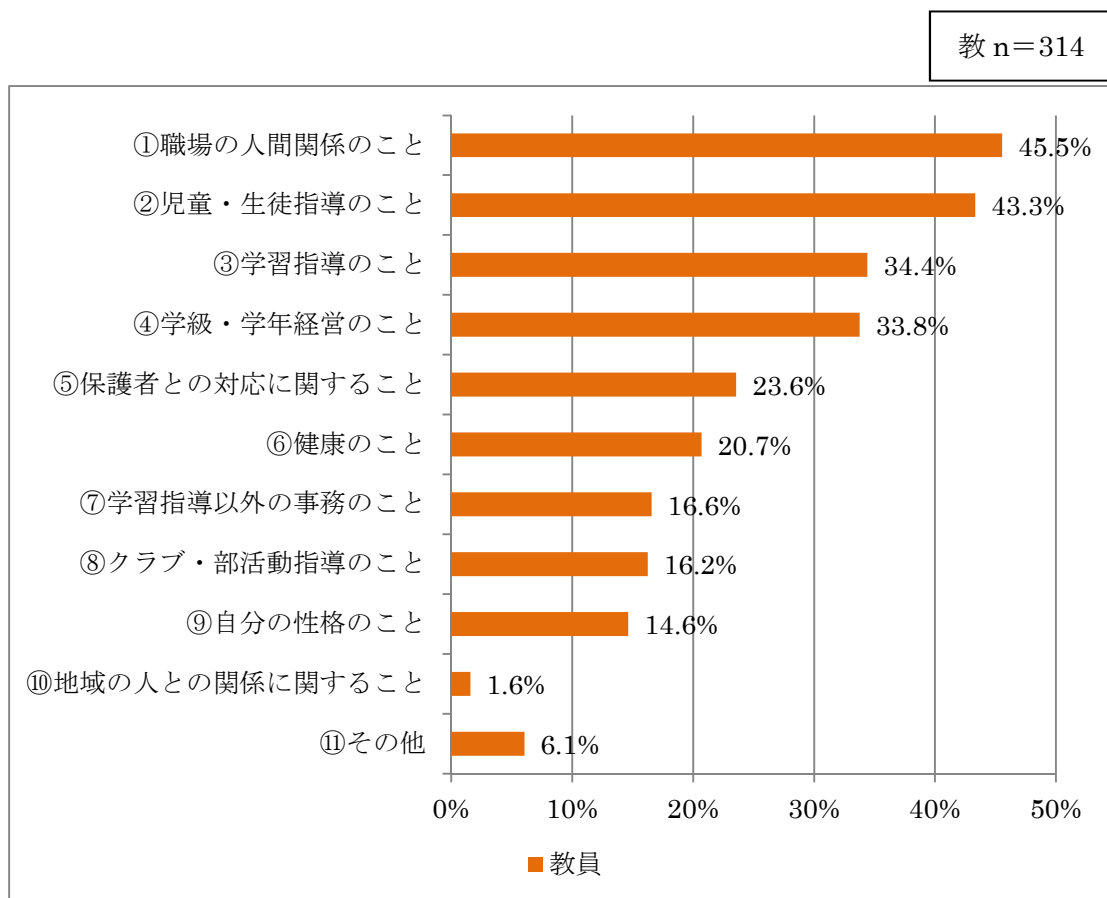
※「⑪その他」の意見（一部抜粋）

- ・部活の時間が忙しく帰宅が遅い。土日も家族で過ごせない。
- ・言葉遣いが悪く、人の話も聞かない。
- ・お金のこと（おこづかいなど）
- ・友人関係
- ・病気のこと

③教員

（教員）問 19 悩んだり困ったりしたことはどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

※前回は「④学級・学年経営のこと（前回 46.1%）」「②児童・生徒指導のこと（前回 38.3%）」「⑤保護者との対応に関すること（前回 37.0%）」が、上位3つとなっていたが、今回は④と⑤の割合が低くなった。一方、「①職場の人間関係のこと」が、前回（33.1%）より大幅に高くなり、今回一番多くなっている。



※「⑪その他」の意見（一部抜粋）

- ・自分の家庭のこと（家庭と仕事のバランス）
- ・自分の仕事の進め方（時間の使い方）
- ・業務の多忙さ
- ・人事異動について
- ・将来のこと
- ・今後の教員生活の展望について
- ・教育委員会との事務折衝

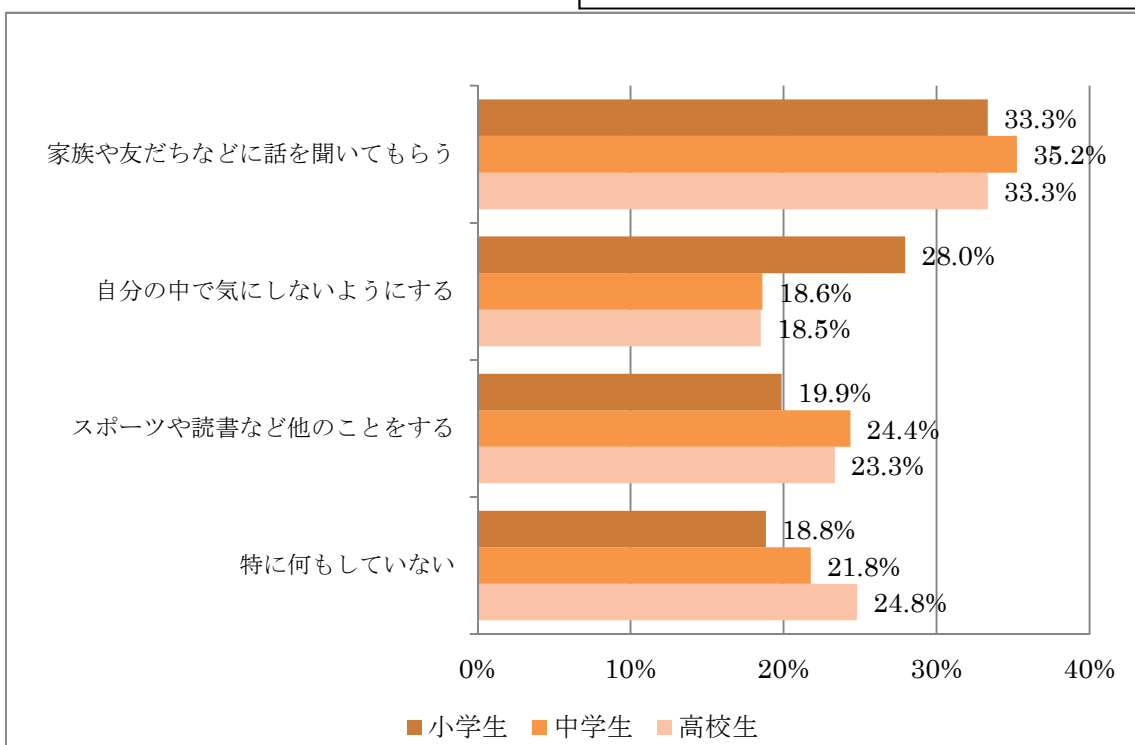
（3）落ち込んだ時の対処方法

（児童生徒）問8 いやなことがあって落ち込んだときは、どのようにすることが多いですか。（一つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「家族や友だちなどに話を聞いてもらう」を選んだ割合が高くなっている。

※「自分の中で気にしないようにする」については、小学生が28.0%と最も割合が高くなっている。

小 n=483 中 n=505 高 n=270



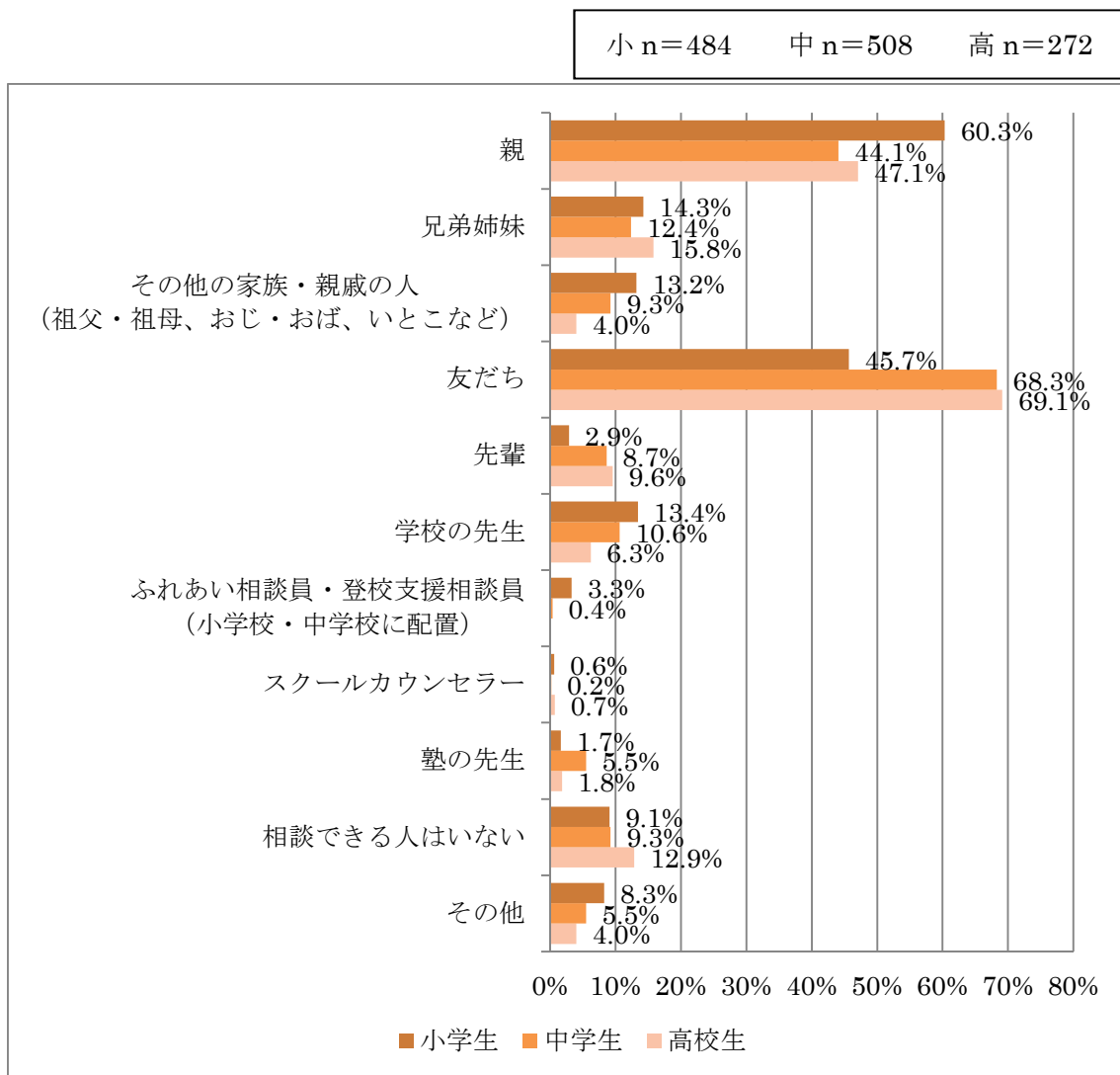
（４）相談相手

①児童生徒

（児童生徒）問９ 悩みや困ったことがあるときは、だれ（どこ）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「親」と「友だち」の割合が高い。

※「相談できる人はいない」を選んだ割合は、前回（小学生 10.2%、中学生 10.4%、高校生 16.7%）に比べて各校種とも低くなっている。



※「その他」の意見（一部抜粋）

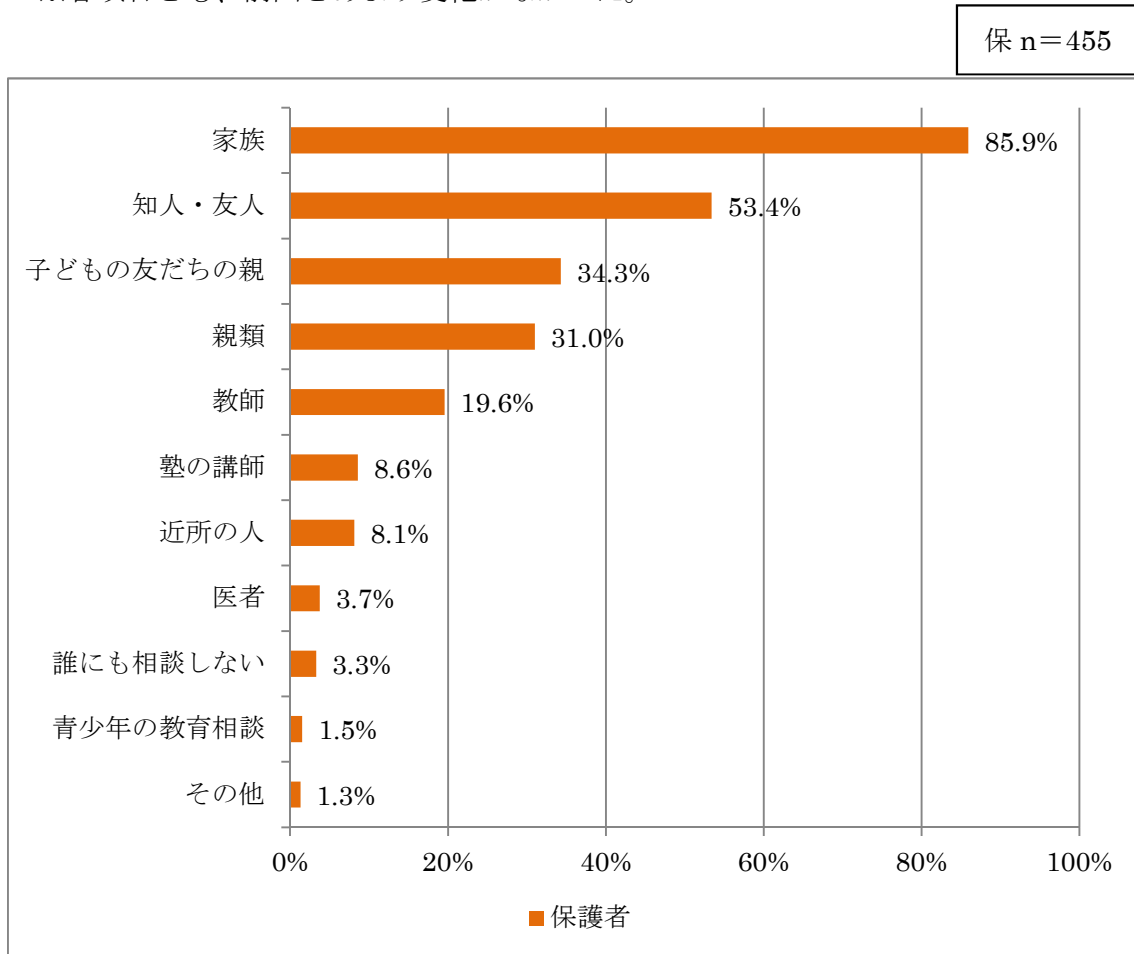
- ・人には相談しない。
- ・サッカーのコーチ、ピアノの先生
- ・インターネット
- ・恋人
- ・神様にお祈りする。
- ・独り言をいう。

②保護者

（保護者）問 13 お子様の問題や教育について、誰と相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

※「家族」85.9%（前回82.8%）が非常に高く、「教師」については、19.6%（前回24.6%）と前回より少し低くなっている。

※各項目とも、前回とあまり変化がなかった。



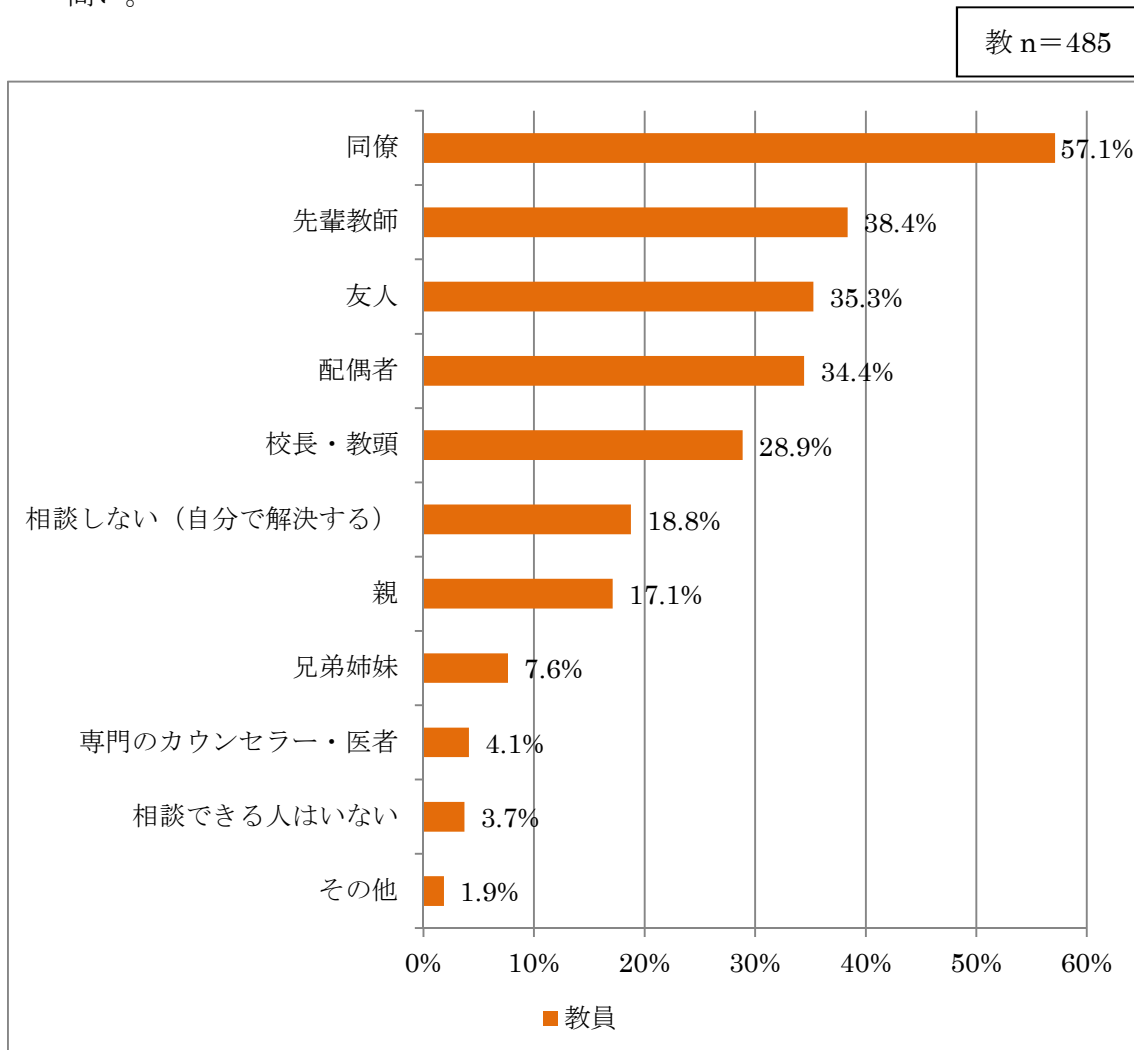
※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・会社の同僚
- ・元夫
- ・ソーシャルワーカー
- ・子ども

③教員

（教員）問 20 悩みや心配事があった場合、誰に相談していますか。あるいは、誰に相談しようと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

※「同僚」を選んだ割合が 57.1%（前回 63.2%）、また、「先輩教師」を選んだ割合が 38.4%（前回 41.1%）となっており、職場の中で相談する割合が前回と同様に高い。



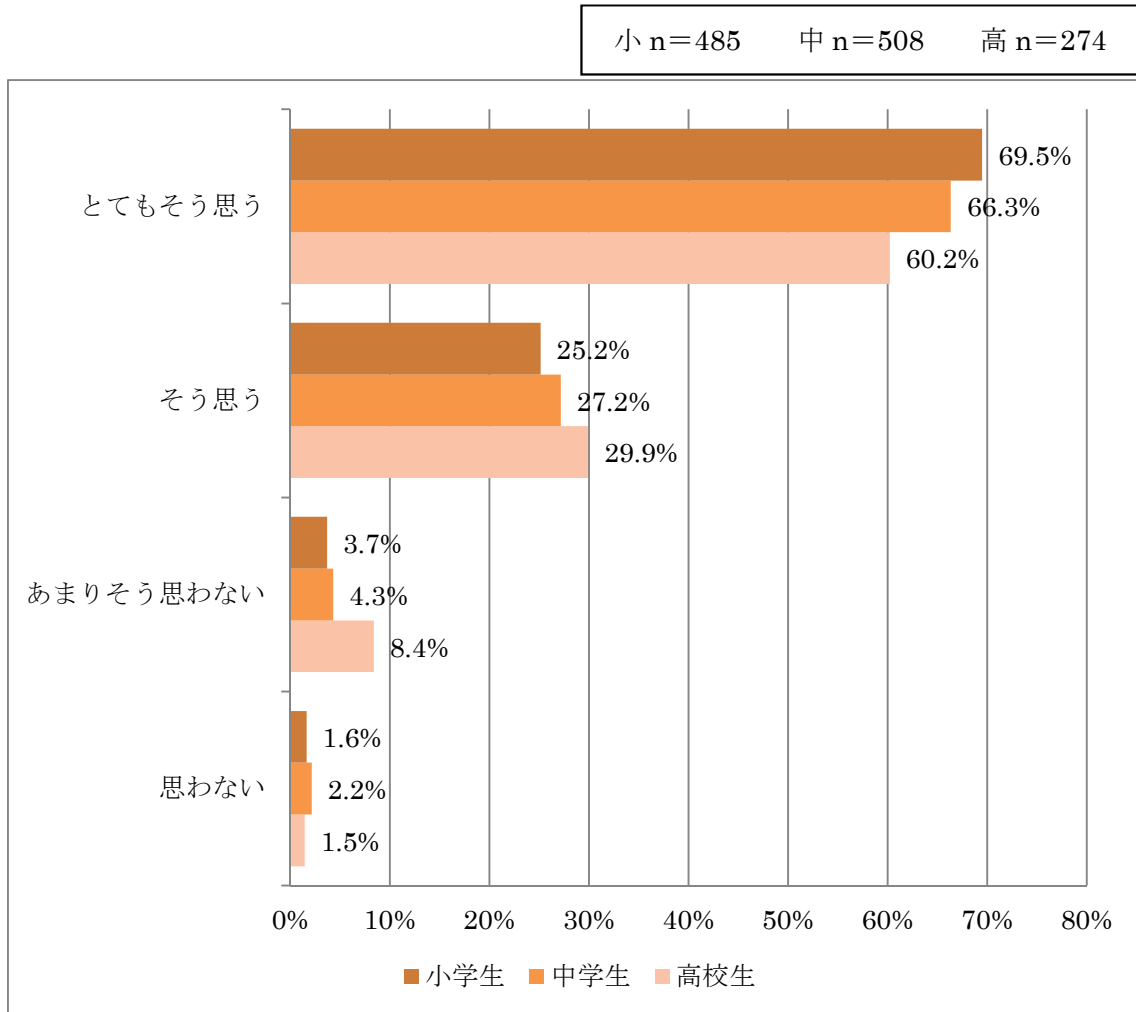
※「その他」の意見（一部抜粋）

- ・ 悩みによる。
- ・ 恋人
- ・ 自分の子ども
- ・ 教育委員会
- ・ スクールカウンセラー

（5）いじめはしてはいけないことか

（児童生徒）問 10 いじめはどんな理由があっても、してはいけないことだと思いますか。（一つに○）

※小学生、中学生、高校生ともに「とてもそう思う」「そう思う」が9割以上となった。



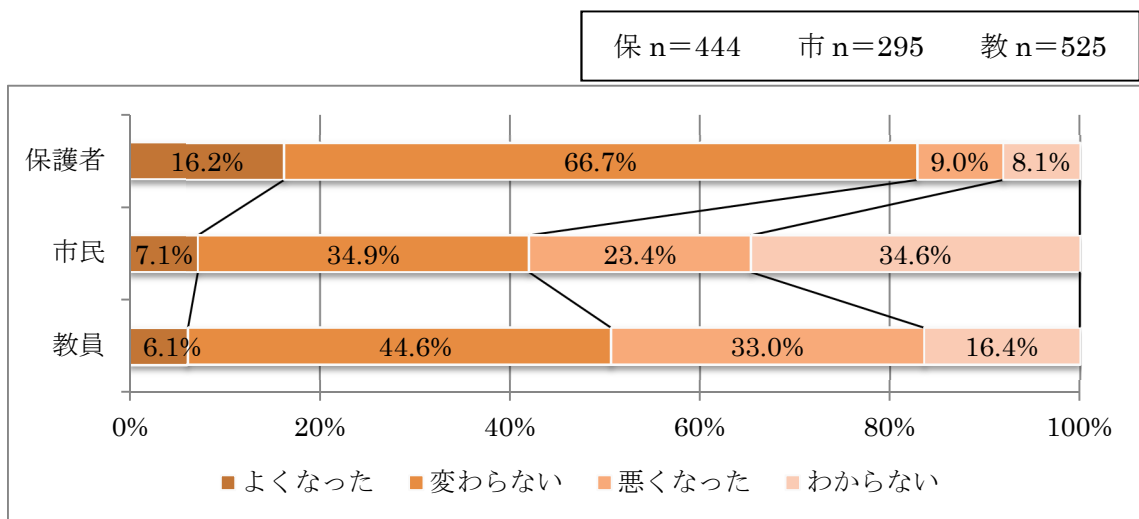
7 全体的なこと

(1) 子どもを取り巻く環境(昔の環境との比較)

(保護者) 問 14 (市民) 問 7 (教員) 問 24 この数年間で、次のことはどのように変わってきたと思われますか。(①～⑧のそれぞれ一つに○)

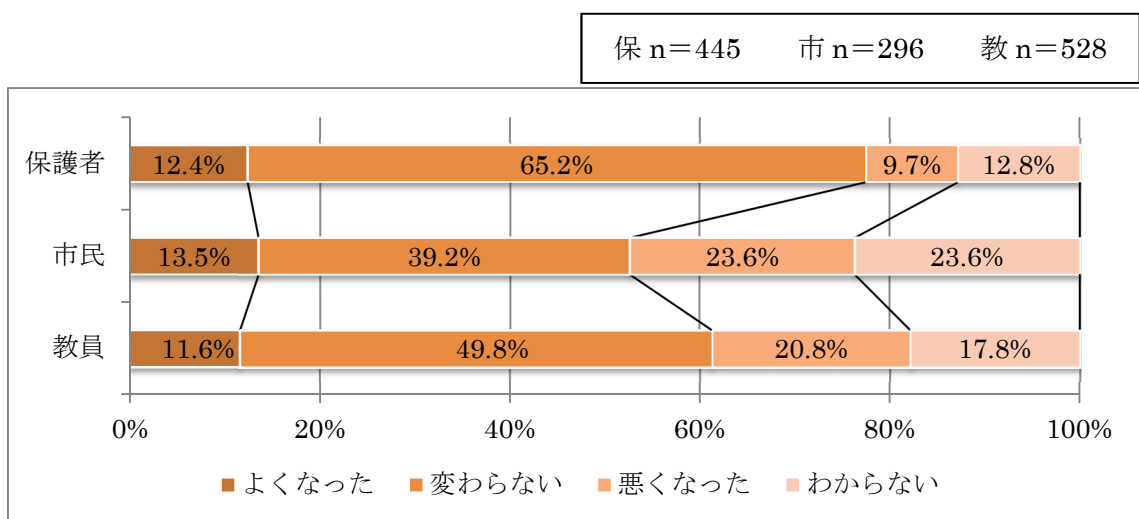
①保護者の子どもへの関わり

※全体的に「変わらない」を選んだ割合が高くなっている。また、市民と教員は「よくなった」より「悪くなった」の割合が高い。



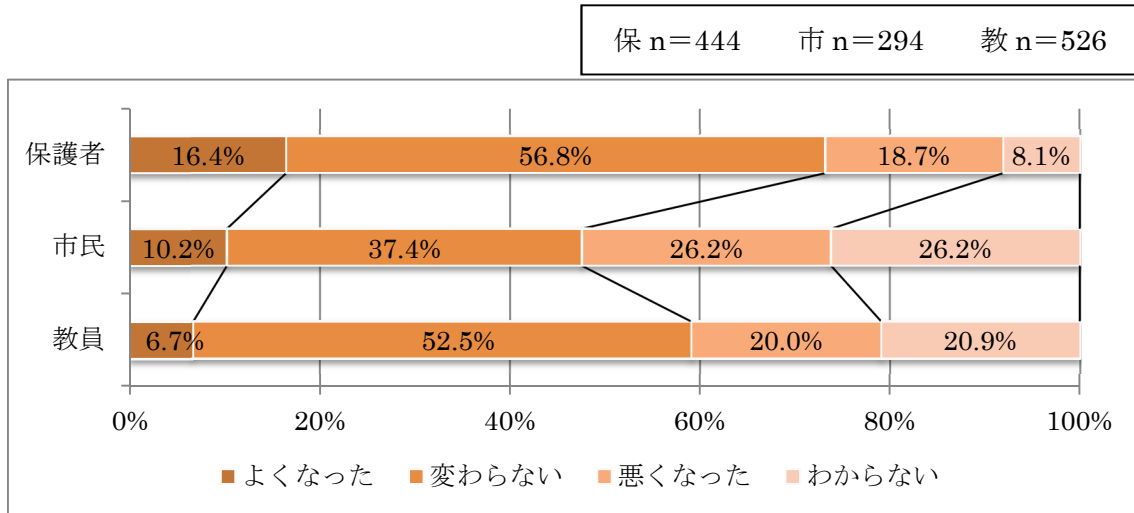
②地域の大人たちの子どもへの関わり

※全体的に「変わらない」を選んだ割合が高くなっている。また、市民と教員は「よくなった」より「悪くなった」の割合が高い。



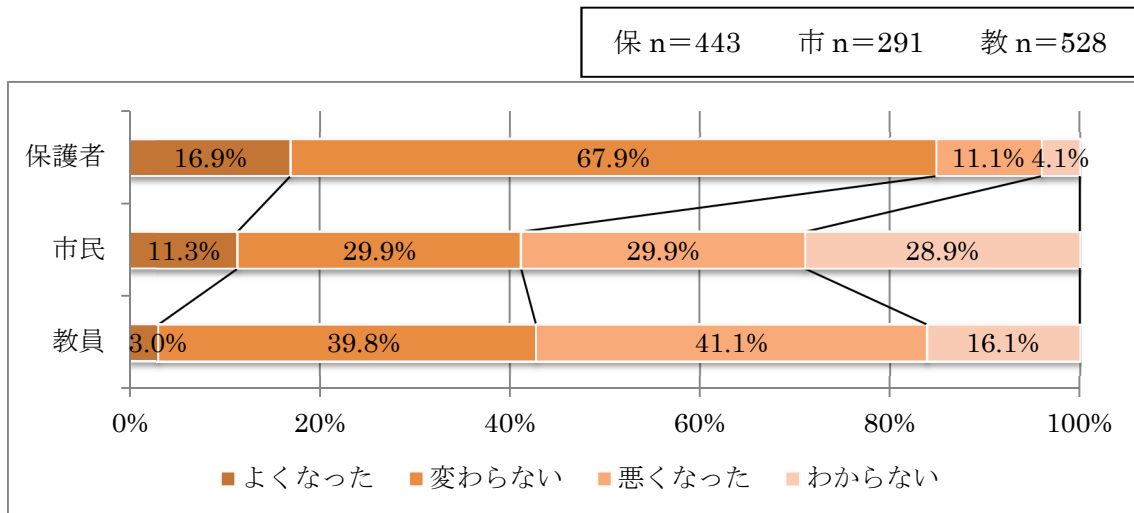
③子どもの地域の行事への参加

※全体的に「よくなった」より「悪くなった」の割合が高くなっている。



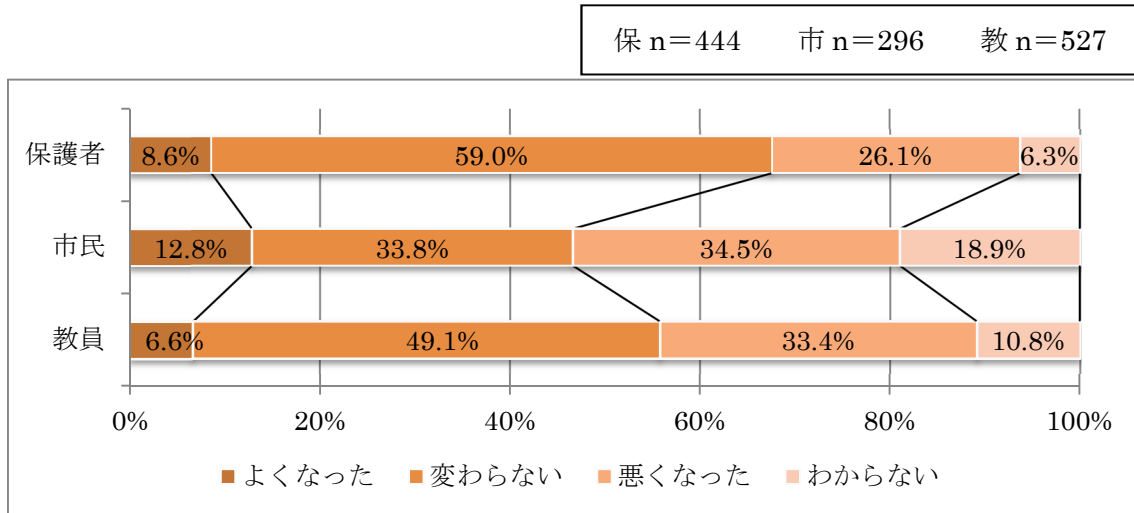
④子どもの食生活

※市民と教員は「よくなった」より「悪くなった」の割合が高くなっている。



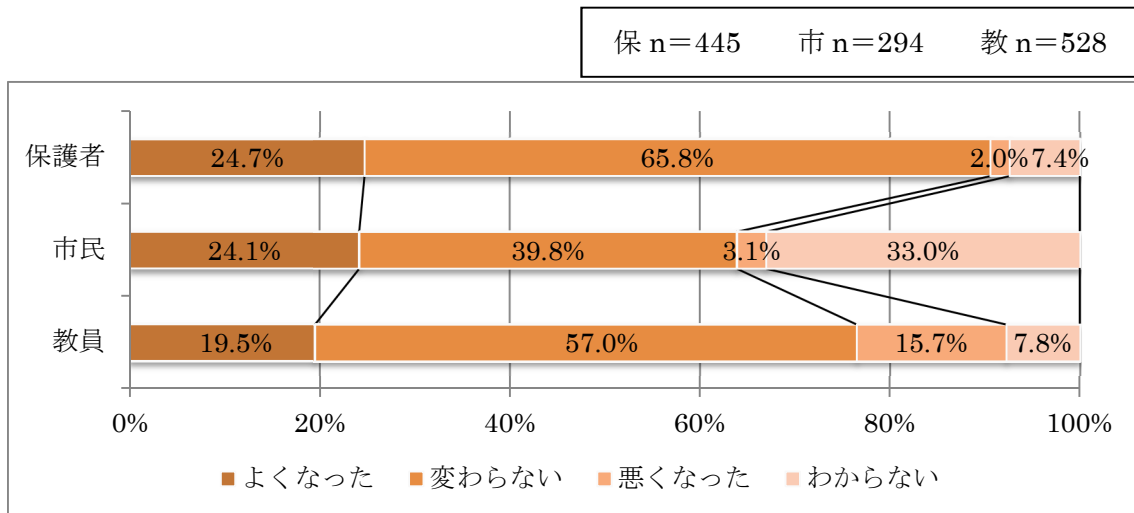
⑤子どもの安全性（災害や交通事故、犯罪など）

※全体的に「よくなった」より「悪くなった」の割合が高くなっている。



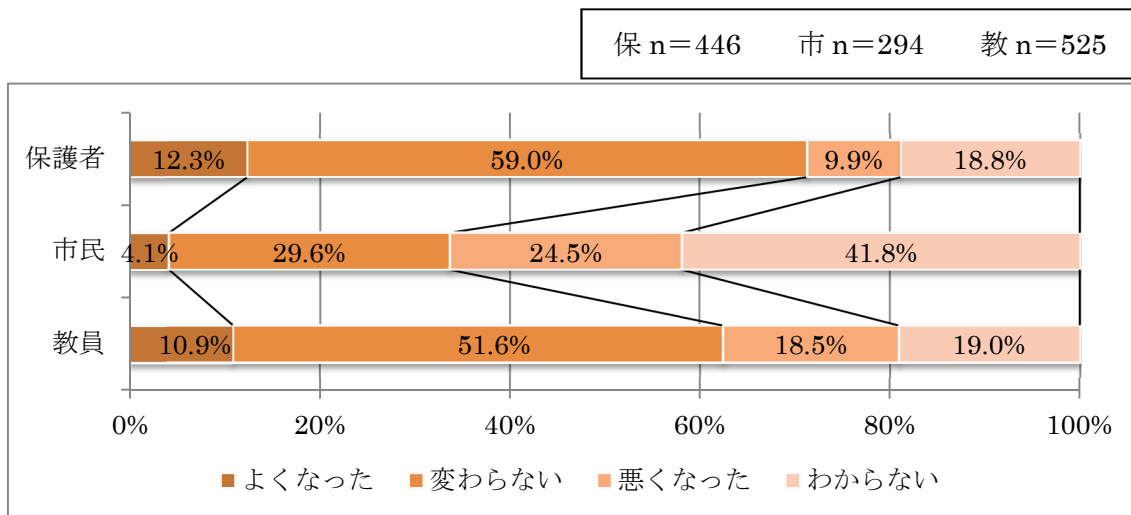
⑥学校の施設・設備

※全体的に「悪くなった」より「よくなった」の割合が高くなっている。



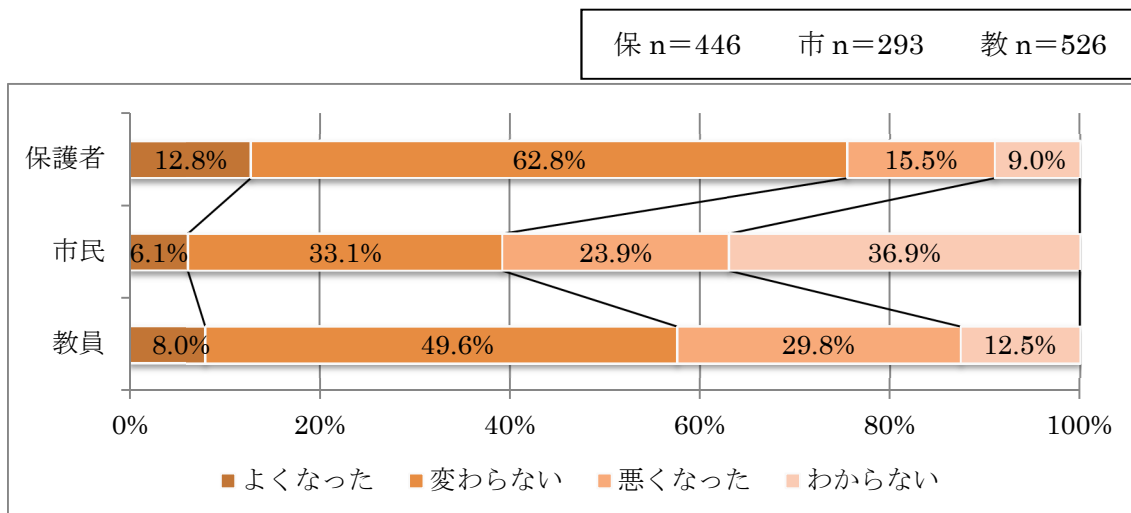
⑦教師の力量

※市民と教員は「よくなった」より「悪くなった」の割合が高くなっている。



⑧子どもの学力

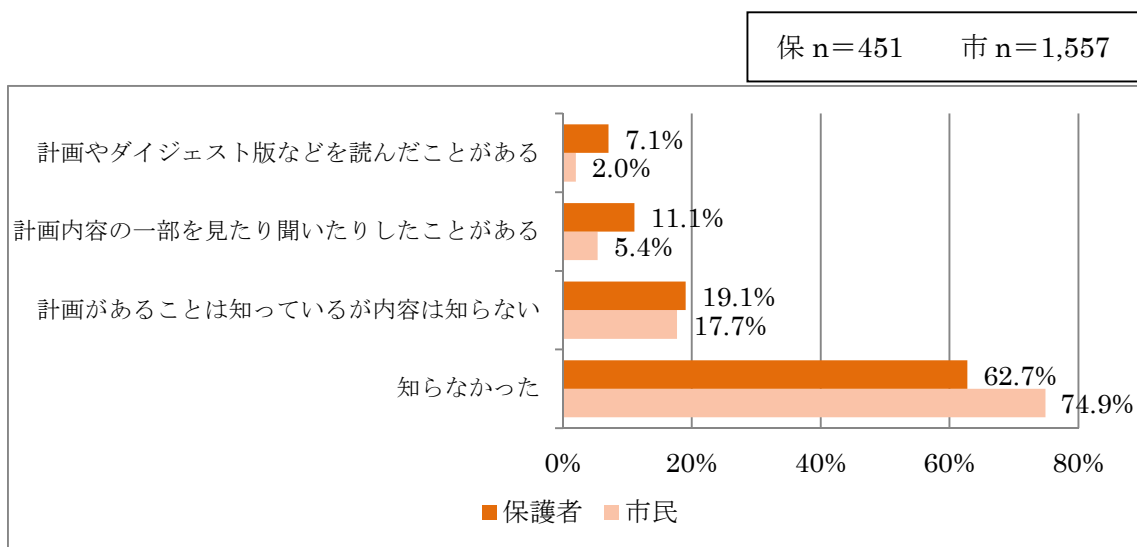
※全体的に「よくなった」より「悪くなった」の割合が高くなっている



（２）横須賀市教育振興基本計画（平成 23 年 3 月策定）について

（保護者）問 16 （市民）問 9 横須賀市教育振興基本計画（平成 23 年 3 月策定）を知っていますか。（一つに○）

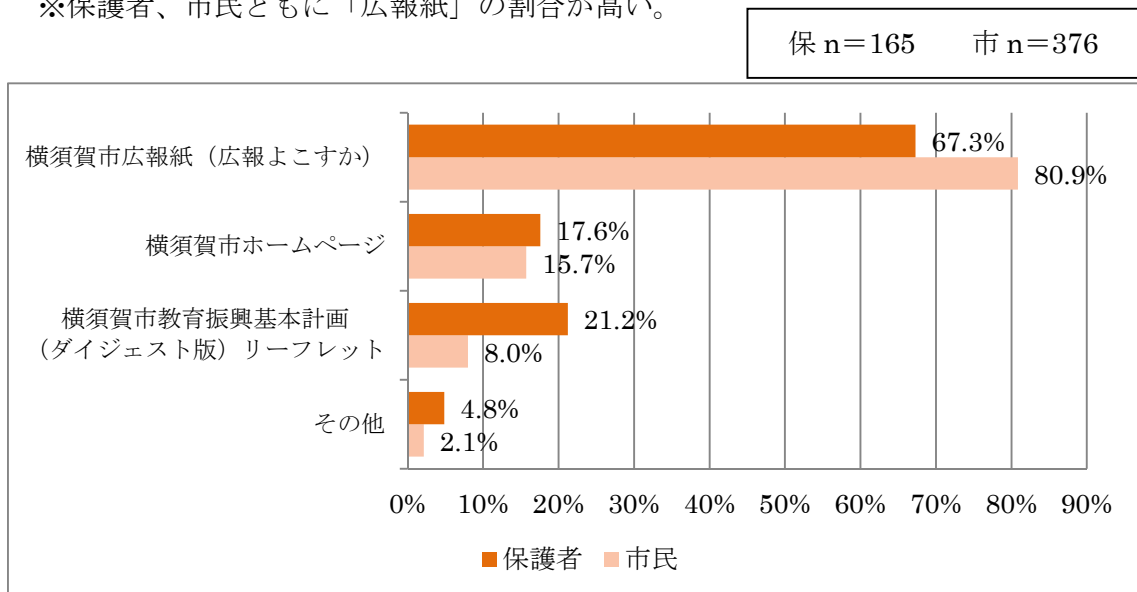
※保護者、市民ともに「知らなかった」の割合が高い。



※市民の有効回答数（n）は、学校教育編、社会教育編、スポーツ編を合わせた数字

（保護者）問 17 （市民）問 10 横須賀市教育振興基本計画を何で知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

※保護者、市民ともに「広報紙」の割合が高い。



※市民の有効回答数（n）は、学校教育編、社会教育編、スポーツ編を合わせた数字

8 自由意見（一部抜粋）

（1）五つの重点課題について

（保護者）（市民）（教員） 現在、「横須賀市教育振興基本計画」の第2期実施計画（平成26年度～平成29年度）では、次の五つを重点課題に位置付けて取り組んでいます。この五つの重点課題について、ご意見がありましたら、【自由意見欄】にお書きください。

重点課題1 学校・家庭・地域の連携推進

食事、睡眠、あいさつなどの基本的な生活習慣、家庭学習や読書、運動の習慣、社会のルールを守るといった規範意識などを子どもに身に付けさせるには、学校・家庭・地域が共通の認識を持って子どもを育むことが重要です。そのために、学校・家庭・地域の連携をさらに推進することを目指して、学社連携・融合や地域スポーツの充実、家庭向けリーフレットの配布など、学校・家庭・地域が、共に子どもの教育に関わる仕組みや場、機会を充実させます。また、家庭や地域の教育力の向上を目指して、学習の機会および各種情報を提供します。

（保護者）

- *学校、家庭は連携が取れていると思いますが、地域とのつながりとなると難しいのかなと思います。もちろん交通パトロールのボランティアの方や講師として来校される方等には、頭の下がる思いで感謝しきりですが、「地域の中で育っている」意識は芽生えにくいのかなと感じます。（30歳代）
- *社会のルールを守ることについて、学校側も家庭に対して、家庭訪問や電話などで、もっとコミュニケーションを取り合い、規範意識を高めていく必要がある。（30歳代）
- *保護者や地域の意見を気にして先生の考えを出せない学校にはしないで下さい。少数の保護者の意見（不満）を気にして、今までの学校らしさをなくさないで下さい。（40歳代）
- *生活習慣は、学校ではなく家庭で培うものではないでしょうか。集団生活に於いての協調性を学ぶことが、現代の子どもには大切な事ではないでしょうか。宜しくお願いします。（40歳代）
- *協力できることがあればやっていきたいと思います。先生だけでなく、ボランティアなど外部（地域）の人の協力を借りて学習指導するシステムをとり入れてもよいと思う。（40歳代）

（市民）

- *学校と家庭、地域と連携していくこと、とても大切だと思いました。まずは教師と保護者とがしっかりと子どもの教育について「家庭で行うこと」と「学校で行うこと」の意思疎通が必要であると感じます。(20 歳代)
- *子どもの教育は家庭と学校が協力して成り立つものと考えている。どちらかにまかせるのではなく、子ども一人一人の個性を大事にして見守っていきたいと考えている。(50 歳代)
- *重点課題 1 には、貧困家庭への支援も盛り込んで欲しい。(50 歳代)
- *我々の子ども時代と違い、共働きの家庭が増えた昨今、家庭で出来ていた子どもの内面の教育、即ち情緒や情操の教育は、学校や地域が肩代りしなければならない時代になってきたと感じています。(50 歳代)
- *小学校高学年と中学生の子どもたちには、もっと多く社会との関りを持ってほしい。たとえば、老人ホームへの慰問、そしてボランティアなどを授業の一環として取り入れてもらいたい。勉強だけができる子どもより、人間性に優れた人になってほしい。(60 歳代)
- *学校帰りの児童を見ていると「社会的ルール」が守られているとは思えません。もっと家庭、学校での連携が必要と常に感じています。(60 歳代)
- *学校に全てを委ねるのではなく、各家庭での教育も大切だと思います。あまりにも躰がなっていない親が多いので、親の教育などができるといい。(60 歳代)
- *今は学校・家庭・地域の連携などといっているのですが先生達はずっと大変だと思います。母親たちは教え方にまで口を出して、ノイローゼになった先生もいらっしやると聞きました。これでは子どもたちと向き合う時間が取れないですね。昔は先生と子どもは楽しくできたのに、今は大人が邪魔をしています。(70 歳代)

（教員）

- *市から親に向けて、必要な教育指導と責任について知らせる活動をしてほしい。年々、親のマナーや躰が悪化、謙虚さが欠乏している気がする。(小学校 20 歳代)
- *「地域との連携」は、具体的な姿が見えないことや地域間に格差があることが課題として残ります。横須賀市として、どういう姿をイメージしているのかを具体的に示していくことが必要だと思います。(小学校 50 歳代)
- *専門性のある社会人や経験豊富な地域の方に、体験的プログラムを担ってもらったら良いと思います。(小学校 50 歳代)
- *家庭環境は二極化の傾向にある。学校と家庭が両輪となって機能すれば、子どもの成長はほぼ間違いなく保証されるが、家庭の教育力が期待できないケースも多い。その際は、学校以外の公的機関のサポートが不可欠である。学校、関係機関の連携強化は、早急に進める必要がある。(小学校 50 歳代)

- * 地域・家庭の学校任せの部分が多くなっていると思う。（例：放課後遊びでも何かあれば、まず学校…）（小学校年代不明）
- * 学校における「一日の記録」の良いものや家庭における「我が家のルール」、「我が家の食事」の良いもの、地域における行事などの良いものなどをピックアップして紹介し、情報を広めていくことが大切だと思います。「我が子の勉強術」などを紹介して欲しいと思います。（中学校 20 歳代）
- * 生徒と関わる中で、家庭でのコミュニケーションが少なく、子どもの様子を把握していない保護者が多くなっていると思います。もう少し家庭と連携がとれると良いです。（中学校 20 歳代）
- * 家庭の教育力の低下が心配。当たり前なのが、当たり前でなくなっており、学校が躰をすると、そのギャップでクレームになる。学校教育だけでは改善は難しい。今後さらに厳しくなると予想する。（中学校 30 歳代）
- * 何でも学校という傾向にあるように感じます。学校側が親に向け（講師をお呼びしたりして）講座など開いたりするのも必要になってきていると思います。（中学校 30 歳代）
- * 「地域に開かれた」「地域連携」とは何でしょう。地域の敬老会、運動会、まつり、新年会等々に教員が参加することなののでしょうか？近年、この美しい「連携」という言葉を使い、様々な要求がきます。その割には、例えば教員の服務の問題など、何一つ解決していません。（週休日の地域行事参加等）また、どの地域も少子化の影響を受けていますから、そもそも子どもの数が減る中で、地域行事を学校に依存してきます。対応に苦慮しているのが本心です。そもそも地域と学校は「Win・Win」の関係だと思います。「コミュニティ・スクール制度」なども、それを運営する労力はいかばかりでしょう。よりよい学校づくりが可能になるよう考えていくべきだと思います。（中学校 50 歳代）
- * 学校ではなかなか難しいので、家庭の教育力を高める組織があるとよいと思う。（中学校 50 歳代）

重点課題2 学力・体力の向上

子どもの「学力や体力」に関する課題の解決に向けて、「思考力・判断力・表現力」「学習意欲や持続性」「体力・運動能力」の向上を目指し、各学校の「学力向上プラン」の充実や、子どもの「健康・体力向上」のための対策に取り組みます。また、義務教育9年間においては、学びの系統性・連続性を重視した教育の充実を図ります。

（保護者）

*神奈川県内の都心部と横須賀市の学力の差に非常につかりさせられている。

（30歳代）

*横須賀市の全国学力テストの結果は、いつも下位にあるように思います。何が出来る市と違うのか。ただ授業時間を増やすのではなく、ある県ではノートの取り方を徹底指導した結果、学力向上につながったとある記事を読みました。ドリルをやるのもいいのですが、答えだけ書くのではなく、どういう書き方がいいのかとか、次につながる学びをすることも大切ではないでしょうか。横須賀出身で、ここで学んでよかったと思えるものを学べると子どもももっと伸びるのではないかと思います。小中学校合わせてつなげて出来ることが良いと思います。（40歳代）

*学力の低さが気になります。学校の授業も遅れている気がします。くり返し覚えるような感じがないので、まったく子どもが覚えませんし必死にやりません。また学校の先生が怒らないのでやりません。（40歳代）

*小中学校で週2～3時間の体育の授業で運動の習慣がつくといえるのか。中学校では体育系の部活に入れば習慣がつくと思うが、そうでなければ帰宅後公園で遊ぶか、体を動かす習い事をしなくてはならないのでは？（40歳代）

*「学力、体力の向上」では、小学校低学年を特に注目して欲しい。できなくても大丈夫、わからなくても恥ずかしくない環境に慣れすぎて、子どもたちの意欲が別の方向に向いてしまっていると思う。できるまでやる、わかるまでやる、という意識を子どもたちに持たせて欲しい。（40歳代）

（市民）

*学びの系統性・連続性を重視した教育とは、具体的にどんなことが出来るのか。現場サイドで何をしているのか。小学校の先生が中学校で学ぶ内容を理解しているのか。中学校の先生が高校で学ぶ内容を理解しているのか。甚だ疑問です。すべての課題が大きな枠組みなので、この内容を一つ一つどの様に落とし込んでいくかが大切だと思われまます。より良い教育を考えることは終わりがありませんので、頑張ってください。（30歳代）

- *学校では社会性を身につけることも大切だと思うが、基礎的な学力や学習習慣を身につけることも力を入れていただきたい。(40 歳代)
- *体力の向上についてですが、私の町には公園が 4 か所あります。すべて禁止事項ばかりです。こんな状態で子どもの体力向上は無理だと思います。(60 歳代)
- *学力・体力向上のうち体力の面で一言。校庭の一角には鉄棒・的当など設備がありますが、これらを使用しているのを見たことがありません。逆上がりの出来ない子が多いのに関係ありそうです。体育の時間にサッカー・野球・バスケなどと共に教えてやって下さい。スポーツの出来る子は大人になっても子どもに教えられるし、親子関係も密になります。体力あつての勉強です。(70 歳代)

(教員)

- *横須賀市は、他の市町村や都道府県に比べ、個人で購入する教材が少ない。保護者の負担を減らす観点としてはわかるが、小学 1・2 年生でいえば算数セット、小学 3 年生で国語辞典を買い、常に手元にある状態にしておけば、これらに触れる機会が増え自然と力がつくのではと考える。(小学校 30 歳代)
- *重点課題 2 を達成するには、教師に時間がなすぎます。学力向上のための毎日の授業が一番大切なのに、そこに時間を沢山注げない。いくら向上プランを立てても、教師の仕事量が変わらない限り難しい。(小学校 30 歳代)
- *今年度は特に 3 年生の少人数クラス導入の施策により、より一層深く取組が進んでいると感じる。この動きは、来年度以降もぜひ進めていただき、更に拡充を強く望みます。(小学校 40 歳代)
- *学力を保障していくことは、大切だと思います。しかし、学力・学習状況調査の結果について、平均等の代表値をもとにした他地区との比較にとらわれすぎないようにしたいと思います。地域性や家庭環境、通塾率など、様々な要素も学力と相関があると思うからです。「一人の子が以前よりもここが伸びた」という成長をたくさんつくりたいことができるよう日々の実践に取り組みたいと思います。(小学校 40 歳代)
- *授業時間になぜそんなにこだわるのか、増加させることが学力向上にすぐ結びつくとは感じない。そのために教育の大切な一面が失われていると思う。今の教師や生徒にゆとりと大らかさがないのは、教育課程が詰め込み過ぎているからだと感じる。点数をとらせることより、知恵をつけることに力を入れるようにしたらどうだろうか。(中学校 50 歳代)
- *高校は入試を通過して入学してきますが、それでも最近では支援の必要な生徒が増えていると感じます。個々への適切な支援により、学校生活に意欲を持ち、学習・学力の向上へもつながると思います。高校における支援体制づくりは小中学校とは異なる面もあるので、今後の課題であると考えます。(高校 40 歳代)

重点課題3 いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決

子どもの心の一面を映し出しているともいえる「いじめや暴力行為の発生率」「不登校の出現率」が高いという状況を改善し、未然防止と早期解決を目指して、相談体制の整備を進めるほか、総合的な支援策や関係機関とのさらなる連携を進めます。また、小学校教育と中学校教育の滑らかな接続を図ることにより、子どもの過度な心の負担を減らします。

（保護者）

- * 1か月に1回児童生徒にアンケートをさせるのが良いと思います。(20歳代)
- * いじめや暴力に対しては、保護者同士ではなく、学校全体や管理職の方々も交えて話をするべき。担任だけに全てを負担させてはならない。中学校になると担任や教科担任は、責任感を子ども自身に押し付けすぎている。部活動も子ども達だけでやらせていていじめが多く発生している。特に中学校に入学したての不安感を感じている子どもに対し、教師はもっと親身になるべきです。(30歳代)
- * 小学校から中学校へ上がったとき、ギャップが大きく不登校になった友達がいるので小学生のうちから中学校へ上がる心得のようなものがあつたらいい。(40歳代)
- * 親の愛情表現がいかに子どもの情緒安定に有効かを乳幼児の頃から親に知らせるよう、市と連携して取り組んで欲しいです。愛情不足の子どもが加害者になっている現状を理解して欲しいです。(40歳代)
- * 昔には無かったケータイやスマホなども原因の一つであり、学校だけでは対処しきれない部分だと思います。相談体制の強化も有効と思いますが、子ども達に啓発の活動をして行くのも良いと考えます。実際の事件、いじめた側、いじめられた側の行く末など、自分だったら・・・と考えられるような教育を定期的にしていけたら良いと思います。(40歳代)

（市民）

- * 小学校など、いじめの認識をしていない可能性もあるから、何をしたらいじめになるとか、具体的に教えるべき。(20歳代)
- * 息子が5年生の時、不登校になりました。本人はいじめではないと言っていますが、周囲の話ではいじめがあつたと思います。6年生になった時、転任してきた先生が担任になりました。5年生の時の担任も6年生の他のクラスにいるにもかかわらず、5年生の時の不登校についての引き継ぎがおこなわれていませんでした。そういう細かい事がいじめの防止になると思います。これからの子ども達のためにも、引き継ぎ、共有の大切さを学校現場に指導して行って下さい。(40歳代)

- *悪質ないじめが増えているし、見えないいじめも多い。長い人生の中の何年間、無理して学校に来なくても良いという指導をしても良いのではないか。(60 歳代)
- *いじめについて、学校教育が責められますが、家庭での子育てに問題があると思っています。もっと我が子を大切に思う気持ちで育ててほしい。(60 歳代)
- *報道によると教育委員会や学校報告でいじめがないとか、報告されてないなど無責任な回答がよく聞かされる。このようなことでは未然防止は遠いと思うので真実ありのままに報告してこそ未然防止・早期解決につながると思われる。(70 歳代)

(教員)

- *不登校などについて、小中一貫（小中連携）では、学力や学習面ばかりが重視されているように感じるが、教師の言葉づかいや、児童生徒への接し方、関わり、児童生徒の情報共有など、可能な範囲で授業以外の面での歩み寄りが必要だと思います。小学校は甘い、中学校は厳しさが必要という考えだけでは、生活面も学習面も連携できないと思います。考え方の根本での連携が大切だと思います。(小学校 30 歳代)
- *いじめの未然防止はとても大切だと思います。いじめに繋がるような問題場面を見つけた時、加害者・被害者・傍観者にどう指導していくのかとても難しいと感じています。どんな場面でも通用する方法はないからこそ、ベテランの先生方（退職された方も含め）をはじめ色々な先生方の経験（うまくいったこともうまくいかなかったことも含め）をお聞きする機会があるといいなと思います。(小学校 40 歳代)
- *不登校については、家庭の問題や親子関係が影響していることも多く、学校が苦慮している問題の1つです。教育からのアプローチも大切ですが、家庭支援策を推進していく必要があると思います。(小学校 50 歳代)
- *家庭、保護者の親としての自覚、責任のなさが子どもに大きく影響している。例えば携帯電話、都合良く「帰り道が不安」と所有させているが、ネットいじめ等が発生すると学校への指導を強要して来る。社会のしくみとして、保護者の責任に関するルールが必要である。(中学校 50 歳代)
- *定時制高校では、中学校までに不登校を経験している生徒が3分の1近く居り、入学を期にリスタートを切る生徒も多いのですが、それでも不登校が続いている生徒もいます。自分自身、中学校で20年の経験ののち、今の定時制高校での勤務なので、中学校での苦労はとても身に染みてわかっています。不登校生徒でも、再スタートが切れる（やり直しができる）よう、中学、高校も連携できれば、より一層良いと感じています。(高校 40 歳代)
- *いじめはあるかないかではなく、どの学校にもあるという前提で取り組んでいきたい。学力や体力が周りの子よりある子を褒める、目指す、認めるという大人が持っている自然な価値観を見直す事が、いじめを無くす第一歩だと思う。
(養護学校 50 歳代)

重点課題4 学校の教育力向

教員が子どもと向き合う時間が十分に確保できていないことや、経験年数の少ない教員の割合が増えていることによるさまざまな課題に対応し、学校の教育力の向上を目指して、教員が子どもと向き合う環境づくりや人材育成などの支援策を進めます。

（保護者）

- *経験年数の少ない教員が担任の場合、補助の教員を1人つけてはいかがと思う。あまりに頼りなく生徒から担任として見られていない様子もあるようです。(40歳代)
- *経験年数とかは関係なく、先生方は自信を持って子ども達と接して欲しいです。学校では先生が見本であり、親の役目なのでから優しいだけではなく厳しさも伝えて下さい。遠慮は必要ないと思います。(40歳代)
- *家から学校が見えます。平日も休日も夜遅く11時頃まで職員室の電気がついています。朝から忙しく、やる事が多く大変だと思います。先生も長く続けていけるよう、子どもと共に体と心のケアをしてもらいたいです。(40歳代)
- *学校の教育力向上以前に、教師に教師たる資質が無いと思われる方が担任を持っている。教育力をつける前に、人としての問題を問いたい方が何人もいます。子どもという素晴らしい宝物を愛せないなら、子どもに愛していることを伝えることすら出来ない教師は教育力もないと思う。子どもの心を傷つけトラウマになるような事をして、それを親たちが何度も学校に訴えても他学年の担任になるだけだ。どうやったらそういう先生に辞めていただけるのかチェックしてもらおう制度はないのか。毎年、どうかその教師に当たりませんようにと親子で祈っている現状を知ってもらいたい！！(40歳代)
- *先生方が努力されて授業をしていただいていることに感謝しているのですが、先生の授業準備外の事務作業や部活指導などの手間や時間が多く割かれているように思われます。もちろん教育力向上も必要ですが、まず先生方の負担軽減をどうしたらよいかを考えてあげた方がよいように思います。先生頑張ればかりでは、疲弊されてしまい教育力向上の労力もなくなるのではないのでしょうか？サポートティーチャー（子どもの授業サポート）ならぬティーチャーサポートを手厚くしてあげればよいのではと思います。(40歳代)
- *先生方も授業の他にも多忙であり、なかなか時間がないのも現状であると思います。若い先生方が多いのも悪いことではありません。ただ、やはり分りやすい授業をするということが一番の先生の務めであるはずで。質問しても答えてくれない、教えないという先生がいるのも現実です。分からないゆえに勉強が嫌いになるのもよくあることです。(40歳代)

- *『ゆとり世代』と言われている時代の教育を受けた人たちが先生になり、担任又は担当科目の先生として、子どもたちを教えてくれています。私から見たら先生の方が、子どもたちより子どもだなと思う言動を感じる場合があります。全員がそうとは言いませんが、『先生』らしさのない方に当たることが多いような気がします。勉強会などした所で、身につくことではない一般知識に欠けている方が小学校から高校まで一人二人ではなかったことを残念に思う。(40歳代)

(市民)

- *教員の知識不足や、指導力不足により、授業の質が低下したように見受けられる。さらに保護者の前で児童の名前を呼び捨てにするなど、徳に欠ける教員が多く居る。各教員が更なる研鑽を積むことはもちろん、人間として優れた人物を採用することを求める。(20歳代)
- *教員の部活顧問をなくしてください。便宜上必要であるならば、コーチ（直接指導する人）と子どもの調整役・管理役として下さい。先生の休日を返上させてまで行っているのは、先生方が授業を行う力がそがれてしまう。これからの時代に全くそぐわない。(30歳代)
- *先生たちの経験不足は深刻で、それは保護者の責任でもあると思います。今は、何でも親が出て行って、先生に文句を言うので、先生もやりづらい立場であり、それによってやりたい事もできない、言いたい事も言えない、という負のループになっていると思います。そして、それは全部子どもたちにしわ寄せがきているんです。学校の理解の出来ない決まり事等は、結局は保護者のクレームが原因であると思います。うるさい親をまとめる説得力のある先生がいない事も大きな原因だと思います。全て大人のせい。(30歳代)
- *子どもたちの学力向上は全て教師の授業力にかかわっていると感じる。教師の資質の向上が、最も現在重視されるべき。服装言動等、信頼される、尊敬される教師の育成を希望する。サポートティーチャー等人員を増やせば良いとは思わない。社会一般から見れば、教師の仕事ぶりは甘い！(50歳代)
- *先生には失礼ですが、先生に当たり・ハズレがあると思います。先生によって同じ子が明るくなったり思わぬ行動に走ったりします。孫をみていて学校が楽しくなった学年と嫌で嫌で仕方ないと言った学年、でもこれは先生との相性なのでしょうか、先生の方針と合わなかったからでしょうか。苦手な教科(嫌いな教科)が誰にでもあると思いますが、どう克服させるか。(そのような余裕もないのでしょうか)学校はせめて楽しい場所であって欲しいと切に願います。(60歳代)
- *経験年数の少ない皆さんが、教材研究を十分出来る時間を取れるようにして欲しい。興味関心の持てる授業、楽しい授業をしていけば、子どもたちは先生についていける。信頼感がもてれば、学級経営は破綻しないと思います。(60歳代)

- *私たちの時代は、先生に対して、尊敬と価値観を感じて学校へ行き、学んでいた。悪いことをすれば拳骨されたり廊下に立たされたりした時代です。今は親も先生以上に知識や学歴を持った方が多いので先生は大変だと思います。心から愛情を持って授業していただければ、子どもはいい先生だと思う時がきます。(60 歳代)
- *教員のメンタル面をサポート出来るシステムや人材が必要だと思います。(60 歳代)
- *教員が色々な事をしすぎだと思う。しっかり学習面を見るだけで良い。(60 歳代)

(教員)

- *若い教員が多く、どのように授業を進めていったらよいか分からない人が多い中、先導をきっていく年齢がない場合、職場の雰囲気は上昇方向には向きません。「身近な教員による教員の指導」の研修と諸先輩方の意識付けが必要に思います。(小学校 20 歳代)
- *何故、教員が子どもと向き合う時間が足りないか、しっかりと分析し、対応してほしい。教員の業務の精選をおこない、何が負担軽減につながるか考えてほしい。中途半端な、人員の増加（非正規、免許の無い職員）は、逆に打ち合わせ等に時間がかかります。授業を出来、分掌もできる人を増やしてほしい。(小学校 20 歳代)
- *教員の授業力が落ちてきているなあと感じています。多忙化による教材研究のための時間がとれないことや研究会も先細り、人数が少ない状況です。より良い授業を、より楽しい授業を、より力がつく授業をというよりも、何とか1日をのりきるための授業という感じになっている気がしてなりません。専門的な知識をもった個性ある先生も少なくなってきたように思います。学校の中に、図工はこの方に聞こう、国語はこの方に聞こうというような先生がいません。全教科教えるのが小学校教員ですが、ある程度専門的に語れる先生が1教科一人は学校にいてほしいです。そのような人事体制を望みます。(小学校 30 歳代)
- *経験年数が少ない職員と話をする時間さえ、勤務時間内にはありません。勤務時間内にきちんと仕事を終えることができる仕事量があたり前であると思います。午後5時以降にやっと学年会や会議が始まるのが普通になっていて、異常だと感じます。(小学校 30 歳代)
- *教師が本来の職務である教材研究や採点などに費やす時間がとれない現状を変えない限り、学校の教育力アップは難しい。教育委員会からの調査や報告などが大変多く、子どものノートを見る時間も満足にない状態は、何だかおかしいです。教員増や雑務の軽減を望みます。(小学校 60 歳代)
- *学校の教育力向上について、久しく言われているにもかかわらず、教員の多忙化は一向に解消されない。仕事が勤務時間内で消化できずに夜遅くまで残って自分の時間を確保できない状況である。教職員に心の余裕がないまま子どもたちと向き合っているのが現状である。勤務時間内に教材研究も含めて仕事ができるように、何が

障害になっているかを見極める必要がある。また授業時間を増やせば学力が向上するといった短絡的な考えのもと、いたずらに長期休業日を減らしたりしているが、これも見直す必要がある。内容の精選といった視点で考えてほしい。二期制の見直しも検討すべき課題といえる。学期の中に長期休業があること自体、子どもたちのモチベーション維持に不向きである。課題を整理し、現場の意見を尊重し、よりよい教育環境を整えてほしい。（小学校 60 歳代）

*一つ新しいことを増やしたら、一つ古い必要でなくなったものをなくすべき。仕事が増えていく一方である。（中学校 20 歳代）

*学校経営も部活動も授業も、教師の意識をどう高めていくかが大切であると思います。研修の中で、理想や目標・なりたい姿がみつけれられるような取組があるといいと思います。そうすることで、様々な課題が解決できると考えています。（中学校 30 歳代）

*経験の少ない先生方が意欲的に、かつのびのびと教育活動をおこなうことができる環境づくりを推進して頂きたいです。（中学校 40 歳代）

*「教員が子どもと向き合う時間を十分確保する」とありますが、具体的に何をすることが示されていません。まず、教員の心に余裕がなければ、子どもと向き合うことも大変になります。今現在、私の1か月の残業時間は、80時間を超え、その後、家でも仕事が続きます。過労死のおそれがある時間は、優に超えています。休日は起き上がることすらつらいですが、土曜日には、PTAや出張等も入ります。教員の働く時間について、調査したことはありますか？ブラックだなどと笑ってはられません。横浜市では、夏季休業中に、学校閉庁日が7～8日あります。（家庭に配られる年間予定にきちんと明記されています）教師の自宅の電話や携帯は、子どもには教えていません。プライバシーが確保されています。家庭向けに教育委員会とPTAから、教員が働きすぎのため、理解を求める文書が届きました。普段の日にも定時退勤の日が設けられています。給食会計は市が直接保護者から徴収しています。1年間で使う教材は、保護者が直接業者に支払う形で、業者から教材をもらいます。横須賀市では、教員が授業に専念できるよう、どのような取組をしているのか具体的なものがないまま、立派な文章だけあっても仕方ありません。

（中学校 50 歳代）

*経験年数の少ない教員の割合が増えることは課題でもあるが、チャンスでもある。大きく変わっていく社会に対応できる次世代を育成する学校に変わることができるはず。変化はチャンス！（高校 30 歳代）

*経験の少ない教員に対して、生徒とのコミュニケーション能力、学級経営力を身に付ける支援がもっと必要だと思います。（高校 40 歳代）

重点課題5 社会教育施設による学習支援の推進

子どもの感性を磨き、創造性を培い、個性を伸ばせるような展示や体験的教育プログラムを社会教育施設の多様性、専門性を生かして提供します。

（保護者）

*具体がなく、理念でしかないように感じる。何ができるのでしょうか？（30歳代）

（市民）

*校外学習は先生の負担でしょうけれど、せっかくある美術館か博物館他をもっと活用したらどうか。1年に1回は行くとか、学芸員もいることだし収蔵してあるものを手間暇かけて燻蒸したり、虫干ししたりしているのですから。子どもの頃から施設に入る事に慣れるとその時本人には興味無くとも大人になって子と共に訪れるチャンスが増えると思う。（70歳代）

（教員）

*社会教育施設の利用について、遠足や社会見学で利用する。例えば、アリーナ、温水プール、横須賀芸術劇場、文化会館、美術館での特別プログラム（学校特別枠を作っていただく）など。小学校ボール大会は、学校外の会場で行うことが可能な場合、例えば、大矢部小、公郷小、森崎小は佐原公園で行うことは可能だと思う。学校の他学年の教育活動を保証するためにも、学校外会場が可能な場合、積極的に活用すべきだと思う。（小学校 40歳代）

*地域の特色を生かして下さい。（中学校 30歳代）

その他の自由意見（重点課題全般、アンケートについてを含む）

（保護者）

- *子どもが自由に学べる事が、とても大切だと思っています。中学校選択の自由をなくさないでもらいたいです。(40歳代)
- *障害や日本語を母国語としない子と親、貧困等支援ニーズのある親子へのサポートに関する内容も入れたほうがよいと思います。(40歳代)
- *市が教育についてどの様に考え、対策をしているのかが伝わって来ないので、もう少しわかりやすくしてほしい。(40歳代)
- *すべての課題において、学校だけでも家庭だけでも解決することは難しいと思う。いろいろな家庭があり、子どもの事を学校にすべて責任を負わせる親もいるかもしれないが、そうせざる得ない事情があるのかもしれない。何にせよ、一番に被害を受けるのは子どもたちだと思う。子どもは親を選べない、現状を受け入れていくしか生きるすべがない。家庭だけ、学校だけと責任の転嫁をするのではなく、行政(教育委員会等)にも働きかけ、協力してすべての課題が少しでも改善する様にしていく努力が必要だと思う。(40歳代)
- *基本計画を作成するのは大事なことはと思いますが、計画書を作って終わりにして頂くのは困ります。先生方にはもっと自信をもって柔軟に子どもたちと接して頂きたいので、そんな環境作りをして欲しいです。(40歳代)

（市民）

- *学校で空きスペース又は教室があれば、横浜のように全校対象で学童のような放課後の居場所を作ってほしいと思います。そこは、ボランティアか、難しければ雇用がうまくてもいいのではと思います。(20歳代)
- *今回のアンケートに市立幼稚園について全く記述が無かったのはなぜでしょうか。残念です。(30歳代)
- *同じ横須賀でも公立の学校の中で差があると思います。小学校でもこの学区でなければ、公立でも良かったのに、と思うこともあり、地域間の格差がなくなれば良いです。(40歳代)
- *5つの重点課題とは違うかもしれないが、障害のある子の特別支援級の交流は学ぶことがとても多いはずで、学校によってそれぞれ違うと思いますが、健常であることがどれだけ恵まれていることか知ることにより、思いやりの心や個性を伸ばす大切さが分かるのではないのでしょうか。交流に力を入れていただきたいのと、保護者にも時々交流の様子等をプリント配布するだけでも、ボランティア的なことが進むと思います。(40歳代)

- * どんな方策を立てるにせよ「個」の尊重は重要。親の資質にも問題が有り、その部分の改善、対応が重要。(50 歳代)
- * すべての重点課題は大事だと思われまので、推進されるとよいと思います。ただ重点として、「特別支援教育」の文言を大きく取り上げると、より良い社会に向けた取り組みに繋がると思われます。(50 歳代)
- * 生活品・食品・その他便利品の向上によって、自然の中から学べる機会を失っている子どもたち。「あれは危険」「これはダメ」「いけない」自分が学ぶ前に大人が口を出す。教え育てる子どもたちに遊ぶ大切さを伝えてほしい。学問は自身が学びたいと思ったときに身につきます。基礎さえわかれば、年を重ねた後でも学べます。学生時代よりも今のほうが数学も理解できています。生き生き子を育ててください。(60 歳代)
- * 重点課題や目標は立派だが、なかなか一般市民には下りて来ない。特に学校へ行っている子どもがいない世帯にはピンとこない。何期まであるか知らないが、より具体的に横須賀市の児童生徒の実態把握と、取り組んだ活動の総括を、その都度出してくれるといい。広報紙で、毎月アピールする位でいいと思います。(60 歳代)
- * 少年期から道徳教育を充実し、人間の尊厳について、教育することが必要だと考える。(60 歳代)

(教員)

- * 「～します」と書いているが、結局のところ学校に任されている部分が多く、負担感につながっているところもある。(小学校 20 歳代)
- * 5つの視点が大切なことだと思いますが、それに対する改善策が形式的なものばかりで、それによってより多忙化し、子どもたちと向き合う時間やゆとりがなくなっていると思います。教育にとって何が大切か考え、いらぬものを無くし、スリム化してから何かをプラスしてほしいです。プラスは自由に子どもに合わせて考えたいのでスリム化するところを提案してほしいです。(小学校 30 歳代)
- * どれも大切なことだろうが、人手が足りません。そして人員増加していただいても、臨時や時間対応で、それにより正規が人員配置、時間配当をしなくてはならないので、逆に現場は負担になっている。現場が求める形(例えば民間のように、コピー、印刷などしてくれる人がほしい)で人員を配当してほしい。(小学校 40 歳代)
- * 重点課題 1～5、すべて大切な取組と感じます。一人一人の子どもを育てるためには、多角面からのアプローチが有効だと思います。(小学校 50 歳代)
- * あれもこれもはできない。小中連携を柱とした学力・生活力の向上が最重要だろう。いずれにしても最重要ポイント以外は削除して、一点突破すべき。打開策は定員を減らし 30 人、25 人学級にしていくことしかない。(中学校 50 歳代)

（２）学校のことについて

（児童生徒）学校のことについて、思っていることがあれば自由に書いてください。

①学校全般

- *学校はすごく楽しい。（小４）
- *学校目標みたいな学校にしたいです。（小５）
- *学校は私達の生活習慣を整えてくれると思います。なぜなら、朝起きて、夜早く寝て、学校の給食を食べて学校が終わったら遊んでというように学校というものがあるからこそとても良い生活リズムが取れていると思います。すごくありがたいです。（小６）
- *別に嫌いな人はいないのにたいして学校が好きではない。（中１）
- *挨拶が良い学校です。（中３）
- *生徒の意見をもっと取り入れて欲しい。（高１）
- *この学校を選んで良かったと思う。（高２）

②教育内容

- *クラスの人数が 36 人以上になったらクラスを分けて欲しい。自分の良い所を伸ばす授業を一週間に 1～2 回作って欲しい。興味がわくそんな授業がいいです。（小４）
- *もっと地元について教えて欲しい（三笠の歴史、横須賀がどのように発展したのか等）。（小５）
- *自由でなおかつ楽しく頭が良くなるようにしてください。（小６）

③教員

- *先生が優しく教えてくれて授業が分かりやすいです。給食の時、食べ終わっていないと優しく励ましてくれます。（小４）
- *先生が相談にのってくれない。先生が物にあたるからやめた方がいい。（小５）
- *もうちょっと先生が怒ってもいいと思う。先生が生徒を無視するのはどうかと思う。（中１）
- *学校の環境はよいと思うが、ある一定の人を気に入りに、差別をする先生がいる。先生という立場の限りは生徒皆に平等であるべきだと思う。（中２）
- *先生たちにもっと生徒の気持ちを考えて欲しいです。（中２）
- *授業がわかりやすい先生と、わかりにくい先生の差がある。（中３）
- *先生は自分達の将来についてふれてくれるので嬉しい。もう少しその時間を増やして欲しい。（中３）
- *授業が分かりにくい先生がいる。自分で問題を作っているながら答えを分かっている

い先生がいる。何度も授業に遅れてくる先生がいる。（高1）

*もっと生徒に目を向けて頂きたいです。（高2）

*色々と個人に問題があり難しいと思うが、女子に対する指導と男子に対する指導が差別的なほど女子に甘い。（高2）

*なんで教師になれたのか全く理解できない人がちらほらいる。正直信頼できる人がいない。（高2）

④授業内容・授業方法

*授業を面白くしてほしい。（小4）

*もっと外国について調べる授業をして欲しい。（小5）

*宿題を少なめにする。宿題を自分のやりたいようにやる。宿題を簡単にする。（小5）

*もっと色々な生物を飼って欲しい。理科の実験を教科書にとらわれずにもっとやって欲しい。（小6）

*タブレットで授業をしたい。（小6）

*個別形式で授業を受けたい。予習復習を授業で行って欲しい。（中1）

*授業を難しい解説にしないでほしい。（中1）

*頭の良い人だけで授業が進んでいき分からないまま理解が出来てないのに進んでいってしまう。授業が分かりにくい。（中2）

*授業中の私語が多いので集中できない。（中2）

*テスト範囲をもう少し早く出して欲しいです。（中2）

*時間がある放課後に分からないことがあった科目のちょっとした学習会が欲しい。（中2）

*授業などで二人組等を作るとき、皆が嫌な気持ちにならないようにして欲しい。（中3）

*知っているのが当たり前で授業を進めないで欲しい。知らないことを教える授業にして欲しい。（中3）

*問題を解く時間をもっと伸ばして欲しい。（中3）

*英語が好きで頑張りたいのに先生の授業が分かりにくい。（高1）

*時間割を決めるのが早すぎる。（高3）

*塾レベルの授業をして欲しい。（高3）

*定時制と全日制を分けて欲しい。分かりやすい授業を受けたい。（高2）

⑤体験学習・職業体験、行事、交流など

- *運動会の時期(10月)が寒いです。(小4)
- *他学年との交流を増やして他学年とも仲良くなれる学校がいい。(小5)
- *学校全体の行事を増やして欲しい。(小5)
- *英語の授業としてではなく、外国の文化を知る機会があった方が良い。(中3)
- *ベースや外国の人たちと交流をしたり、学ぶ場所を増やしたりして欲しい。(高2)

⑥いじめ・不登校対策など

- *いじめの人・いじめられる人をなくしたい。(小4)
- *仲間外れなどを無くした方が良い。(小5)
- *学校は楽しいです。でも学校に来ていない人がいるので、そういう人達が早く学校に来られる環境を作って欲しい。個人的には良い場所です。(中1)
- *学校では、先生が見ていない間に悪口、陰口があり、困っている人がいる。(中1)
- *自分の居場所がない。自分らしくできる環境じゃない。先生が生徒一人一人を理解しようとしていないように見える。先生が生徒の気持ちを分かっていないように見える。(中2)
- *いじめについて積極的に授業で取り上げて欲しい。(高2)

⑦クラス、クラスメイトなど

- *クラス替えをどう決めているのか気になる。(小5)
- *クラスの振り分けで仲のあまりよくない人と一緒になるのでそれをどうにかして欲しいです。(小6)
- *まだまだ小学生気分が抜けきってなくて授業中にふざけたり、私語(授業に関係のない話)が聞こえたりして、時々授業に集中できない時がある。(中1)
- *学校全体で集まったりする時に妨害する人がいるのが少し不安。(中1)
- *不良の人がいてちょっと怖い。(中1)
- *中学と違って男女間の距離が縮まらないのが少し寂しいです。(高1)
- *友人同士の学校内での束縛はとても面倒くさい。(高2)

⑧クラブ活動・部活動

- *クラブ活動の時間をもっと増やして欲しい。(小4)
- *顧問がうるさい。(中1)
- *部活の朝練習はない時があっても良いと思う。(中1)
- *部活が忙しすぎる。(高1)
- *部活の時間が短い。部室が狭い。備品が不足している。(高2)

⑨学期制・授業時間など

- *夏休みが短い割には宿題が多い。土曜日の授業はいらないと思う。(小6)
- *3学期制にしてほしい。(中1)
- *昼寝の時間が欲しい。朝をもっと遅くして欲しい。(高1)
- *自由登校が遅すぎます。(高3)

⑩休み時間・昼食時間

- *学校は放課後でもルールが多い。(小5)
- *休み時間を増やして欲しい。(小5)
- *休み時間の過ごし方を見直して欲しい。(中1)
- *昼食時間をもっと長くして欲しい。(中3)
- *休み時間がうるさくて勉強に集中できない。(中3)

⑪給食など

- *給食をバイキングにして欲しい。(小5)
- *給食がおかわりできるようにして欲しい。お肉のときはご飯にして欲しい。(小5)
- *お弁当より給食の方がいいと思います。(中2)

⑫服装・制服、校則など

- *腕時計や携帯や財布を持ってきても良いようにして欲しい。(小5)
- *学校のルールが細かすぎると思います。(親も言っています。)(中1)
- *体育の時とても寒いので部活動のウィンドブレーカー等を着させてほしい。(中1)
- *校則が厳しい。生活しづらい。髪の毛が少しでもツーブロックみたいになると坊主にさせられる。髪の毛が肩より下だと束ねなければいけない理由が分からない。ネックやマフラーの色が決められているのは意味不明。そこまで学校に決められるのはちょっと違うと思う。(中2)
- *先生たちの中での校則がそれぞれ違っているようなので統一して欲しい。(中2)
- *校則をあいまいで終わらせて欲しくない。先生は校則のたいたいを理解、認識して欲しい。先生も校則を守って欲しい。よくわからない校則はやめて欲しい。軍隊みたいだから。(中3)
- *校則が厳しいため個性がなくなっている。(中3)
- *なぜわざわざ制服登校するのか分かりません。式など以外は生徒の自由で良いと思います。(中3)
- *靴とかを運動のものと普段のものに分ければいい。(中3)
- *高校で個性を大事にしたいというなら、校則をもっとゆるくして個性をたくさん出させて欲しい。(高1)

⑬施設・設備

- *学校を新しくして欲しい。(小4)
- *学校のトイレに毎回水が流れて欲しいです。(小4)
- *図書室をもっと大きく本の数も増やしてもっと楽しめる場にして欲しい。(小5)
- *プールがある学校がいいです。(小5)
- *学校に更衣室を作って欲しい。(小5)
- *テレビを4Kに変えて欲しい。(小5)
- *体育館に冷暖房を入れて欲しい。(小5)
- *電子黒板を取り入れて欲しい。(小5)
- *トイレが汚い。(小6)
- *机が新しいのと古いがあるので、全て新しくして欲しい。(小6)
- *トイレが汚い。からかわれるのが嫌だ。(中1)
- *どうして11月に暖房をつけないのか。(中1)
- *広くて設備が良い。(高1)
- *テニスコートの砂を増やして欲しい。(高1)
- *グラウンド整備をして欲しい。人工芝にして欲しい(石でケガをして足を縫った人がいた)。(高2)
- *横総の設備が充実していて活用の機会が沢山あるのが嬉しい。(高3)

⑭その他

- *家族と関わる(しゃべったりする)のが面倒くさい。(反抗期だと思う)学校に行くのが好きで休みの日とかはストレスがすごたまる。家にも良い事がない。悪い事、嫌な事だらけだと思う。友達と会うのが楽しみ。(小6)
- *学童を統一して欲しい。どっちも少なくなっているのなら、違う学校とくっつけるのではなく、一つに戻して欲しい。(小6)
- *男女を平等にして欲しい。(中3)
- *もっとお金を学校にくれても良いと思う。(中3)
- *横浜に住んでいるのであまり横須賀の事を知らない。(高1)
- *進路についてわからないことが多い。(高1)
- *学校に二人か三人の警備員を置いて、校門を閉めたりして不審者等が入ってくるのを防いだ方が良い。高校に入ってから防災訓練をしていないのでやった方が良い。先生の給与をもっと上げた方が良いと思う。(高1)
- *中高一貫化について詳しく教えて欲しい。(高2)

横須賀市教育アンケート報告書（学校教育編）

平成 29 年（2017 年）3 月発行

編集発行 横須賀市教育委員会事務局
教育総務部総務課（教育政策担当）
〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地
電話 046-822-9751（直通）
FAX 046-822-6849
E-mail sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp



YOKOSUKA CITY
SINCE 1907



横須賀が大好き!